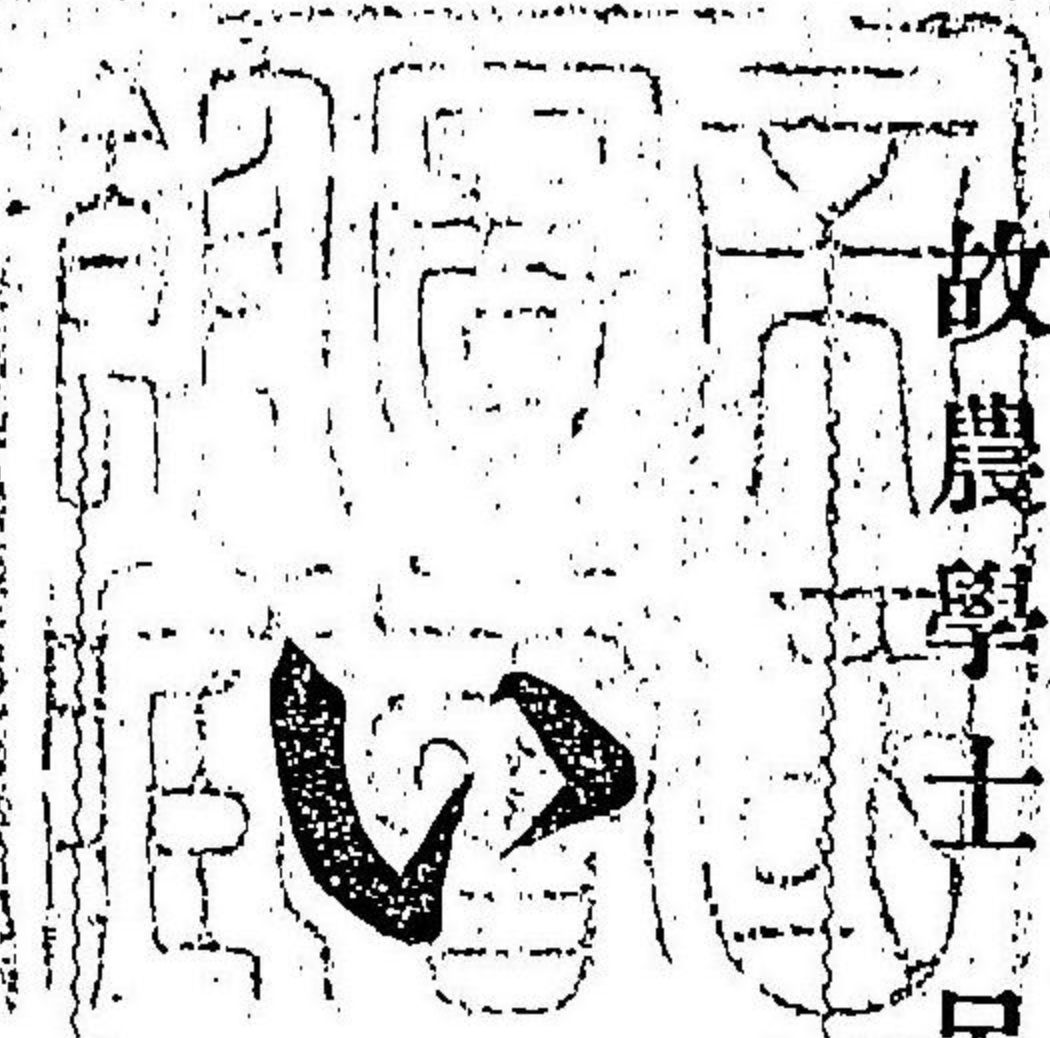


54-2  
E-5L39

64-2

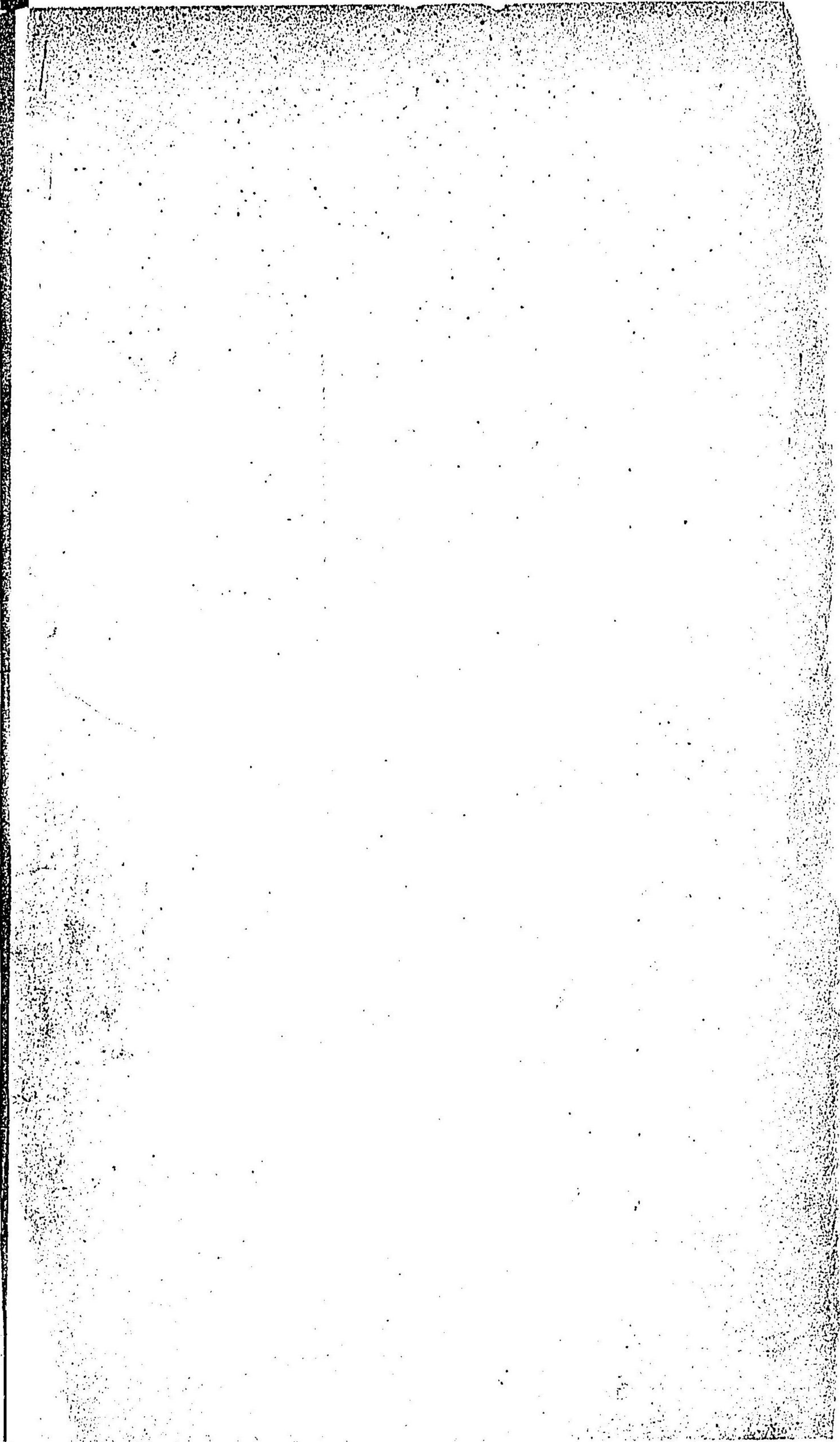
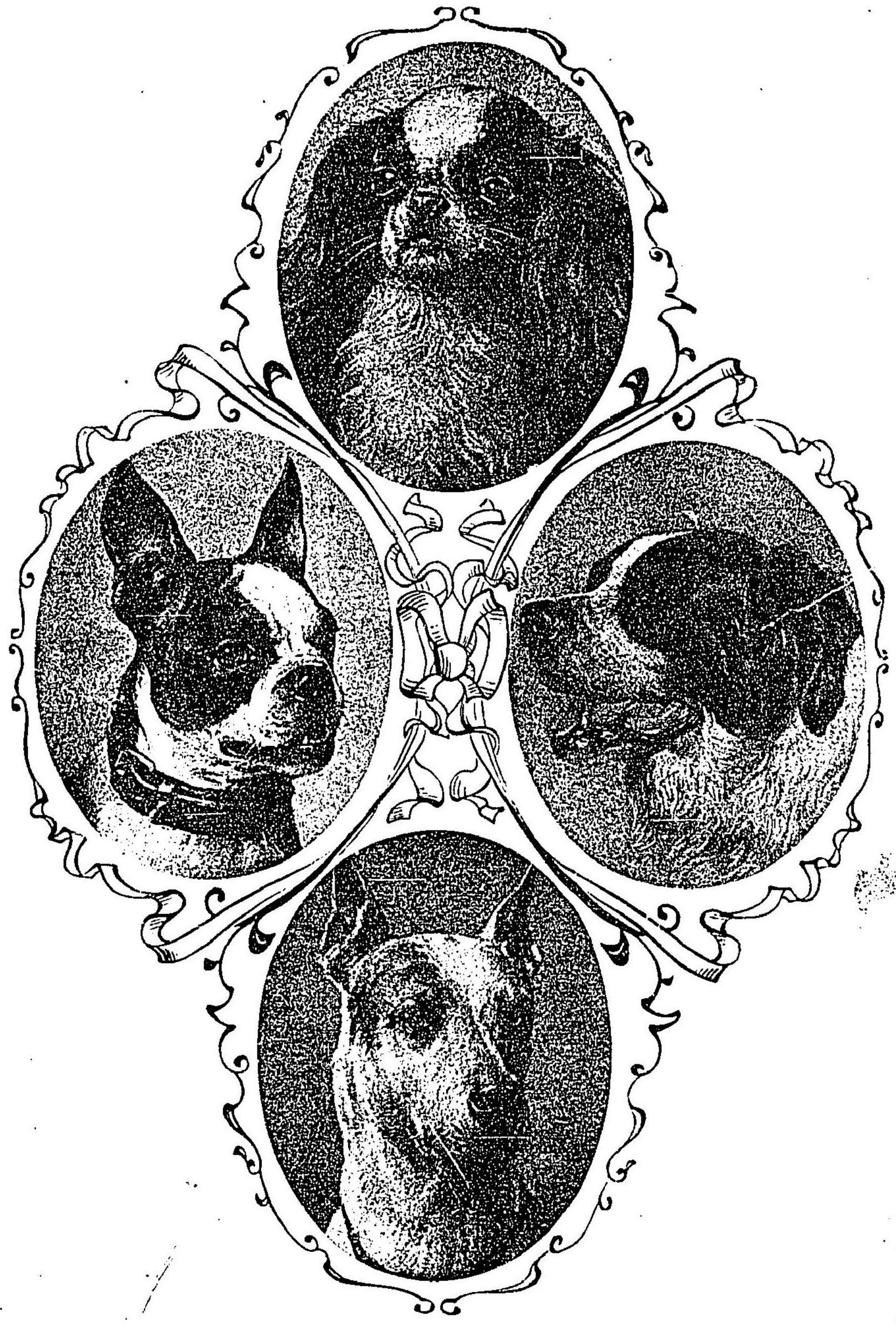


松岡前農商務大臣題字  
農學博士本田幸介序  
農學士石崎芳吉序  
故農學士足立美堅遺著

収

大日本農會發行





張

家富  
良狗

序

此編故農學士足立美堅君の遺文に係る君嘗て大學に在りて農學を研修し殊に意を畜産の事に留む其業を卒ふるに際し提出する所の論即ち是なり夫れ犬は家畜として人に愛養せられたるの歴史最古く而して又邦土の文野を問はず氣候の寒熱を論ぜず歐米の文明國よりエスキモーの蕃族に及び南洋の熱帶地より北極の寒帶地に至るまで世界人の住する處には普く蕃息分布せられ而して狩獵に軍用に挽車に又牧羊の監護に邸宅の守衛に其用亦廣しといへども君が此編を草する蓋し重を狩獵に置き君嘗て人に語りて曰く方今士氣柔惰に流れ雄武の風

君嘗て大學に在りて農學を研修し殊に意を畜産の事に留む其業を卒ふるに際し提出する所の論即ち是なり夫れ犬は家畜として人に愛養せられたるの歴史最古く而して又邦土の文野を問はず氣候の寒熱を論ぜず歐米の文明國よりエスキモーの蕃族に及び南洋の熱帶地より北極の寒帶地に至るまで世界人の住する處には普く蕃息分布せられ而して狩獵に軍用に挽車に又牧羊の監護に邸宅の守衛に其用亦廣しといへども君が此編を草する蓋し重を狩獵に置き君嘗て人に語りて曰く方今士氣柔惰に流れ雄武の風

足立美堅君著

足立美堅



序

此編故農學士足立美堅君の遺文に係る君嘗て大學に在りて農學を研修し殊に意を畜産の事に留む其業を卒ふるに際し提出する所の論即ち是なり夫れ犬は家畜として人に愛養せられたるの歴史最古く而して又邦土の文野を問はず氣候の寒熱を論ぜず歐米の文明國よりエスキモーの蕃族に及び南洋の熱帶地より北極の寒帶地に至るまで世界人の住する處には普く蕃息分布せられ而して狩獵に軍用に挽車に又牧羊の監護に邸宅の守衛に其用亦廣しといへども君が此編を草する蓋し重を狩獵に置けり君嘗て人に語りて曰く方今士氣柔情に流れ雄武の風

君嘗て大學に在りて農學を  
 足立美堅君著

足立美堅



日に益沮喪せむとす是れ邦家の爲めに甚だ憂ふべきの事に非  
ずや志あるの士深く思を此に致し宜しく士氣を作興して以て  
此弊を打破すべし願ふに狩獵の事たる小事に類すと雖も或は  
風雪を冒し或は險阻を蹈み支體を練磨して以て雄武の風を養  
成するに足るものあり然らば則ち今の時に當りて文弱の弊を  
矯正し勇敢の氣を鼓舞すべきもの狩獵に如くはなし而して犬  
の狩獵に於ける必ず之れ無かる可からざるものたり故に狩獵  
に志す者は先づ以て犬を馴養せざる可からざるは是れ君が持論  
にして此編を草するの要旨なり是を以て此編記する所其種類  
性質より愛養管理の事に至るまで説述遺すなし君が心を用ふ

る深く且遠しと云ふべし

明治三十七年君陸軍歩兵少尉を以て旅順の攻圍に参加し其十  
一月二十八日二百三高地の攻撃に際し奮闘激戦遂に敵彈に斃  
る君人と爲り濫和恬淡兵馬倥偬の間に在りと雖も常に心を農  
事に注ぎ屢信書を寄せて所見を報ず觀察周到儕輩爲に益を得  
るもの少なからず其訃音を聞くや痛惜せざる者なし頃者儕輩  
相議し此編を梓して世に公にし以て君の志を不朽に傳へんと  
す印刷成るを告ぐ乃ち其由を卷首に弁す

明治四十二年一月

農學博士 本田 幸介 識

畏友故農學士足立美堅君農學を攻斲し殊に畜犬の事に精通し嘗て業を農科大學に卒ふるに際り畜犬に關する論文を提出したりしが曩に君が陸軍歩兵少尉として日露の戦役に從ひ遼東二〇三高地に名譽の戦死を遂ぐるや其の論文は永く君が覃精の記念とはなりぬ同人深く斯の有益の論文の空しく筐底に埋没するを惜み恩師本田農學博士の發意を承け學兄八鍬學士と與に之を世に公にし汎く同好の士に頒たむことを議れり然るに時恰も博士は韓國に赴任せられ學士は海外に留學し生亦公務を帯びて米國に渡航せしを以て荏苒日を曠うし久しく其の實を擧ぐるに及ばざりしが大日本農會安藤農學士肥田源吉郎氏熱心其の勞を取られたるの結果方に同會に於て上梓頒布せらるゝに至れり

本書は元と論文體に叙述しありしものなれども讀者の便を計りて挿畫を増加して多少叙事の體裁を變じ又字句も修飾を加へたる所あるを以て或は著者の素志に副はざる無きを保せず是れ偏に生が薄識の致す所にして其の責決して尠なしとせざるなり茲に本書の成るに莅み聊か刊行の趣旨を述べて序となす

明治四十二年五月

同窓 石崎芳吉謹識

いぬ

目次

第一篇 總論	
第一章 歴史	一
第二章 繁殖	一三
第一節 個體の鑒別	一五
一、種類	一五
二、年齢	二三
三、健康	二六
四、技藝	二八
第二節 交尾	三〇



一、繁殖に適する年齢	三〇
二、發情期	三三
三、交尾の適期	三四
四、交尾度数	三五
五、交尾に關する注意	四〇
六、受胎	四二
第三節 受胎せる牝犬の飼養	四三
第三章 仔犬の飼育	四六
第一節 分娩	四六
第二節 仔犬の育養	四七
第三節 斷尾截耳及去勢等	六四

第四章 成犬の飼養	六八
第五章 犬舎	七六
第六章 用途	八四
第二編 各論	
第一章 野犬	八八
(一) ナトリヤドッグ	八八
(二) ルシヤンドッグ	八九
(三) セントドミンゴードッグ	八九
(四) デインゴ	九〇
(五) ドホール	九一
第二章 畜犬	九二

第一節 獸獵犬

- (一) グレイハウンド ..... 九三
  - (二) デ井ヤハウンド ..... 一〇三
  - (三) ブラッドハウンド ..... 一〇六
  - (四) フォクスハウンド ..... 一〇九
  - (五) ハーリヤ ..... 一一二
  - (六) ビーグル ..... 一一二
  - (七) バセットハウンド ..... 一一七
  - (八) ダックスフンド ..... 一二〇
  - (九) テーリヤ ..... 一二八
- 第二節 鳥獵犬
- (一) ポインター ..... 一四一

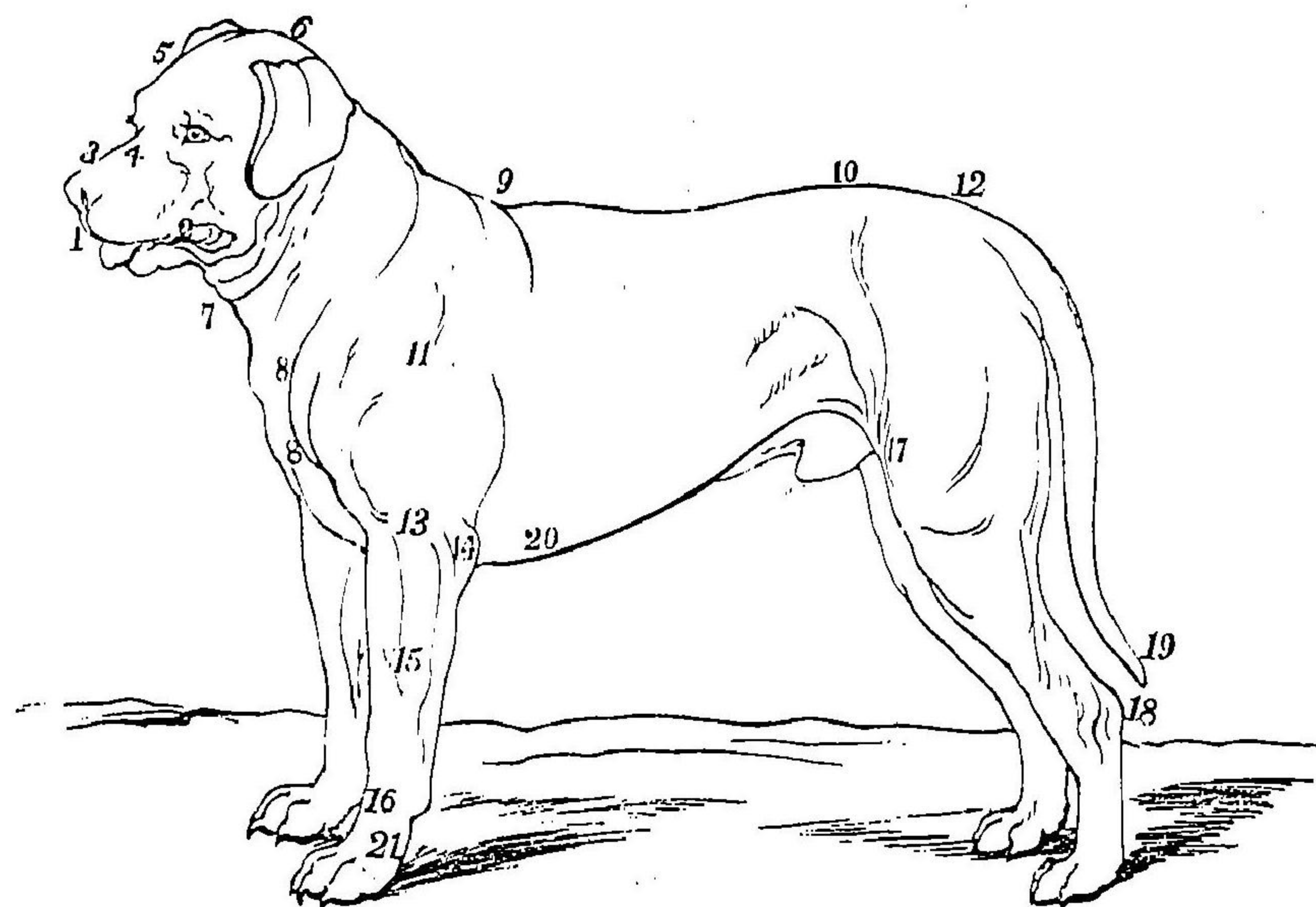
第三節 番犬

- (一) セッター ..... 一四九
  - (二) スパニエル ..... 一五七
  - (三) レトリバー ..... 一七四
  - (四) チェサピータスベイドッグ ..... 一七五
- 第三節 番犬
- (一) マステイフ ..... 一七九
  - (二) マステイフオブチベット ..... 一八二
  - (三) ブルドッグ ..... 一八二
  - (四) プードル ..... 一八五
  - (五) グリフォンドッグ ..... 一九二
  - (六) ライオンドッグ ..... 一九二
  - (七) ダルマシヤンドッグ ..... 一九三

- 。(八) グレートデーン……………一九五
  - 。(九) ニューファウンドランドドッグ……………二〇二
  - 。(十) セントバーナードドッグ……………二〇四
  - 。(十一) シェパードドッグ……………二一〇
  - 。(十二) エスキモードッグ……………二一四
  - 。(十三) 日本犬……………二一五
  - 。(十四) ポメラニヤンドッグ……………二二一
  - 。(十五) ヌートカドッグ……………二二三
- 第四節 愛玩犬……………二二三
- 。(一) ターキングレイハウンド……………二二三
  - 。(二) エジプシヤングレイハウンド……………二二三
  - 。(三) イタリヤングレイハウンド……………二三四

- 。(四) ブレンハイム及キングゲチャールススパニ  
エール……………二三五
- 。(五) 狎……………二三一
- 。(六) マルチースドッグ……………二三三
- 。(七) パッグ……………二三六
- 。(八) ベドリントンテリヤ……………二三七
- 。(九) ブルテリヤ……………二三九
- 。(十) ブラッタアンドタンテリヤ……………二四一
- 。(十一) ヨークシャーテリヤ……………二四四
- 。(十二) ダンデューデインモント……………二四六
- 。(十三) スカイテリヤ……………二四九
- 。(十四) アルコー……………二五二

# 犬體區分用語



- |              |              |
|--------------|--------------|
| (1) 鼻        | (12) 尾 根(臀端) |
| (2) 口        | (13) 膊       |
| (3) 鼻 梁      | (14) 肘       |
| (4) ストップ(顔凹) | (15) 前 膊     |
| (5) 頭 蓋      | (16) 膝       |
| (6) 後 頭      | (17) 膝 蓋     |
| (7) 胸 垂      | (18) 飛 節     |
| (8) 前 胸      | (19) 尾       |
| (9) 肩 峰      | (20) 胸       |
| (10) 臀       | (21) 踵       |
| (11) 肩 胛     |              |

いぬ目次終

(十五) メキシカン・ハヤレス・ドッグ

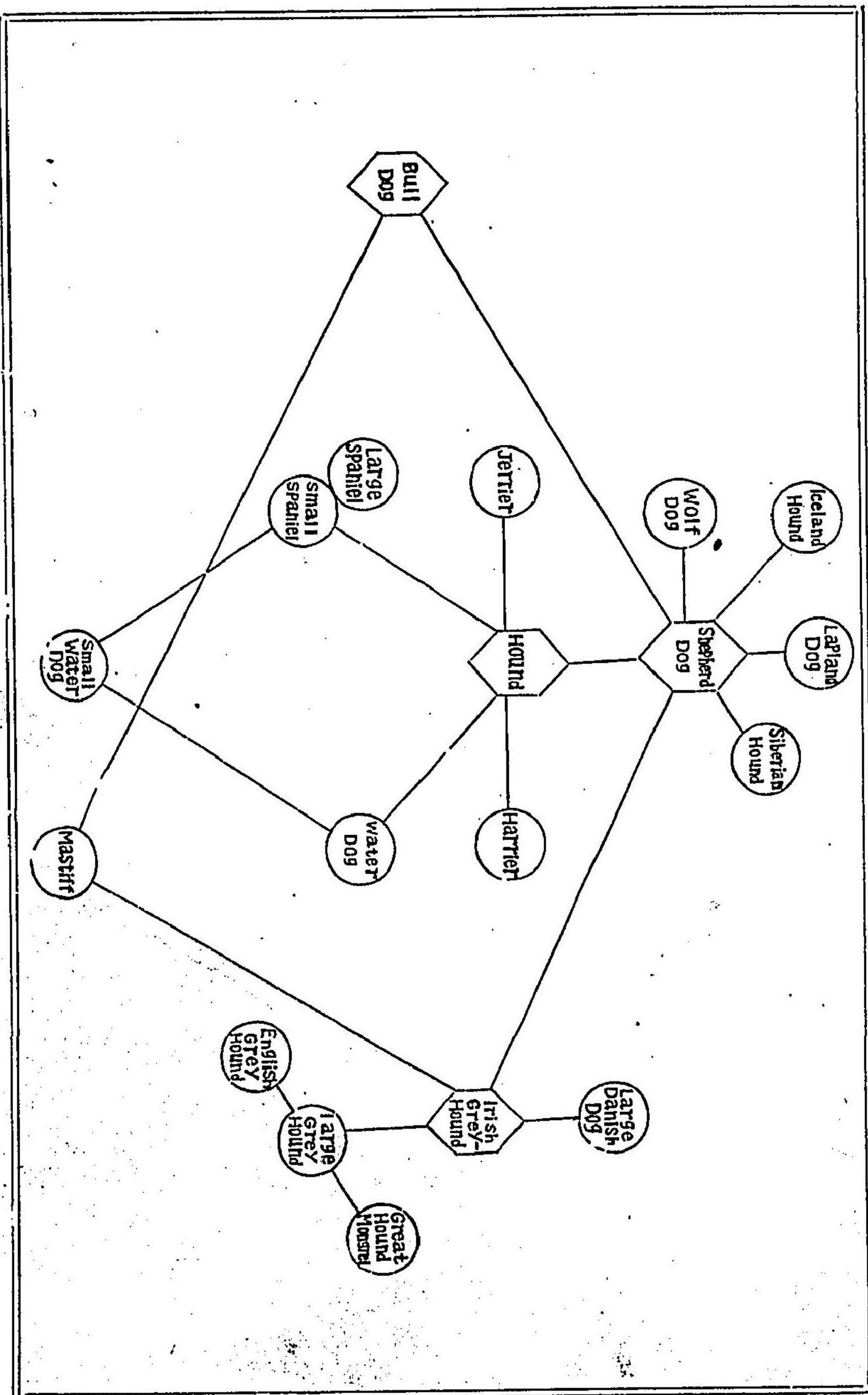
二五三



なくして或は野狐より進化したりと云ひ或は狼の馴養より來るとなし或は狐と狼の間生又は狼と「ジャッカル」(Jackal)との雜種に出づと唱ふるも何れも的確の證徴あるにあらず  
思ふに犬なる動物の一種族の祖先が狐狼若くは「ジャッカル」なるにもせよ人が之が馴養を企てし時代は蓋し原人時代漸く進みて狩獵の民と稱するの時代にして其時代には既に野犬なる一種の在るありて狩獵の補助をなさしむるの必要上之を採捕馴養したるものなることは復た疑ふべきなし狩獵の民と稱するの時代は則ち蒙昧にして人文未だ開けざるの時なり其時代に於て人類が野生の或る一種と他種とを雜種せしめて一間生種を成したりと言ふが如きは頗る信ずべからざるなり其後時代は漸く進みて牧畜の起るに及び牛馬若くは羊等を曠野

に放牧するに於て常に野獸の襲害を被ふること多かりしを以て狩獵の補助として馴養せられたりし所の犬は又家畜の護衛として用ひらるゝに至れり乃ち犬なるものゝ用途は此に別異を生じたと又一方人文の發達に伴うて其用途に適應せる性質を具ふるものを得むとして蕃殖に努むる所あり或は種々なる他種の野生動物と雜種せしめ或は他方の異なる性格を有するものと交配せしめて漸々に其種屬を増し來り天然淘汰と人為淘汰の支配を受けて遂に今日の如き數十種の犬種を生ぜしものならむなり

佛國の碩儒ブフォン氏(Buffon)は護羊犬の一種を以て今日の犬の祖先とし現今の犬の各種は皆共に此種より起りたるものなりとて左の如き想像的の系統圖式を示せり



然るに之を歴史に徴するに埃及王朝の第十二代より第十四代に至るの期間則ち紀元前三千四百年より二千年に至るの間に建設せられたる墓碑、記念碑等の彫像或は壁畫等の中には種々の形の犬を描出せられたるが其犬の體貌は大體相類似し今日の「グレイハウンド」(Grey hound)の如く尖りたる頭と短曲せる尾とを有したり而して紀元前二千年代のものにおいては描出せらるゝ犬の形貌多少異なり來りて其耳は垂れ脰長くして鼻は尖れり又アッシリヤ(Assyria)に存する紀元前六百四十年頃の建設に係る記念碑には「マステイフ」(Mastiff)犬の雄姿を彫刻せるものあり又瑞西國リュテマイヤー博士(Prof. Rühmeyer)は「ネオリシック」(Neolithic)時代に土中より發見せる犬の頭骨により同國には同時代に既に中等犬の犬種飼養せられたるを證し居れり則ち此頭

骨は其形状狼「ジャッカル」等のものと大に異なり今日の「セッター」(Setter)スバニエール(Spaniel)等のものに類似せりと云ふ尙同氏は同國及丁抹國の青銅時代(Bronze age)には大形の犬の種類存せしことを唱へ居れり此他種々の記録を按ずるに往昔希臘には既に犬の種類多く成出し希臘人により命名せられたるもの亦十數種あり

ゴルトン(Galton)の言に依れば野蠻人は頗る野獸を馴養することを好みて種々野獸類の馴養を試みたりしなり蓋し未だ人跡なきの境に栖息する野獸は人を見るも之を怖るゝの念慮毫末もなく却て之を珍奇なりとするものゝ如く人に近づき來るを以て之を捕へて參養すること亦難事ならざるなり嘗てフアルクランド(Falkland)島の發見に際し其島に栖息したりし狼に似

たる一種の野犬なる「カニスオータロテックス」(Canis Antarticus)が未だ曾て人類を見たることなきにも拘はらず恐怖するの状もなく「バイロン」號の水夫の傍に馴れ近づき來りしと云ひアラル(Aral)海中の一島が「バットコッフ」(Butakoff)により發見せられしの時彼の危懼心に富みて四顧驚々人を見れば必ず遁逃する所の「ソイガックアンテロープ」(Soigak Antelope)が人に怖るゝの状なきのみか却て人を奇なる動物なりとせるかの如く徐に停立して凝視したりしには人皆奇異の感をなしたりと云ひ又はは禽類につきての談なれどもガラパゴス群島(Galapagos Islands)中の或る島にて樹枝に靜止したりし一鷹は銃身の觸るゝまで人の近寄るに任せたりと云へり

亞米利加印度人は犬を愛用すること甚しく隨うて之につきて



趣味を有することも亦深く或る者は數代馴養したりし犬と狼とを交配雜種して前者より遙に勇敢なる一種類を造り出し又ギアナ(Guiana)の蠻民は野犬の仔犬二頭を捕へ來りて馴用したりと云ふ又フリップ王(King Philip)の報告に依れば澳大利の蠻人は家畜を保護するに「ディンゴ」(Dingo)なる野犬の仔犬を馴養して多くの利益を收め得たりと云へり

リチャードソン (Richardson) の言に依れば北米印度人の飼養する犬は狼に酷似し其差異の點は甚些々にして印度人にして時に或は之が甄別を誤ることありと云ふ又北部エスキモーの犬(Esquimaux dog)は北海地方に産する灰色の狼に較べて其形貌其毛色は異なれども性質兇猛にして人に馴れず飢餓に逼るや其飼養主をも咬嚼して忽ちに野生の性狀に復すと云ふ

新世界のコロンブス(Columbus)により發見せらるゝや西印度に形體の異なる二種の犬の存在したりしと云ひフアデナンド(Ferdinand)は墨西哥には歐洲との交通以前に於て既に三種の犬ありたりと云ひブフホン(Buffon)氏はギアナの土人は其飼養犬と野生犬とを雜種せしめて新一犬種を作したりと云ひ又サーアールシヨムバーク(Sir R. Schomburgk)の報告にも同じくアラウワク(Arawak)の印度人の飼ふ所の犬は其海岸附近のものは前のブフホンの報告にある野生犬即ち「カニスカンクリヴァルス」(Canis Cancrivarus)に類して狩獵に用ひられタルマ(Talna)印度人の飼ふ所の犬はセントドミンゴー(St. Domingo)グレイハウンド(Greyhound)に似たりといふ之を要するにギアナ(Guiana)には此二種の犬ありて北部亞米利加及エスキモー(Esquimaux)の狼とは全然相

異なるものなりしが如し

歐羅巴大陸に於ける或る犬種は狼に似たるものあり又匈牙利の平原に於ける護羊犬も亦狼に類し伊太利の羊犬も昔時にありては大に狼に相似たる所のものありたりと云ふ

犬と狼との兩者の間に一定の差異を發見することは難事にして其習性の如き亦能く類似せり而して又犬と「ジャッカル」を比するに「ジャッカル」は養主の呼聲に應じ其尾を掉り或は養主の手を嘗めて馴れ懐き而して他の犬を見れば近寄り其尾下に就きて嗅くことをなし其馳驅するに當り所々に尿を排すと云へり亞細亞埃及に於ける犬の或る種類は非常に「ジャッカル」に相似たるものあり

犬と狼との雜種は四代を経るも尙互に繁殖し得るの實例あり

といへり然るにエム、フローレンス氏(M. Florens)の經驗に依れば狼と犬との雜種は三代目までは近親蕃殖により互に繁殖し得るも其後は受胎せず又匈牙利犬の狀貌歐羅巴の狼に類せるものは相互に雜種し得べく印度の「ハリーヤ」(Harier)なる犬は同地の狼若くは「ジャッカル」と雜種し得ると云ふ

犬の吠聲は家に飼養せるものは一種の音聲を發し若し一たび家を去りて野生の境遇に入るごきは直に吠ゆることを遺忘し再び飼養せらるゝや吠ゆること亦前日の如くなりと云ふ又マッケンジー河(R. Mackenzie)の近傍に産する一種の野犬にして「カニストラトゥス」(Canis Latrans)に似たる狀貌を有し未だ曾て吠へしことなきものが一たび人に飼養せられ且英國に持來られて動物園に繋がるゝや普通の犬の如き音聲を以て吠ゆるに至りし

と云ふ

以上諸種の研究及經驗に徴すればダーウイン(Darwin)の謂へるが如く今日の犬種は「カニスラップス」(Canis Lupus)及「カニスラトラウス」なる二種の狼と其他の異なりたる歐洲印度北部亞弗利加の狼及一二の南亞米利加の犬族及今は既に滅絶したりし「ジャッカル」の一二の種類より遞次進化し來りしならむ未だ人跡無かりし地に人の創めて到るありて野犬を見出したるの記録等あるを事實とすれば人が犬を家畜となせる以前否人類が未だ世界に普く棲息するに至らざりし以前に既に犬なる一の種類の世界を通じて存在しありしことは復た疑ふべからざるが如し

## 第二章 繁殖

夫れ生物の生存は繁殖に由り子々孫々相傳へて茲に種族の滅絶せざることを得るなり

犬の繁殖上彼の遺傳説の適用せらるゝことは他の家畜と異ならず而して近親交配の是非に就きては或は近親交配は其形態を頽變せしめ其性質を劣等ならしむと云ひ或は否らずとして各世代遠き同種のものゝ交配せしむるを以て可なりとなし或は常に近親交配に由るも敢て妨げずと云ひ或は一回の近親交配に次ぐに二回の同種交配を以てし第四回に至りて又近親交配を行はしむべしと云ひ遂に一定せる確論あるなし願ふに今日の如き變種の多數なるは蓋し往昔種々のものと雜種して他

種の状貌性質の幾分を分賦し得又は其同種中に於ても時に状貌性質の異なるものを生ずるあり夫れが人の望む所の標的に近き形質を有するに至るには必ずや十數回若くは幾十回の近親交配によりて其形質を固定せしめざるべからず斯くして茲に一種類を成し一種類出て一變種成り遂に今日の如き數多の變種を見るに至れるなり故に形質の固定に關しては近親交配は必ず之を行はざるべからざるなり然らば則ち近親交配も亦決して排すべきのことにあらずして之を行ふに依て却りて其血統の正純を保持するを得べきなり而して時々同種交配或は稍々遠き近親交配を行へば可なり敢て何回目には必ず同種交配を行ふべしと云ふが如き規律的に交配をなさしむるの必要を見ざるなり

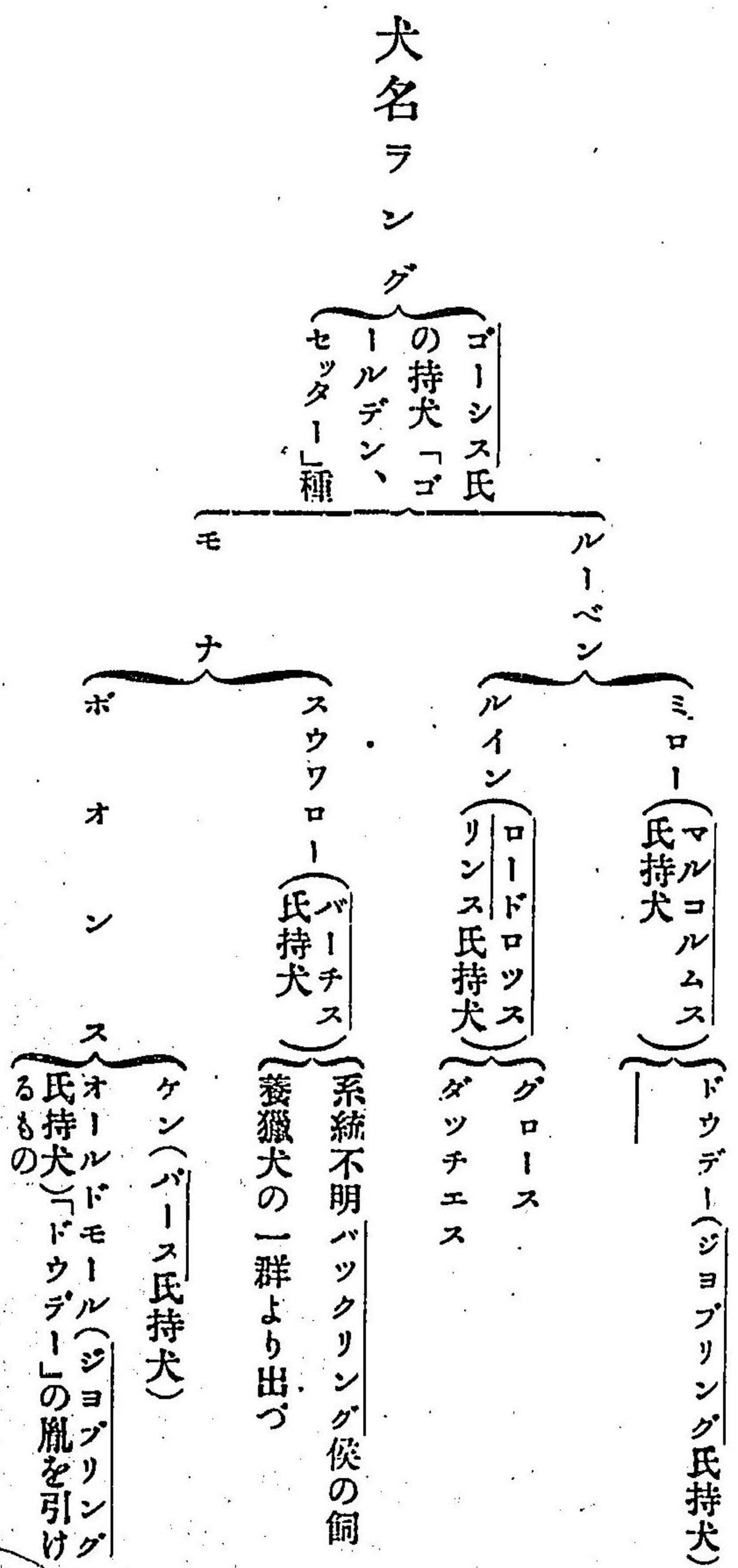
### 第一節 個體の鑒別

凡そ繁殖に關して最注意すべきは繁殖に用ゆべき個體が果して自己の要望する條件に適合するや否を甄別する事是なり詳しく言へば其個體は自己の欲する種類の正統なるものなりや否其種類に特有なる骨格形態を有するや否其年齢は如何其健康は如何其性質は如何其調教上の知能は如何等を鑒識判定するを要す左に聊か其鑒査方の要項につきて述ぶる所あらむ

#### 一、種類

種類の正否を判定せむとするには第一に血統を正し次に個體の状貌に徴して之を評定すべきなり  
血統の正否を知らむとするには血統書に憑據せざるべからず

歐米各國にては各犬種につきて俱樂部の組織あり其俱樂部に於ける簿籍の登記によりて血統書を交付せらるゝことゝなり居れり今其血統書の最簡單なるものを示せば



骨格形貌に關しては各種異なる所あるを以て一律に評隲し難し故に是等の詳細は各論に於て之を説述すべし併ながら犬は生後六ヶ月までは著しき發育をなすものなるを以て後來繁殖用に供せむとするの仔犬を撰擇するに當り六ヶ月以内のものにありては餘程熟練の眼識を有するにあらざれば未來に於ける成長固定の狀貌は豫想し能はざるなり  
犬の骨格體長等につきては各種特有の適恰なる比準あり一例として護羊犬の良好なる體格を有するものゝ體尺を示せば左の如し

護羊犬 (Sheep Dog)

鼻梁 (Tip of nose to Stop)

後頭まで (Stop to Occiput)

3 5/8  
# 1  
4 1/2  
# 2

脊の長さ	(Length of Back)	19
口部の周徑	(Girth of Muzzle)	10
頭蓋の周徑	(Girth of Skull)	15
頸の周徑	(Girth of Neck)	14 $\frac{1}{2}$
前胸の周徑	( " " Brisket)	26
肩部の廣さ	(Girth round Shoulders)	25
腰圍	(Girth of Loin)	21
膝蓋の廣さ	(Girth of Hind leg at Stifle joints)	11
膊の廣さ	(Girth of Fore Arm)	6
踵の周徑	(Girth round Pastern)	4
肩峰の高さ	(Height of Top Shoulders)	20
肘の高さ	(Height of Elbow)	10 $\frac{1}{5}$

腰の高さ (Height of Loins) 20  
 飛節の高さ (Height of Hock) 6  
 尾の長さ (Length of Tail) 20

前掲する所は單に一例を挙げたるに過ぎずして或は其人の見  
 る所に依り或は俱樂部の規定に依り又其種類に依りて測定法  
 を異にするものなきにあらざれども大體前掲を標準として大  
 差なかるべし

次に形態の良否を鑒別するに尺度に依る等のことをなさず只  
 自己の眼識を以て外觀的評定をなすことあり此場合に於て近  
 頃は牛馬と同じく附點検査法を採用するに至れり然れども人  
 により俱樂部により又犬の種類により其附點すべき局部につ  
 きても差あるのみならず又同局部に於ても其點數を異にす今

一二の例を茲に掲ぐべし

「イングリッシュセッター」の附點表 (Point for English Setter)

頭	(Head)	一〇點
肩及頸	(Shoulder and Neck)	五點
眼及耳	(Eyes and Ears)	五點
胸及體軀	(Body and Chest)	一〇點
腰及膝蓋	(Loins and Stifles)	五點
脚及肢	(Legs and Feet)	五點
皮及毛	(Coat and Feather)	五點
外貌	(General appearance)	五點
合計		五〇點

尙別種類のものゝ附點表を示せば左の如し

護羊犬附點表 (Points for Sheep Dog)

頭	(Head)	一五點
耳	(Ears)	一〇點
皮	(Coat)	一五點
胸	(Chest)	一〇點
肩	(Shoulder)	一〇點
腰	(Loins)	一五點
肢	(Feet)	五點
脚	(Legs)	一〇點
毛色	(Colour)	五點
尾	(Tail)	五點
合計		一〇〇點

同じく護羊犬にありても他の俱樂部に於ける評點は左の如きものあり

頭及容姿 (Head and Expression)	一五點
耳 (Ears)	一〇點
頸及肩 (Neck and Shoulder)	一〇點
脚及肢 (Legs and Feet)	一五點
後體部 (Hind Quarter)	一〇點
背及腰 (Back and Loin)	一〇點
毛並 (Brush)	五點
皮膚 (Coat with full)	二〇點
大きさ (Size)	五點
合計	一〇〇點

二年齡

年齡を識別するには一般の外觀及齒牙磨損の度によりて之を爲す

外觀に於て犬の老年に達せるものは體の毛色光澤を失し眼光鈍く多くは口邊に白毛を生ぜり其他舉動に於ても頗る不活潑なり幼若又は壯齡のものは之に反して體毛は光澤を有し眼光は鋭く舉止亦快活なりとす

從來齒牙を以て略々犬の年齡を知るの標準となせり犬の齒は其總數四十二枚にして其排列は左の如くなり

上臼齒	3.	3.	下臼齒	1.	1.
上犬齒	4.	4.	下犬齒	1.	1.
上門齒	4.	4.	下門齒	2.	2.
上小臼齒	4.	4.	下小臼齒	3.	3.

是等の齒牙は生後大抵二三週間にして生出し而して初めの生



齒は所謂乳齒にして其後に至り抜け換りて永久齒を生ず  
 前齒は生後二ヶ月乃至五ヶ月の間に、牙齒は同四ヶ月半乃至六  
 ヶ月の間に、前臼齒及び臼齒は五六ヶ月乃至七八ヶ月の間に脱  
 換す即ち發育の遲速により多少の差あるも約そ二三ヶ月より  
 遅くも九ヶ月までには皆脱換し終るなり故に仔犬は其齒の發  
 生何如により其生後經過の月數を算知することを得而して其  
 年經たるものは齒の磨滅の度合を見て其年齢を判知すべしと  
 いへども是は多年經驗上自然の會心に基くものにして其磨損  
 の程度は食物の良否硬軟等により差異あるを以て一定の標準  
 によりて年齢を確知することは至難の事なりとす嘗て農科大  
 學獸醫科病院に東京淺草の商家某が治療を請ひ來りし一頭の  
 牝犬の如き既に十餘歳のものなりといふにも拘はらず其齒牙

の磨滅は普通二歳位のもの、程度に過ぎざるを以て大に訝り  
 つゝ試に其飼料は如何なるものを與へ來りしかを問ひしに生  
 後今日に至るまで牛乳及「ビスケット」を以て飼養せりと云ひき食  
 物の硬軟によりて其磨滅の程度に此の如く差異を來すものな  
 ることを知るべし

犬の齒は生後三歳位までは其面純白なれども其以後は齒根に  
 酒石の堆積あるを普通とす

ドクトル、エーレンベルグ(Dr. Ellenberger)の言によれば切齒は  
 四五年にして其先端磨銷して平かとなり、臼齒は其磨滅の度定  
 まりなきも最高かりし部が最後まで殘存するものなり、切齒は  
 八歳乃至十歳にして小となり往々纔に斷片の殘存するを見る、  
 十歳乃至十二歳にして齒の先端銷失し更に老年となれば初め

に前臼齒脱落し切齒も漸々に脱落し去るなりと  
 犬の年齒を識別するは寔に至難なるも今日にありて他に之を  
 識別すべきの良法なければ普通に如上の方法を採用せり

### 三、健康

健康何如を鑒別するは最緊要の事にして之を鑒別するには先  
 づ外觀を以てすべし第一健康體のものは舉動概ね活潑にして  
 毛色光澤を有す蓋し毛色の光澤を有するは皮膚より分泌せる  
 脂肪の浸潤によるものなれば體毛の光澤あるは皮膚の新陳代  
 謝の盛なるを證するなり第二に體毛の觸感を試むべし體毛に  
 手を觸れて其軟かなるべきの種類にして若しも硬枯の感あら  
 ば是れ病的の徵證なり是は前述する體毛對皮膚の關係により  
 推理し得べきなり第三は鼻端の潤うて光澤あるは則ち健康體

なり鼻端の潤へるは皮膚の脂肪の分泌によるものにして犬は  
 疾病若くは飢餓等少しにても身體に異常あれば直に鼻端の乾  
 燥を來すものなれば鼻端の潤燥を検して以て容易に其健否を  
 知るを得べし第四に眼部を検すべし健康體の犬の眼は清透な  
 るものなり若しも眼瞼を開き見て充血せるあらば則ち病兆な  
 りと知るべし第五に耳を検すべし耳に手を觸れて其冷かなる  
 は即ち健康體なり第六に口唇を少しく開きて齒を検すべし其  
 純白なるは健康體にして其表面に黄色のもの、附着せるは病  
 體なり第七に肢脚の内側腹部に近き處に手を入れて脈搏を検  
 すべし健康體のものは平均一分時の脈搏約八十内外なり其脈  
 搏の間歇あるものは多くは心臓又は肺臓の病患あるものと知  
 るべし

一般に健康なる犬は其安息せる時に於ては腹部の張縮なく而して人の近づき名を呼ぶが如きことあれば必ず急に體を起し來つて眼を開き四方に注視し頗る快活の狀をなすものなり若しも其舉動にして不活潑ならば則ち病患あるの徴證なり

#### 四、技藝

知能の發達せるものは技藝も亦自ら優逸なり故に技藝の優逸なるは則ち知能の發達を證せるものなり而して知能の能く發達したるものゝ子孫は又概ね伶俐なりとす然らば如何なる目的を以て飼養するにもせよ個體の撰擇につきては必ず其調教上の知能、技藝の如何を考査するを要す而して之を爲すには成るべく自然に起るべきの事柄及方法を考慮し是迄の飼養主をして之を試ましむべし然らざれば飼養主にあらざる新面の人

の命令には多くは服従せざるものなればなり  
歐米諸國にありては犬の品評會の開設あり品評會の評査に於て其技藝に對しても亦附點法を採用することあり其一例を示せば左の如し

優良なる「ポインター」の評點 (Value of Pointers with perfect)

- 嗅覺 (Nose) 三〇點
- 獵時の歩様及姿勢 (Pace and Style of Hunting) 二〇點
- 突飛搏撃 (Breaking) 二〇點
- 指示(姿勢及持久) (Pointing((Style and Steadiness))) 一五點
- 退方 (Backing) 一〇點
- 捕獲物の運び方 (Dropping and Rounding) 五點
- 合計 一〇〇點

技藝の如何を考査することは繁殖用としての撰擇に於て必要なるは言ふまでもなく普通の賣買讓與等にありても前掲の諸點の如き十分に之を考査せざるべからざるなり

## 第二節 交尾

### 一、繁殖に適する年齢

善良なる仔犬を得むと欲せば宜しく繁殖に供すべき適齡のものを擇ばざるべからず若しも牝牝の年齢未だ幼弱にして體軀の發育完成せざるものを繁殖に供せむか牡犬の雄精の活力未だ盛ならず牝犬の卵細胞は好し發育せりとするも胎仔に輸送せらるべき營養分は母體の發育に消耗せらるゝものあるが爲に胎兒の發育充分ならざるのみならず生後亦虛弱なるを免か

れず而して母犬も發育に必要な養分の幾分を仔犬に攝取せらるゝが爲に分娩後の衰弱を來し隨て泌乳の量を減じて仔犬の營養亦充分なるを得ず此の如くして母仔共に健康なる能はざるに終るものなり而して又既に老年に達したる母犬と其産仔との關係も亦略之と相似たるものなり然らば繁殖に供すべきの適齡如何と言はゞ母體が完全なる發育を遂げ成熟したるの後に始まり老年に及ぶの以前に於て止むべきなり而して其發育成熟の時期は各個體により自ら差異あるを免かれざれども一般に牝牝共に形體の大なる種類は成熟の期遅く形體小なるものは速かなり例へば「マスティフ」(Mastiff)「ブルドッグ」(Bull-dog)の如きは生後滿二ケ年「ポインター」(Pointer)「セッター」(Setter)等は同じく一年三ケ月より一年六ケ月の後に體の諸部成熟の期に達すべく、

「テリヤ」其他小形種の「トイドッグ」(Toy dog)の如きは生後一年にして充分の發育を遂ぐるものなり、されば平均生後二ケ年を経ば概ね繁殖用に適するに至るべし、而して其繁殖に供し得べきの年期何如は犬の生存命數に見て定むべきのことなるが、其生存命數は個體により一定せざること猶ほ他動物と異ならずして或は五六年にして生を終ふるものあり(是よりも早死するものも亦之あり)或は十四五歳稀に二十歳にも達するものあれども犬の生存命數は平均十歳前後となせり故に生後二ケ年より六七歳までの間即ち四五年間を以て繁殖用に供すべきの適期とすべし七歳以後にても發情の閉止するものにあらずれども善良健全なるの仔犬を得むと欲せば七八歳後のものは之を繁殖の用に供せざるを可とす

## 二、發情期

牡犬は他の動物と同じく常に發情して一定の時期を限りて間歇することなし

牝犬は生後八九ヶ月より十ヶ月にして發情し其後一年に二回發情するを普通となす其期間に於て適好に交尾をなさしむれば大抵發情止み其儘受胎し次の發情期までは發情せざるを常とす然れども若し受胎せざれば再び發情するものにして早きは二週日なれども一ヶ月以内には大抵發情す發情期間は第一回は稍長くして凡そ十六七日間、第二回以後は平均十日前後にして遅くも十四日の後には發情の歇まるを見るべし

發情期の状態は平素靜穩なるものも其狀常ならずして喧噪怒號し其吠聲濁り或は犬舎の床を爪を以て搔き鳴して不穩の動

作をなし陰門は尾邊に近く釣り上り陰唇膨隆且紅潮し又赤色の粘液若くは血液を漏出す

### 三、交尾の適期

牝期中何れの時期に於て交尾せしむるを適可となすかにつきては飼犬家各其説を異にし或は發情の初に於て交尾せしむるを可なりとなし或は退情期に於てするを良しとなす然れども余は其中間を以て適期なりと主張するものなり何となれば發情期の初めに當りてや卵細胞の未だ能く卵巢より下降し來らざるが故に此時に於て交尾せしむるも多くは雄精の妙用を徒爾たらしめ又退情期に於て交尾せしめむか其卵細胞の多分は既に體外に逸出し去りて是亦雄精を受け得ざるものあり故に其中間即ち發情後五日目の頃に於て可當の度數、適應の交尾を

行はしむるを以て宜しとすべし

### 四、交尾度數

世には自家飼養する所の牝犬にして其種類純粹に且體格善良ならむか成るべく多數の仔犬を舉げ得て鉅額の利益を獲得せんとして往々一回の發情期間に於て過多の交尾を爲さしむるものあるを見る此の如きは眼前の射利に眩迷するものにして多きを貪らむとして却て損を招くものなり少數の胎兒ならば母體に於ける營養充分なるを得むも多數の胎兒に對しては母體に於ける營養も各個に遍滿なる能はず從て胎内にありての發育既に完全ならず生後亦虛弱を免かれず人あり言ふ若し然るならば滋養豊富なる食餌を充分に母體に與へて其足らざるを補はゞ則ち可ならむと是れ一理あるが如しと雖ども動物體

の消化機能には一定限度のあるありて如何に滋味なる多量数の食物を食ふも悉く消化營養し得るものにあらず且吸収力にも自ら限あるが故に此の如くなすとも其目的を達し能はざるのみならず却て消化機能を障害するの恐あり好し母犬の胎内にありて多数の仔兒を完全に發育せしめ得たりとするも母體の衰弱を如何にせむ將た分娩時の苦難延いては母犬の致死若くは母仔の共斃を見ることあるを如何にせむ好し又分娩は幸に安全なりしとするも其母犬にして多数の仔犬を養ふに足るべき乳汁を分泌せざらむか乳母犬を求むるか又は人手を以て牛乳育養を施さざるべからず乳母犬を求むるは至難事にして牛乳を以て育養することも亦容易の事ならず究竟生仔の幾何を飢死せしむるか又は遺棄するに至らむ若し然る徒に母犬を

苦ましめしのみにして其得る所や鮮なし多仔を得むとするもの、結果は偶其愚を人に笑はるゝに止らむ

胎兒牝牡の形成に關しては未だ確的の定説なく又交尾の回数對卵細胞受胎個數等の理未だ明確ならざれども多くの經驗に據れば假令一回なりとも適時に可當の交尾をなさしむるときは能く五六頭の妊孕を見ることあり又十數回の交尾をなさしむるも漸く二三頭の孕仔に過ぎざることあり甚しきは二三十回の交尾をなさしめて全く妊孕せざることあり此の如く胎兒の數は人爲を以て左右し能はざれども其交尾の結果をして確實ならしむることは其幾分までは不可能ならざるなり牝牡共に身體強健にして卵細胞の發育充分に雄精の活力強盛にして且生殖器の整形を失せざるものならむには交尾その適期を過

まらざるに於ては一回の交尾にして充分の好果を得らるべきなり而して猶ほ妊孕せざらむかを懸念せば尙ほ一回交尾せしめ置くを可とす此場合に於て第一回と第二回との間隔の時數につきては或は十二時間を以てして可なりとし或は二十四時間を隔つべしと云ひ或は三十六時間より四十八時間を経過せしむべしと云ふものあれども余は二十四時説を採るものなり何となれば犬の卵細胞の卵巢より下降するは凡そ二十四時間毎に於てするを以て第一回交尾後二十四時間を隔て、第二回の交尾をなさしむるときは第一回の交尾或は不結果なりしとするも第二回の交尾に於て結果を收むる確實なるものあるべければなり

牝犬は時季を問はずして常に蕃殖に用ひ得べし然れども交尾

せしむること餘りに過度なれば健康を害するなり歐米に於ける研究に據れば一年間に十五回乃至二十回は蕃殖に用ひ得べしとなせり

番犬の牝の如き之を蕃殖に用ゆれば大に其能力を薄弱ならしむと言ふ者あれども蕃殖に用ゆること適度に而も其回數を少なからしむる様になさば決して些の害あるを見ざるなり全く蕃殖に用ひざるこそ却て發狂其他の疾病を惹き起すことあれば宜しく注意して其度を過まらざるやうになすべきなり

牝犬は一年二回の發情期あるも毎回交尾せしめず一回を隔てて受胎せしむるやうにせば自ら其健康を保持し得べし尤發情期に交尾せしめざるか又は流産をなせし等の場合には二週間乃至四週間にして再び發情するものなるが余が一回を隔つべ



しと言ふものは夫等不時に来るものを謂ふにあらずして定期の發情期につきて之を言ふなり換言すれば一ヶ年に一度交尾受胎せしむるを以て適可となす

#### 五、交尾に關する注意

犬種により他種との交尾を嫌厭し或は異種類との交尾を好喜するものあり例へば墨西哥の「アルコー」(Alco)種の如きは他種の犬と交尾するを嫌ひ、パラグエー (Paraguai) の在來種なる無毛犬 (Hairless dog) は歐洲種の犬と交尾するを厭ひ又獨逸の「スピツ」(Spitz dog) 犬は他種との交尾を避けて却て好んで野狐と交尾し「ディンゴ」(Dingo) の如きも野狐と交尾するを喜ぶと云ふ而して又同種のものにても交尾に際し一種の忌避所謂毛嫌ひをなすものも少なからず是等を避け且交尾の結果を充分ならしめ

むとには左記の點に注意するを要す

- 一 交尾の數日前より蛋白質に富みたる飼料を與へ且交尾に際し數時間前に於て二三時間の運動をなさしむべし
- 一 交尾をなさしむるの以前に於て發情期にある牝犬を柵内に容れ之に近接して姿を見得る處に牝犬を繫留し置き其發情をして熾ならしめて後に交尾せしめ交尾後は直に元の如く繫ぎ置きて二十四時間を経たる後に再び交尾せしむべし

此二點に注意せば交尾を嫌厭するの情癢を矯め且交尾の好果を收め得らるべきなり

牝犬一回の發情期中に數頭の牡犬を配するは最之を忌む何となれば種類の異なるもの又は形體の差ある牡犬を配すると

きは母犬の胎内に於ける仔畜の發育に不同を來し隨て大小の差異を生じて俱に共に虚弱性となればなり然らば則ち同種にして形體の大抵相均しきものを以て配するを可とす且一回の發情期間に於ては一頭を限り配するを良しとす

### 六 受胎

受胎したるや否の判定は經驗ある飼犬家も之を難しとする所なるが一般の徵候を擧ぐれば受胎したるものは交尾終りてより三日も経れば其牝犬の發情は退衰して假令牝犬の接するところあるも之を嫌ひ或は咬嚼して拒避するに至る若し否らざるものは受胎せざるものなり又受胎せざるものは大抵二週間より四週間内に再び發情期到るものなるが若し然らざるものは既に受胎せるなり之を要するに交尾後一ヶ月を経ざれば受胎否

を確知すること難しとす一ヶ月を経過せば受胎せるものは稍腹部の膨脹を認め得らるゝに至り手を以て胸骨より稍後肢に近き腹部を摩するときは瘤塊の如きものゝ觸るゝを覺知し得べく且乳頭の周圍にある乳靜脈には靜脈血充盈し來りて紫斑を點し又一ヶ月半も經過するに於ては腹部の膨脹は彌顯然として乳房は益大となり從て運動自ら不活潑の狀を呈し來り常に臥伏して呼吸の度數を増し脈搏大に進みて常體よりは二十位も多きを數へらる此の如くなれば分娩期の漸く切迫せるものと知るべし

### 第三節 受胎せる牝犬の飼養

牝犬既に受胎せることを認めば特に其管理を懇にし食物は滋

養分に富みて容積の少なきものを與へ平常一回與へ來りしものは二回となし二回與へ來りしものは三回となし而して成るべく一時に胃の擴大するものを與ふるを避くべし急激に胃を擴大せしむるときは胎兒に障礙を及ぼし甚しきに至りては流産することあり假令流産せざるも胎兒の發育を害すべければ成るべく數回に分食せしむる様になすべし

犬舎は常時よりも殊に清潔にし寒冷の候にありては犬をして寒氣に感せざらしむる様敷藁を増し日中は之を取り出して日光に曝し而して犬を繋ぎ置くには成るべく日當りの良き處を撰びて暖を取らしむべし又夏日炎熱の候は犬舎を清涼にして風通しの良き處に移し日中は樹蔭等にて太陽の直射を受けず而して濕潤ならず風通し良き場所を撰びて繋留し分娩時に近

かば夏時と雖も犬舎内に藁を敷き置くべし

運動は適宜に之を爲さしめて決して廢すべからず然れども急激の運動は宜しからざれば之を避くべし産前に於て運動を爲さしめざりし牝犬の産仔は瘠瘦を免かれず運動其宜を致したりし牝犬の産仔は肥滿且強健なりとす

獵犬に用ひ其他勞役に服せしむるの牝犬にありて受胎一ヶ月後は其勞役時間を短縮し特に獸獵等に用ふるもの、如きは受胎一ヶ月後は必ず之を用ゆべからず(西洋にては犬をして馬車の前驅をなさしむるものあり夫等のものも亦同様なり)又水中に入れ來りたるものは其水に入るを止むべし凡て劇烈過度の動作又は水浴等は流産を起す基因となるものなれば宜しく注意すべし而して日々三回少なくも二回は一時間位づつ靜に

歩行せしめ運動を取らしむべし分娩期に近ければ兎角に運動を厭ふものなれば成るべく促して運動をなさしむる様にすべし

### 第三章 仔犬の飼育

#### 第一節 分娩

仔犬の育養は分娩に始まる犬の分娩は母犬の妊孕後即ち交尾してより凡そ六十日遅くも六十五日後なるが分娩期に近くや牝犬の舉止は不穩となり或は犬舎の一隅に伏し或は褥藁を掻き荒し静息することなく眼光常ならずして不安の状を呈す犬の分娩は大抵味曉より朝に於てするを普通最安産なるものとなせり而して其分娩の状は數頭の産仔ありとしても一時に相踵ぎて産するものにあらず一頭を産めば母犬は先づ舌頭に

て其體に附着せる汚物等を嘗め處理し了りて更らに次の一頭を産す此の間約そ十五分位の時間を要すべし個々此の如くして分娩を終ふ分娩終れば母犬は疲勞するものなれば先づ水と與へ而して牛乳若くは雞卵等の如き滋養食餌を給すべし尙能ふべくんば分娩の終るを待ちて直に母犬を犬舎外に誘ひ其體を摩擦して發汗を拭ひ去るべし

#### 第二節 仔犬の育養

仔犬は分娩後一週間は母犬に附け置き人の之に近つかざるやうにし特に仔犬に手を觸るゝが如きことをなすべからず一週間を経過せば其敷藁を換へ犬舎を清潔に掃除し且敷藁は日々之を取り更ふるを要す冬期にありては分娩後一ヶ月間は犬舎の

温度をして平均華氏の六十度位を保たしむる様になし其後は五十度内外の温度となすべし併し空氣の能く流通するやうにし日中暖きときは陽光の温を取らしめ夜中は則ち煖爐又は湯婆等にて暖を與ふべし仔犬は生後二ヶ月を経過するまでは決して雨天の時に外出せしむべからず母犬によりては分娩後其仔犬を喰ふものあり一度仔兒を喰ふときは性癖となりて分娩毎に之を喰ふものなれば仔兒を喰ひしことあるの牝犬は分娩に近づくや常に注意して其仔犬を分娩したるを見れば直に母犬より離隔して軟き布片を以て仔犬の體を摩拭して處理をなし他に假母犬を求めて之に育養せしむるか又は別に暖き室内に適當の箱を置き之に藁を柔かになして敷き入れ其上に毛皮を被ひ仔犬を其内に容れて日々五六回

宛母犬に口輪を嵌め喰害する能はざらしめて仔犬を母犬の傍に誘ひ人の監理の下に乳を飲ましめ其充分に飲み了るを見て之を離すべし此の如くして四週間も経過せば最早母犬も其仔犬を喰ふことなれば母犬に附けて安心して育養せしめ得るなり

母犬が其産仔を乳育するや其泌乳の爲めに多くの養分を要するものなれば充分に滋養食餌を取らしめ給與の回数も分娩前の如く數回與へ而して産後一週間は一時間位づゝ一日に二回程徐かに運動せしむべし

假母犬即ち乳母犬は母犬が一回に十數頭の仔犬を分娩し泌乳の量其産仔を養ふに不足なるか又は母犬が分娩後直に斃死せるとき又は母犬が其産仔を喰ふの悪癖を有する等の場合に於

て之が必要あり産仔の全數又は其幾頭かを其母犬より離し假母犬に托して育養せしむるなり假母犬としては成るべく同期の分娩にして餘り日を隔てず産仔の少なきか又は産仔不具にして投棄したる等の母犬を用ゆるなり假母犬を撰ぶには性質穩良且強健に皮膚病等に罹り居らざるものにして成るべく初産のもの或は二回目又は三回目のもを取るべし且其種類も生母犬と同種類のものなれば最可なれども之に適當するものなくば他種のものにても妨げざれども成るべく短毛なるものを撰ぶべし長毛種には蚤蟲等の寄生するもの多ければ仔犬に附着して生育の障害ともなればなり假母犬に仔犬を附するに當りて假母犬が其仔犬を嫌ひて之に乳を與ふるを欲せざるもの多し之を避くるには假母犬の分娩せる仔犬あらば其數頭を

取り來りて托すべき仔犬と共に一二時間箱又は籠に入れ置き其體臭が托すべき仔犬に充分に移染したる時之を假母犬に付托すべし初めは幾分之を嫌ふの狀あるも一時間も経れば遂に乳を飲ましむるに至るものなれども猶ほ之を嫌うて乳を飲ましめざるならば假母犬を犬舎より誘出し一二時間充分なる運動をなさしむべし然るときは其乳房は泌乳の盛なる爲めに緊張して痛味を感じるに至るを以て其機に乗じ犬舎に導き來れば自他の仔犬を撰ぶに違あらずして乳を飲ましむるものなり併しながら猶ほ仔犬を嫌厭するならば假母犬の乳を搾りて之を托すべき仔犬の全身に塗抹して假母犬の産仔と共に假母犬に付托するときは大抵は嫌厭することなくして哺乳せしむるなり

人手によりて仔犬を育養することは難事なれども假母犬を得ざる時は已を得ず之を爲さざるべからず生後一週間を経ざるものは人手にて育養すること不可能なれども一週間を経過したるものならば牛乳又は羊乳を以て之を育養し得其乳汁は少量の砂糖を加へ約そ同量の水を和して稀薄し微温となして吸乳器にて飲ましむべし生後十四五日以後は乳を飲ましむるに吸乳器を用ひず平くして少しく回みたる器に入れて飲ましむれば能く嘗啜するものなり乳を與ふる回数は日中は五回位夜に入りて二回又は三回を與ふべし生後三四週間の頃に至らば其發育の何如にも依れども日中は四回位となし夜に入り一回も與ふれば可なり牛乳は成るべく精良なるものを撰び少しにても腐敗の傾あるもの等は決して與ふべからず腐敗の傾あ

るものは種々の「バクテリア」(Bacteria)存在すればなり又「コンデンスミルク」は甘味に過ぎ動もすれば仔犬の消化機を害することあるを以て之を用ひざるを可とす  
牛乳等を仔犬に與へたらば其飲み了るを待ちて口邊を濕布を以て能く拭ふべし若し之を怠れば時に諸種の「バクテリア」(Bacteria)「繁殖」して皮膚病の因をなすことあり  
仔犬を人手にて養ふに當りては日々手又は「フランネル」等の布片を以て其體を摩擦すべし爾かせば皮膚に附着せる汚物を去り且新陳代謝の作用をも促すなり  
仔犬は生後早きは九日遅くも十二三日にして眼を開き十六七日後には既に犬舎内を少しく歩行し得て食物を求め尙ほ早きにも拘はず母犬の食時に當りては其食器にある食餌を喰ふ

を以て其期に達せば仔犬の側にて母犬に食餌を與へざる様に  
 すべし然らざれば母犬の食餌を喰ふよりして往々にして消化  
 機の障害を來すことあり生後四週日の頃に至らば前齒漸く生  
 じ哺乳時に母犬の乳頭を刺戟して時に或は傷くることなどあ  
 り母犬も乳を與ふるを嫌ひ且此頃には母犬の泌乳量漸く減じ  
 來りて仔犬の營養充分なるを得ざるを以て日に少量の牛乳又  
 は羊乳を與へて漸々其量を増し四十日も経過したらば牛乳二  
 合に麵麩の小片又は甘藷の煮たるものを潰して之を混じ與へ  
 夫よりは米或は小麥の煮たるものを混じ與へて遂に母犬と同  
 様の食餌を取らしめて可なり然れども仔犬は三ヶ月位を経過  
 するまでは骨片又は肉塊等は決して與ふべからず肉は之を細  
 末に截りて與ふべし

仔犬を母犬より離隔するの時期は人によりて或は生後五週間  
 にて可なりと云ひ或は六週間又は八週間の後ならざるべから  
 ずとなす畢竟餘り早く母犬より離して母乳以外の食物を以て  
 養ふときは往々にして消化機を害することあり人が何程注意  
 すとも母犬の慈念には及ぶべくもあらざれば成る可く長く母  
 犬に附けて育養せしむべし實に仔犬の營養としては他の動物  
 と同じく母犬の乳汁程適當なるものはあらざるなり故に五週  
 間よりは六週間六週間よりは七週間と其母犬に附け置くこと  
 の長きほど良しとすべし故に少なくとも生後六十日間は母犬に  
 附けて育養せしめざるべからず六十日後は仔犬は母犬より離  
 して他室に置き一日二三回位づゝ母犬の傍に誘ひ來りて遊ば  
 しむる様にす六十日以上を経過しなば母犬より離して他に讓



與するも其仔犬は概ね能く成育し得るものなり  
 仔犬の良否を判定甄別するには生後一週間にして先づ第一回の甄別をなすべし此時は仔犬を個々に検査し其發育の殊に不  
 充分なるもの又は自己の欲する形態を具備せざるものは之を  
 斥く併しながら生後一週間の頃のもの其形體各部の比例既に成長したるものとは大に趣を異にするを以て餘程の經驗眼  
 識あるにあらざれば其良否を鑒別すること難し故に其甄別を爲し得る丈の經驗眼識なきの人ならば先づ其母犬が乳育し能  
 ふべきの頭数を凡そ幾頭と見定め若しも産仔が其見定めたる  
 頭数より多からば制限することをなすべきなりペローシヨ  
 氏 (Veroshaw) の説によれば中等大の母犬にて五六頭大形の母犬  
 にて八頭より十頭を養ひ得と又ストーンヘンジ氏 (Stonehenge) は

言へり母犬の體量七斤毎に一頭の仔犬を養ひ得即ち體量三十  
 五斤ある母犬は五頭の仔犬を養ひ得べしと要するに其割合は  
 兩氏の言略合一なりと謂ふべし母犬の泌乳量によりて乳育し  
 得べき丈の頭数を定めて育養せしめ其餘のものは假母犬をし  
 て養はしむるか又は人手を以て育つべし若しも假母犬を得ら  
 れず又人手を以て養ふことも不可能なるの場合には斷然之が  
 處分をなすべきなり或は割愛の情に耐え難しとて悉くを育養  
 せむとするが如きことあらば發育の不同を來し多くは虚弱性  
 となるものなり而して育養すべき仔犬の頭数を定むるには偶  
 數にするを可とす何となれば離乳期に達したる時二頭づつを  
 一組となせば分配讓與する等に於て彼是便宜多ければなり故  
 に仔犬の六ヶ月以内のものは二頭或は三頭にても可なりを以

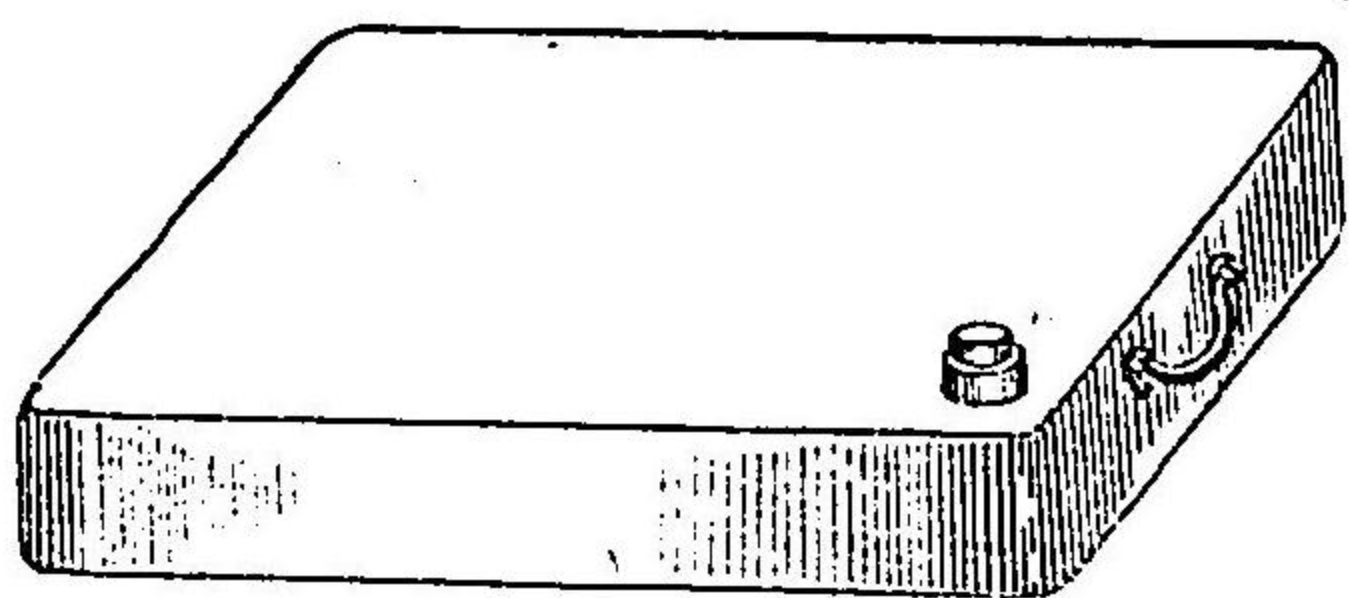
て一組となして育養すべきなり爾かするときは寒冷の季には互に相依り臥伏して暖を取り又舍外に在りて共に遊戯競奔するよりして自然筋骨の發達を致し且犬は頗る敏捷の性質を有するものなるを以て甲の爲す所乙之を習ひ乙の秀る所甲之を倣うて知能を發達せしむることゝもなるなり故に最初より仔犬の數を偶數に制限し置くことは飼養上最便宜多しとす仔犬を母犬より離したるときは二頭以上を一舎に收容して寒氣濕冷に感ぜしめざる様諸種の點に注意して設備するを要す犬の分娩は大抵春秋の二季にして秋は寒冷の候に接し春は梅雨の不順に際するを以て先づ犬舎又は犬箱には十分に藁を敷き入れ成るべくは其上に毛布を敷き日中は陽光を誘ひ舍箱内は能く乾燥ならしめて濕氣の存せざる様になし日中は日當り

よき場所に遊ばしめ夕景には舍内に容れ生後三四ヶ月を経るまでは雨天の日には屋外に出すべからず若し穉弱の時に雨濕に遭はしむるときは寒冷を感じて爲に犬瘟熱等の病に罹ること往々にして之あり又嚴寒の候若しも寒氣に侵さるべきの憂あらば夜中は必ず犬舎内に煖爐を入れ且仔犬が煖爐に觸れて火傷することなき様注意し煖爐は成るべく夜間のみ用ひ日中は晴天ならば之を用ひざるを良しとす若し煖爐を設くること能はざるときは犬箱内に湯婆ナベを入れ毛布にて之を包むか或は火入附の犬箱に入れて夜中暖を取らしむべし殊に仔犬を一頭のみ母犬より離して他處に移すが如きことあらば當分は毎夜鳴號喧噪して安眠を妨げらるゝものなるが夫等の場合の上記の如き設備をなせば大抵は安靜となり復た喧噪することなき

に至るべし

箱中に用ゆべき湯婆は約そ幅二尺に豎一尺五寸厚三寸位に作

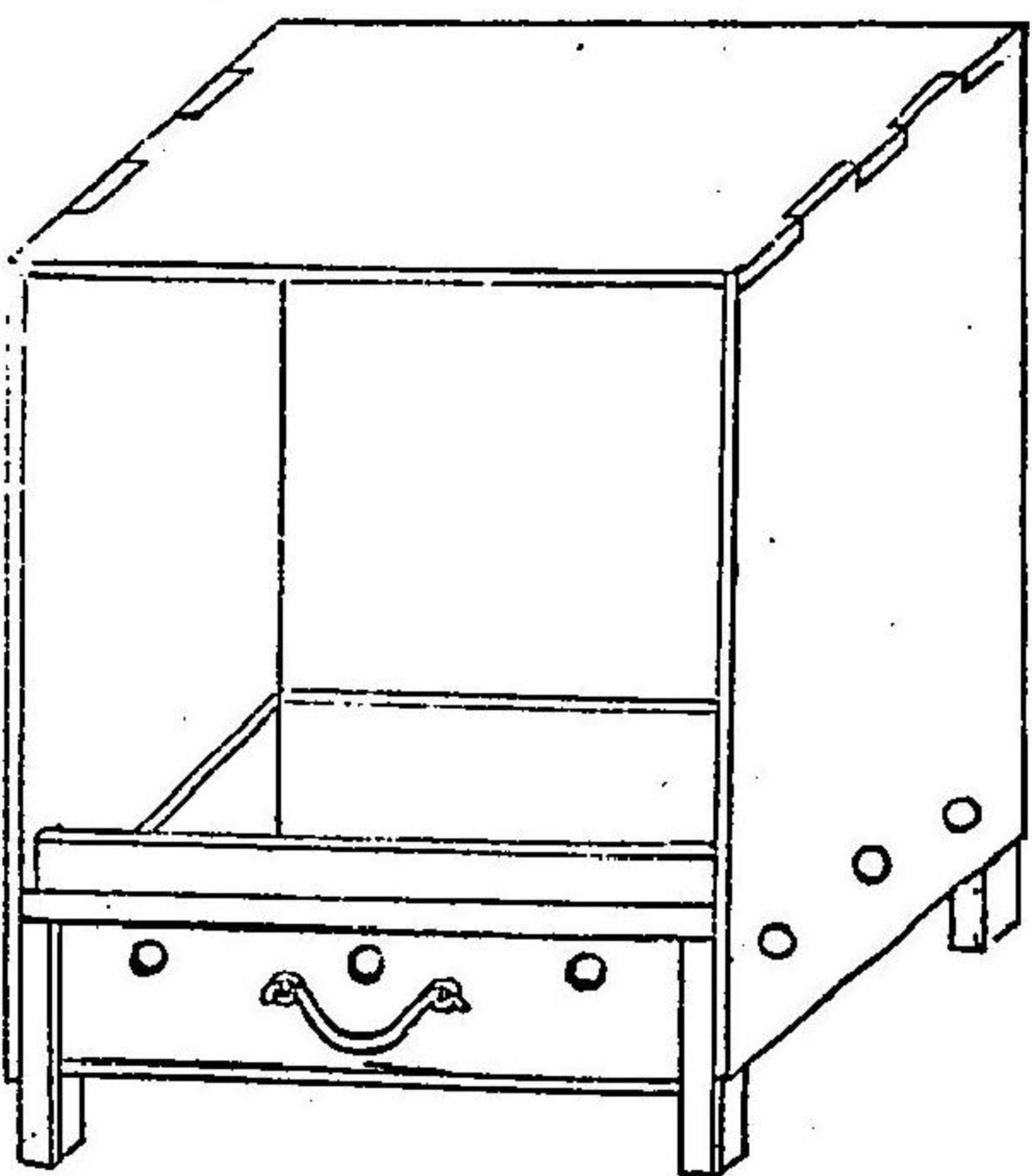
湯「たんぼ」の圖



り一隅に湯を入れる、口を設け其兩側に取手を附して運搬に便ならしむ此湯婆を作るには石油の空罐を利用すれば安價に製作し得べし是は方形にして餘り大ならざるが故に直に火鉢にかけて湯を沸すに便なり

火入附の犬箱は普通の方形なる犬箱を用ひ其底に鐵葉板又は亞鉛板を張り其底は六七寸上げて取附け其下に火を入れるべき抽斗を設くべし其抽斗の高は五寸位にし其周邊の箱底に近き處に孔を繞らし穿ちて通氣孔となし其抽斗の内に灰を

火入付犬箱の圖



容れて炭火又は炭團火を入れる、様にす尤火を入れたらば敷藁は充分に敷き入れ與ふべし

前既に述ぶる如く仔犬は寒冷に侵され易きが故に之が飼育には寒冷に感ぜしめざる様になすとは最肝要なれども亦深く注意して濕氣を

受けしめざる様にし寒冷の候には犬體の洗滌を避け若し止むを得ずして洗滌せざるべからざるの必要あらば微温湯を用ひ洗滌し了らば充分に摩擦して煖爐の傍にて速に乾かさしむべし而して夏日は一日置き位に晴天の日を見計ひ午前十時頃より三時頃までの間に微温湯にて洗滌をなし能く水分を拭ひ去

り直に一二時間運動せしめ後犬舎に收容すべし洗滌には石鹼を用ふ其石鹼は普通のものよりも「アルボース」石鹼を良しとす飼犬の清潔を保たしめむが爲め日々刷毛にて體を摩擦し長毛種にありては齒の粗き櫛にて梳るべし而して其都度能く體軀を検して蚤蟲等の寄生せるものを除去し殊に趾間に附着せる壁蟲の如きは嚴に之を除去すべきなり趾間には得て壁蟲の附着するものにして之が除去は困難なるものなるが若しも其儘になし置きて甚しきに至らば跛となることあれば尤注意を要す又犬舎には少なくとも一日隔に除蟲菊粉を撒布して蚤の發生を防遏する様にすべし尙ほ仔犬の育養につきて注意すべきは食物にして食物の善悪は其發育に影響を及ぼすのみならず外觀にも關係すること亦極めて大なり幼穉の時よりして粗悪な

る食物を給すとせば勢ひ其多量を與へざるべからず粗悪なる食物の多量は往々消化機を害するのみならず胃腑擴張し腹部膨大して大に其體格姿勢を損せしめ又粗食による營養の不良は以て體毛の光澤を失はしめて外觀の醜惡を致すべし故に仔犬には營養豊富なる食餌を數回に分ち與ふる様にし生後四ヶ月程は日に四回づゝ與へ其後八ヶ月までは三回とし其後は二回となすべし仔犬の食餌は親犬よりは其分量を少量に與ふる様にし且生後三ヶ月を経過するまでは骨片の類は勿論之を與へず縱令肉塊といへども細かに截り碎くにあらざれば與ふべからず三ヶ月の後には漸々肉の小塊を與へ五ヶ月の頃に至らば時々骨片牛の胸骨又は肋骨等を與ふべし此頃は既に換齒期に在るを以て其堅きものを噛むによりて齒牙の脱落を促すの

みならず骨格の發育頗る旺にして生理上磷酸及石灰を要するもの多量なるを以て骨を與ふるは最宜しとす

### 第三節 斷尾截耳及去勢等

#### 斷尾

ブルドッグ(Bull Dog)「テリヤ(Terrier)「バグ(Pug)等は其尾の全部を、又英國「ポインター(Pointer)等の如きも其尾の曲れるものは其尾端の幾分を切り去るの慣習あり是は只其外觀の恰好を善くせむが爲にして生後一二ヶ月以内之を行ふものなるが幼時にありては尾を斷たるゝも別に大なる苦痛を感ぜざるものゝ如し斷尾するには消毒せる銳利なる鋏を用ひて尾を適宜の長に截去り焼鎧を其截口に當るか又は外科用の針と絲にて縫合せ

置けば可なり

#### 截耳

截耳を行ふの風習は前世紀に於て大に流行したりしが輓近に至りては截耳を行ふは犬に大なる苦痛を與へ慘酷なりとて非難の聲高きを以て漸く之を廢止せむとするの傾向を來せり截耳を行ふの時期は生後二ヶ月より三ヶ月の間にありて其手術は別に難事にもあらざれども熟練せざれば雙耳をして同形ならしむること能はず却て外觀を害することあり故に多くは外科醫の手によりて之を行ふ其法先づ耳葉を取り其截去らんとする部を指にて押へ其處の外皮を耳の着根の方に寄せて鋏にて巧みに一截に切斷し畢らば耳の着根の方に寄せたる皮を扱き上げて截口を被ひ昇汞にて濕したる「ガーゼ」を以て堅く截

口を壓迫すること十四五分間にして出血の止まるを見て「ガーゼ」を取去りて「コロヂューム」を塗抹すべし

去勢其他

睪丸割去は室内愛玩の犬種又は鳥獵犬に多く之を行ふ其時期は生後六ヶ月乃至一ヶ年以内に在り其法先づ消毒せる銳利の小刀にて兩睪丸膜の縫合線を僅に截り其處より兩睪丸を引出し捻り切りて之を取去り其儘になし置けば自然に癒合すべし若し截口大なるときは其幾分を縫合せて其幾分は縫はずして其儘になし置くべし是は危険なるが如くなれども全く縫合はすよりは却て危険少なしとす何となれば睪丸内に漸々生成せる濃汁の其縫合せざる部分より流出すればなり併しながら近隣に獸醫のあるあらば就きて之が割去を托し充分の消毒を行

ひて全く縫合せしむるに若かざるべし睪丸を割去するときは犬の性質頗る過敏となり且恐懼心を惹起するが故に闘犬又は獸獵犬等には之を行はざるを可とす  
卵巢割去は通常人の能く行ひ得べきものにあらず犬の卵巢は肋骨に近接せるを以て腹部を切開して手術を施すものなれば獸醫なりとても熟練せるの人にあらざれば之を托すること危険なりとす

距爪の除去

距爪は之を截去るを可とす若し距爪を截去らず其儘になし置くとときは歩行に困難を感じ獵犬の如きは距爪の爲に出血すること往々之あり之を行ふは生後二週日の頃にして銳利なる鋏にて截去るなり除爪は別に犬に苦痛を與へざるなり

## 第四章 成犬の飼養

元來犬は肉食獸なるも人に馴養せられ家畜となりてより其稟性も變異して遂に半肉食半草食となれり殊に日本の山間僻陬の村里に飼養せらるゝものゝ如きは獸肉は更なり魚肉すらも與へずして能く生活するものあり現今生理化學の發達により一般に肉食獸を飼養するに肉類のみを以てすること稀にして肉と植物質とを以て飼養して所謂蛋白質炭水化物及脂肪を給せば可なりとせり犬の如きも肉類のみを以て飼養するときは皮膚病に罹り易く且其性質を兇暴ならしむるの傾あり今歐米諸國にて犬の好食餌として稱用せらるゝものは「オートミール」牛乳、小麥粉、牛肉、馬肉、爪哇薯、甘藷、甘藍等なるが我國は

歐米と農産の種類を異にし従て其價に差異あるを以て是等のものを用ひて容易に經濟的に食餌の供給をなし能はざるの事情あり乃ち我國にては米麥、割麥、押麥等、甘藷、爪哇薯、蘿蔔及牛肉、馬肉又は豕肉等を適宜混和し與ふるを以て最良好なる飼料となすべし牛乳の如き滋養食餌なるには相違なきも我國現時の如き高價にては犬の食餌として之を給與し能はざるべきも若しも近邊に乳酪製造所等ありて滓乳を得るの便あらば之に少量の豕脂を加へて與ふれば最良好なる食餌たるなり而して餌料として飯を與ふるにも麥と大凡半量宛に混和し炊きて之を與へ他の副食物は別の鍋にて煮て味噌と少量の砂糖にて味を附けて之を與ふる様にすべし食物の量は犬の形體の大小に依りて定むべきの事なるが形體の大小は非常の差あるものにし

て小なるは三斤位、大なるは百五十斤以上あり而して體量に對する飼養率の如きは未だ確定せるものあらざれどもオイト氏の研究によれば八貫目(三十キロ)の體量あるものに日々脂肪を取去りたる鮮肉五百瓦を與へたりしが此中には純粹蛋白質の百十五瓦を含有せるものなるが是にては充分の營養を得ずして次第に衰弱し來り殆んど死に瀕せり此時に於て飼料を適量にし其營養を恢復せむとするには一日に同一の鮮肉千五百瓦を與へざるべからず然るに之に代へて試に鮮肉の五百瓦に二百瓦の脂肪を加へて養ひたりしに以後瘠瘦することなくして次第に體量を増したりと云へり是は脂肪の集積と同時に筋肉も亦著しく肥増したるに因るなるべし此結果によれば二百瓦の脂肪は能く千瓦の鮮肉に値すと謂ふべきなりとは言へ千五百

瓦の鮮肉に二百瓦の脂肪を加へて與へたりとても決して前と同一の結果を奏することなし其は蛋白質の多量なるときは徒に其分解を促すのみにして營養となること少なければなり此實驗に據れば勞役に服せず安息せる犬の體量三十瓦のもの、一日の飼料は鮮肉五百瓦と脂肪二百瓦を以て適量となすべし以上は靜息の状態にある犬に就ての試験にして勞働せしむるものは無論之より多量の食餌を給せざるべからざれども前説の如き大に參考に可なり茲に注意すべきは體量三十瓦のものに五百瓦の脂肪なき鮮肉と二百瓦の脂肪にて充分の營養をなし得るとせば體量十五瓦のものには同じ鮮肉二百五十瓦と百瓦の脂肪にて足るべきやに思はるれども體軀矮小なるものは大形のものに比して體軀の表面比較的大に従つて皮膚面の熱



の發散新陳代謝の作用も亦相應に多大なれば體量の割合に多量の食物を要するものなれば其心して適量を計るべきなり  
今主獵局附屬養犬舎にて英國「ポインター」種獵犬の體量約そ四五十斤のものに給與し最適良なりといふ飼料の分量并に種類を左に掲ぐ

白米

參合五勺

麥

貳合

牛肉

四拾目

甘藷

六拾目

味噌

貳拾目

以上は一日の食量なるが其成果宜しく何れも皆強健なりといへり

食物に亞ぎて必要なは飲水なり飲水は清淨なるものを撰び陶器製の深五六寸なる大形の鉢に容れ犬舎の傍に之が數個を備へ置きて自由に飲用せしむる様にし水は日々に之を取換へて與へ夏日の如きは特に注意して度々之を取換ふべし然るに東京の或る大なる飼犬場に於ては飲水に泥又は砂を加へ殊更に濁水となし之を與へて得々たるものあり其説く所を聞けば曰く是等は皆獵犬なるが故に獵に出れば田水又は溝渠の水等汚濁のものをも啜飲して以て渴を醫するなれば常時に於て之に耐え得るの習慣をなさしむるが爲に特に泥水を飲ましむと是れ大に嗤笑すべきの事にして犬舎附近の土壤の如きは糞塊の塗るゝあり尿水の浸潤するありて普通の土壤よりは多くの「バクテリア」を有す好し是等の「バクテリア」は悉く犬の身體に有

害ならずとするも寄生蟲の卵子の如き亦多く土壤中に存在するものなるに一切是等の事を顧念せずして平素濁水を與ふるは出獵時の障害を避けむとして却て常に危険に近づけつゝあるものなり飲水は宜しく清潔なるものを選びて之を與ふべきなり

飼養につきて必要なるは運動なり運動をなさしむるは少なくも一日一回とし其時間は約そ三時間位を適度とす多數を飼養する場合には大なる塀又は柵を以て圍繞せる庭園を設け晝間は其庭内に放養して自由に運動を取らしむべし而して運動場は排水良き乾燥の地を撰び適應の樹木を栽植して夏時の遮陽となすべし運動場の廣さは大なるに如かざるも約そ五百坪もあらば二十頭許を放養するに足るべし「セッター」(Setter)其他「ウ

ォーター、スパンニエル(Water Spaniel)等の如き水中に入るを好むものは時々河川池沼等に游泳せしむべし

成長したる犬も亦仔犬の如く日々刷毛を以て體を摩擦し長毛種は粗齒の櫛を以て梳り蚤蝨を除去し能く身體の點檢をなすべし而して夏日の如きは犬舎附屬の洗場又は近邊に清き流どもあらば其處に伴ひ行きて洗滌し與ふべし其洗滌には石鹼を用ひ洗ひ了らば能く拭ひ取りて直に運動せしむべし室内に飼養する長毛種の如きは冬日と雖も七日目或は十日目に一回洗滌し與ふべし然らざれば一種の體臭を放ちて不快を感じしむるものなるが故に微温湯にて能く洗滌し其跡を充分に拭ひ爐邊にて乾かさしむべきなり

一般に飼養上必要なる注意は常に飼犬の舉止に留意すること

是なり朝暮二回は必ず犬舎に就き其健否を視察し又掃除人に命じて脱糞に異状なきや否を點檢せしむべし犬糞の質堅く暗黒色又は暗灰色にして所々に淡黃斑あるものは健全を證するものにして若し軟くして一定の形狀をなさざるか假令一定の形狀をなせるも全部黄色なるか又は暗黒色の中に赤色斑のものあるか或は血塊の斑々たるを存するか又は寄生蟲或は其斷片の混ぜるもの等は皆病兆を呈せるものなり此の如きものを發見せば其各個に就き精密の検査を遂げて病狀を確め直に適當の治療を施すべし

## 第五章 犬舎

犬舎の構造如何は犬の健否に關するは勿論延いて其骨格外貌

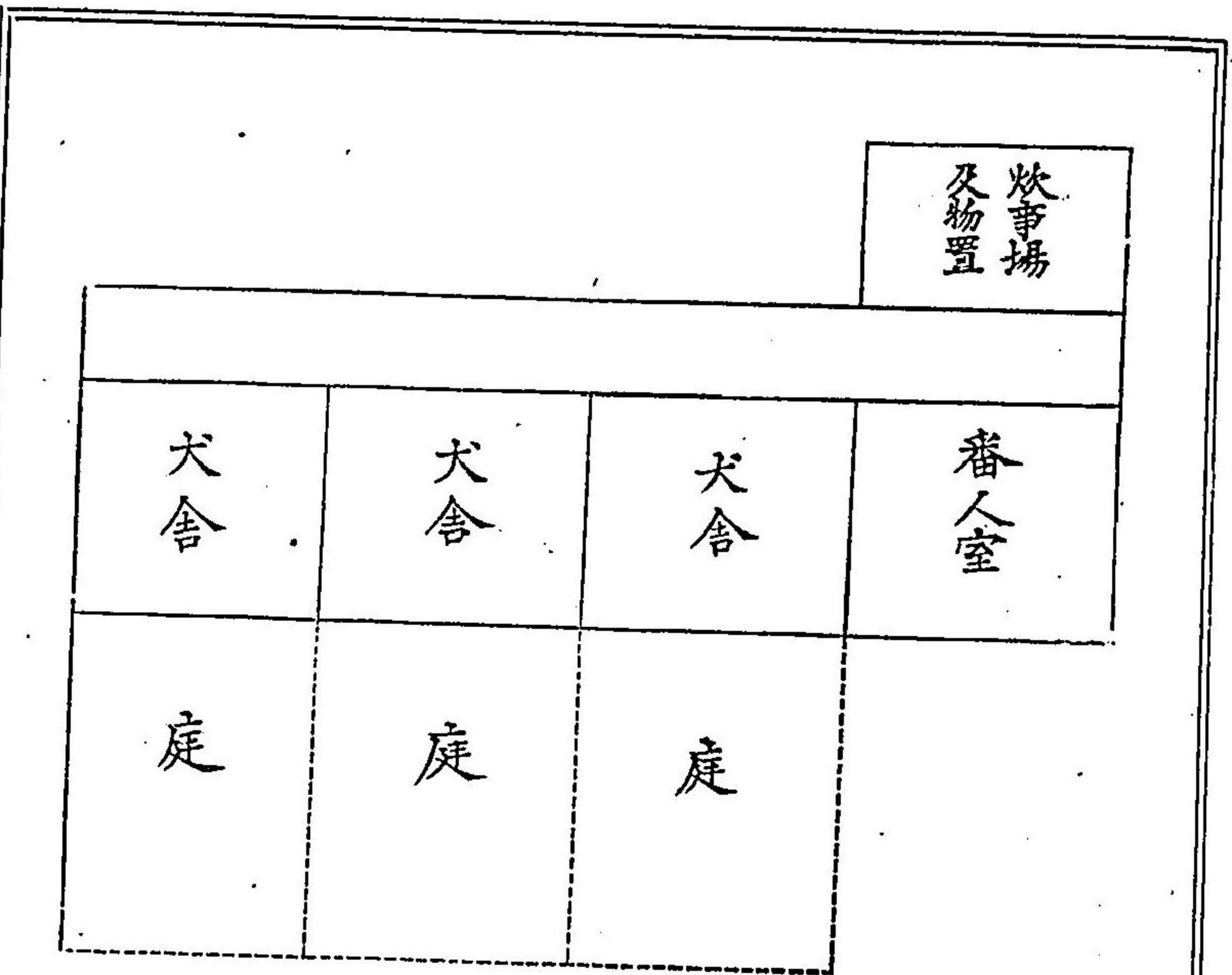
に影響を及ぼすこと大なりとす  
犬舎を設定すべきの地は何れの種類を飼養するに關せず空氣の乾燥なる處を撰ぶべし濕潤なる風氣は病を發するの基となるのみならず又其體毛を粗惡ならしむ而して又種類により氣候の適否あり例へば印度又は墨西哥に産する所のもは我日本の本州には飼養し難くエスキモー又はアルプスに産するものは印度亞弗利加に飼養するに適せざるなり又英國に産せる「ポインター」を印度にて飼養すれば大抵は斃死し纔に生存し得たりとするも漸々に體毛疎薄となり皮膚は其れの反對に厚きを加ふるに至るべし又氣候温度の變化は食物の良否と相俟て蕃殖力に關係を及ぼすこと大なり從來純粹種の我國に輸入せられたるもの少なからずと雖も多くは其蕃殖力漸々減退し來

りて縦令食物善美を盡し管理また周到なるも氣候温度の變動を感受すること甚しく爲めに蕃殖力漸々減退して終に全く受胎せざるに至る間に受胎するものあるも多くは流産に了りて生産を完ふするものなし我國の如き濕氣多き土地に於ては純粹種類の飼養は頗る至難の事なりとす故に多數の飼犬を試みむとする者は先以て其飼養地として高燥にして濕氣少なきの處を撰擇するを以て一要件となさざるべからざるなり

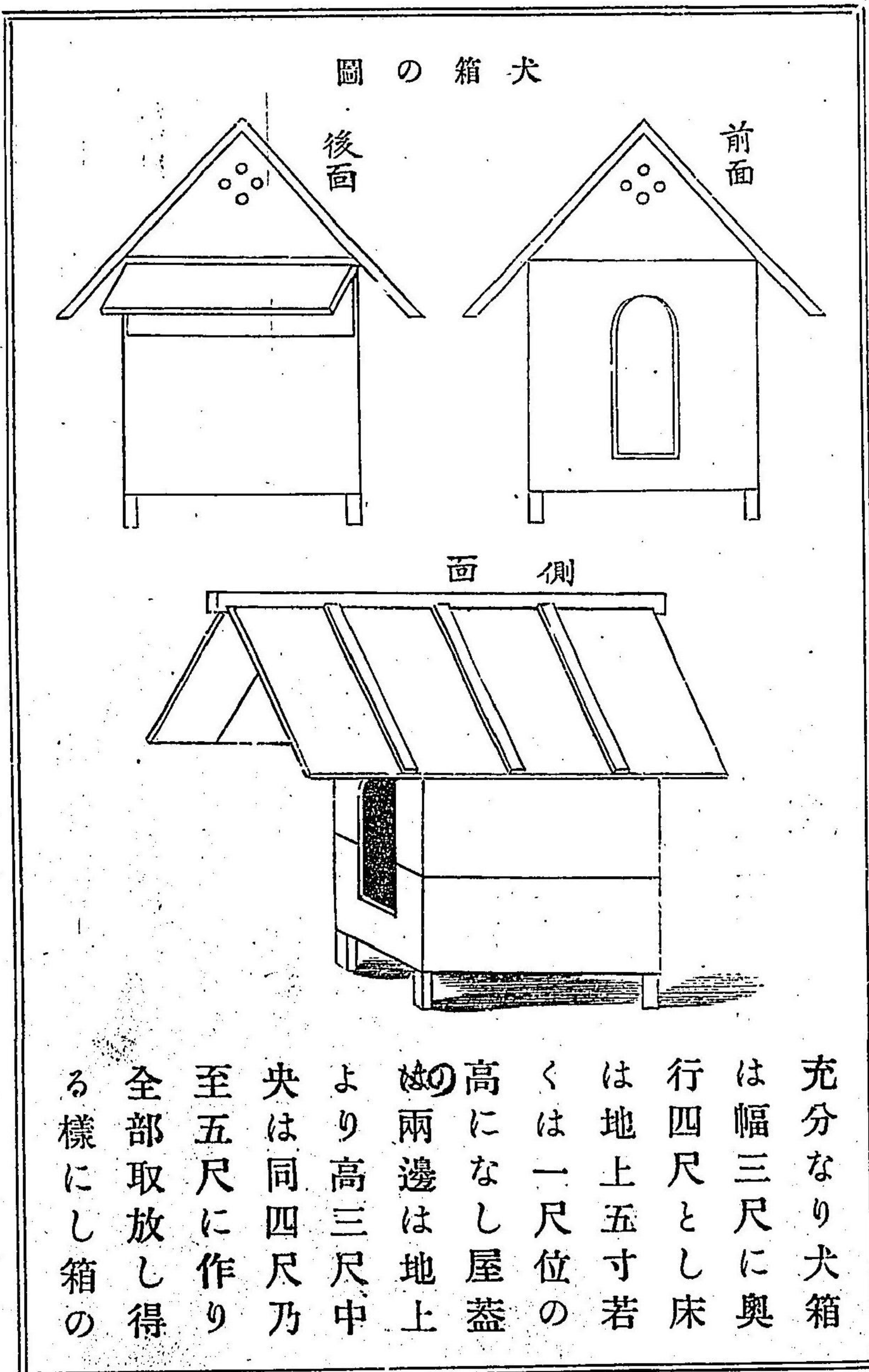
犬舎は土地高燥にして濕潤ならず雨水の停滯せずして終日太陽の直射する處を撰み設くべし例へば東南西の三面開け北に山を負ひて廣濶なる場地の如き最宜しく近く竹林沼澤ありて蚊蠅の群集する處等は之を避くべし假令小規模にして犬舎又は犬箱を以て僅々數頭を飼養するものにおいて成るべく日

當り良くして近傍に不潔物の存せざる地を選ぶべきなり犬舎の構造は空氣の流通良く夏は清涼に冬は温暖なるを主要とす」犬舎は南に面して建設するを最良しとす(時に或は地勢上東西兩面に設くることもあり)即ち南方に入口を設け北には小窓を開き夏時清涼の空氣を入るゝに便し屋根には空氣抜きを設け周圍は塗壁にするも板張にするも風の吹入らざる様にし煖爐を用ゆるに於ては殊に此に注意すべし南面の軒は葺卸しを深くし雨樋を懸けて雨落ちの飛沫を防ぐ様にし又南面の戸は鐵格子となして腰に一尺五寸幅の板を張り格子戸は開閉自在ならしむ犬舎の床は之を板張にすれば保存期間短く且間隙に蚤蟲の潜伏する等の缺點はあれども犬の健康に宜しく且比較的廉價なるべし「セメント」漆喰、タ、キ又は石敷、施釉煉化石の如き

は保存期限長く洗滌して乾き易く又蚤蝨の潜伏する等のことは之なきも割合高價なり尤普通建築用の煉化は之を用ゆべからず是は水濕を吸収し容易に乾燥せざればなり一般に床は一方に傾斜せしめて水排けを良くすべし  
 犬舎の各室の廣さは二間四方もあらば體量三十五斤乃至五十斤のものならば四頭位は收容し得べし  
 犬舎内には寢臺を設くべし寢臺は板を以て高一尺幅三尺長四五尺にし一隅に寄せて棚の如く作り且周圍には高三寸位の縁木を取附けて敷藁の散逸せざる様になすべし  
 又犬舎の各室には運動場として廣二三十坪にして圍ひある庭地を附設し其地面は一方に傾斜せしめ小砂を敷き炎暑の候には葭簀の如きものを以て遮陽をなし清蔭を作るべし而して此



此庭地の周圍は鐵柵又は金網を以て圍繞すべし「ポインター」(Pointer)「セッター」(Setter)「フォックスハウンド」(Fox hound)の如きは其庭地に別に屋蓋を要せざるも「グレイハウンド」(Grey hound)の如きは寒冷に感じ易きが故に犬舎を大にし舎内に運動場を設くべし(其構造は各論中に記述す)  
 單に一二頭を飼養する場合には犬舎の必要を見ず犬箱にて



洗滌に便すべし其入口の簷は一尺五寸乃至二尺位の深となし入口は幅一尺五寸高二尺五寸位とし又前後両面の屋蓋下には三四個の小孔を穿ちて風抜きとなし後面には上部に幅五寸位の押出しの窓を設けて夏時の通風に便す但し冬は之を閉ぢ置くなり犬舎及箱共に日々箒にて掃除し且一週に一回は晴天の日を撰びて熱湯にて石鹼を用ひ洗滌すべし

若し運動場なく犬箱により繋留して飼養せむとならば鐵鎖を以て之を繋ぎ其鐵鎖は細く軽く丈夫にして捻れざる様になすべし鎖の長は一ケ月毎に其繋場を諸所に移すべし若し一ケ月毎に其繋場を諸所に移すべし若し一ケ所のみ繋ぎ置くときは尿の爲に諸種の「バクテリア」發生して犬の健康を害するものあればなり

## 第六章 用途

往古人が馴めて犬を家畜として飼養したりし當時は其用單に獸獵にありしならむも世の進むに隨ひて他の家畜の護衛其他諸種の用途漸々増加するに至れり

往古パタゴニア(Patagonia)の蠻人は各自一頭の犬を飼養したりしが此時代に於ける犬の資格は又特殊なるものありしなり彼等蠻人が他の種族と戦ひ或は野獸と格闘して創傷を被ふるこゝとあれば犬をして其傷所を嘗めしめて之を癒しぬされば當時犬は人に對して實に一種外科醫の位置を有したりしなり而して又彼等蠻人の戦に赴くや犬を陣營に留めて武器糧食を守護せしめたり又中央亞細亞より移住せる種族は形體大にして而

も獍猛なる犬種の多くを養ひて之を戦鬪に用ひたり彼等の進撃するや必ず其犬群を先頭に立て、前進し又一人々々の闘争にも犬を従へて敵に當り又時には陣營に在りて婦女子及糧食の守護をなさしめぬ此目的に犬を使用せるは「カスピアン(Caspian)」「ヒルカニアン(Hyrcanian)」「コロフォニー(Colophony)」「カस्ताバネント」  
「ゴール(Gol)其他」  
「ミンダー川(Meander)の沿岸に住居せる種族及亞弗利加サハラ(Sahara)の「ガラメンテス(Garamantes)等なり又往昔獨逸の種族も同じ目的に犬を飼養せり」  
「チキンパー」人の如きは「マリヤス」に打破られたりしが彼等は羅馬軍に對して長期間頑強なる抵抗をなしたり其抵抗や婦女及犬の力に依りたるもの多しと云ふ  
又佛蘭西のサン、マロ市の如き其城寨を守るに犬を用ひたるの

事實あり

古來狩獵には犬を用ひしものなるが銃器の發明は狩獵の趣致に大なる變化を及ぼしたり今も猶ほ銃器を用ひず弓箭によらず只一群の犬を使用して狩獵をなすものあり又犬をして鳥獸を驅り出さしめ鷹弓或は銃器を以て之を獵獲するものあり番犬としては家畜の守護に重用せらるゝ護羊犬を初め人身財産の保護者たる「ブルドッグ」又は「マステイフ」等あり彼の極寒の地にして牛馬等も家畜として飼養し能はざる「エスキモー」の如き犬を橈の牽挽に用ゆ又輓近歐米諸國(英國を除く)にては犬をして農業上の運搬車を挽かしめ或は牛乳配達の牛乳車を挽かしむ我國にても近頃肉類運搬の車夫が軾に綱を附し之を犬に挽かしめて人力を扶け又奈良縣吉野三重縣の或る

地方等の山村にては人力車に之と同様の補助をなさしむるものを見受けたり一歳位の犬にて餘り形體の大ならざるものにも十三四歳の兒童に勝るの力ありと云ふ

以上は其用途に於て多少經濟的の意味を有せるものなるが中世紀に至りて歐洲に於て貧富の懸隔を來し奢侈を競ふ者の飼犬は番犬と云ふも番犬の實無く只外觀の美を衒ひ其良を人に誇る愛玩犬なる一種を生ぜり

犬は知能敏捷にして勇氣に富むを以て之を利用し訓練以て諸種の目的に使用し得るなり殊に我邦の小農にして牛馬等を飼養し能はざる者の如きは大形にして力量に富める洋種犬と日本在來種とを雜種して強健にして挽力の強きものを得て農業用の小車を挽かしめば其利益や鮮少ならざるべし



## 第二篇 各論

## 第一章 野犬

野犬とは山野に棲息して鳥獸類を捕獲し之を食餌となして生活し性質兇暴にして普通之を馴養し得ざるものなり周到なる注意の下に飼養するときは一時は人に馴るゝことなきにあらざるも終に其本來の性質を顯はし野生的に復して山野に逸走し去るものなり

## 一「ナトリヤドッグ」

形貌狼に類すれども亦稍護羊犬に似たる所ありされど其尾は後者よりも更に大きく毛色は暗赤なり狼と異なる所は晝間出でて食餌を求め數十頭一群となり相伍して徘徊することなり而

して平常は人類に危害を加へざるも一たび之に撲撃を加ふるが如きことあらば狼よりも更に猛烈の反抗をなす

## 二「ルシヤンドッグ」(Russian Dog)

此種は外貌那都利亞犬に似て稍小形なるものなり常に街道の隅角、城砦内の樹陰又は寂寥なる處に穴を穿ちて其内に棲息し夜間市街に出で、廢棄せる食物等を探求す時に或は人畜を襲ふことあり

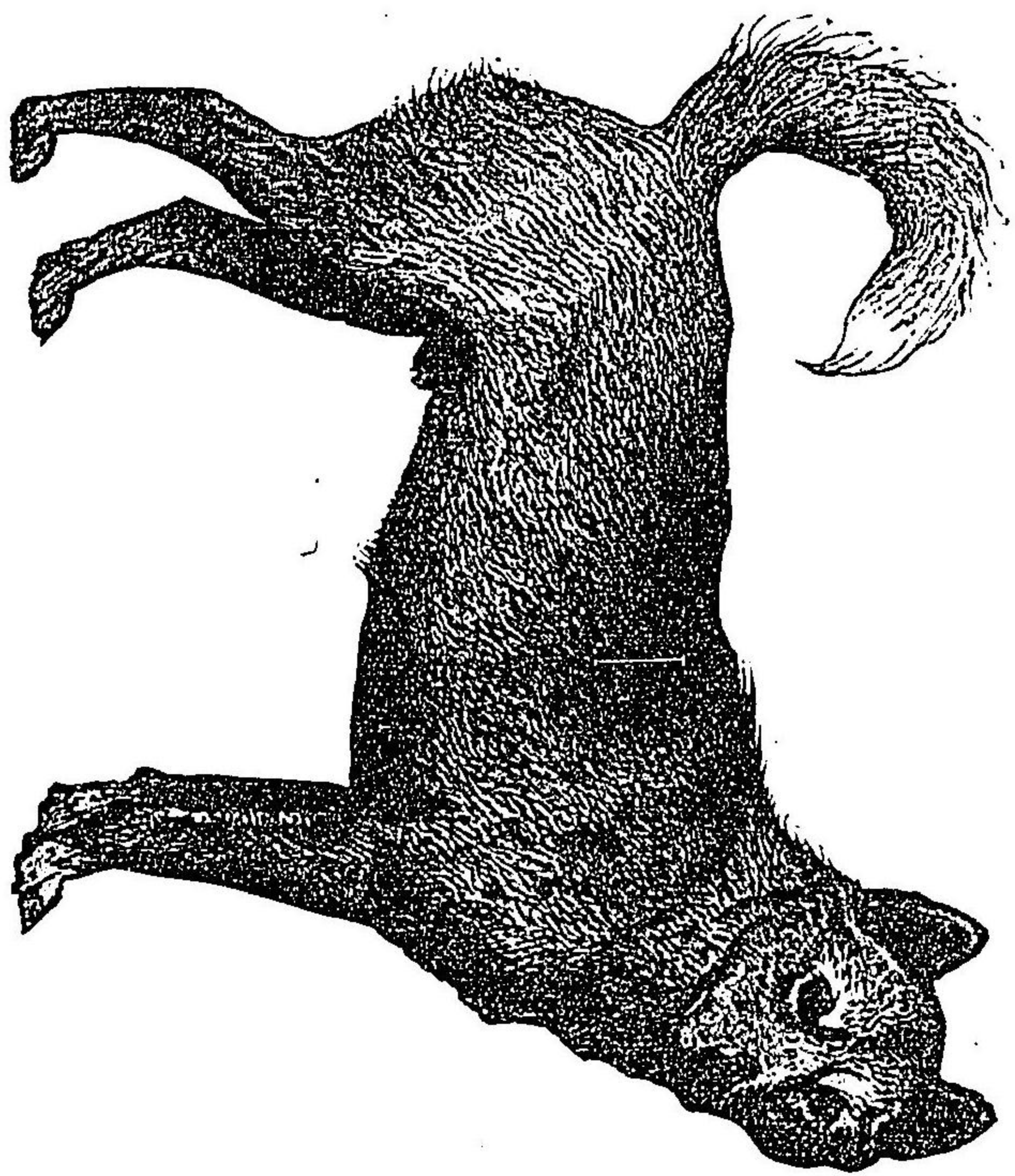
## 三「セントドミンゴードッグ」(St. Domingo Dog)

往昔西班牙人が其殖民地に於て飼養し「ブラッドハウンド」(Blood-hound)の如く用ひたるもの逃れて「ヘイチー」の森林中に入り自然的境遇を得て其性質粗野となり野生の狀に復りたるもの即「セントドミンゴードッグ」犬なりと言ひ傳へらる此犬の大きさは二十八

時位にして頭部に長剛毛を生ずる「テールリヤ」(Terrier)犬の如く眼  
 は巨大にして眼光頗る鋭く其色褐色なり耳は小にして其聳端  
 尖りて稍前方に曲折し、頸長く、胸深く、腰稍彎曲し、四肢輕捷なり、  
 尾の長さ膝節に到らず、體毛暗灰色にして長く、鼻、口唇及眼瞼は  
 黒色なり其性質勇猛獐惡なるも人畜を害すること稀に、嗅覺敏  
 捷にして人の足跡を追嗅し能く各人の臭を嗅ぎ分つなり故に  
 西班牙人は此犬の仔を野に捕へて馴養し家畜、財物等の護衛に  
 用ふと云ふ

#### 四「デイン「ロー」」(Dingo)

其體形は狐に似て其頭は狼に類す遠くより望めば一瞥狐と誤  
 認することあり其口端長く尖り、耳は短くして直立す、體色は被  
 毛短細にして濃黄色なるものと被毛長くして灰色なるものと



相交はれり、尾は長太多毛にして狐尾に酷似す、體の高二十四五寸、性質猛惡にして之を野に捕へて飼養するときは容易に馴れ親むと雖も一たび之が繋鎖を解けば直に逃れて山野に復歸す

五「ドホール」(Dhole)

印度の野犬を稱して「ドホール」と云ふ其形體前種に似て其尾稍細し、胸深く體瘠せ、體毛薄くして赤褐色なり、四肢輕捷にして強く其駛走力の大なるを示せり、性質勇敢にして人に恐怖し逃遁するが如きことなく又人の之に接近することあるも敢て危害を加ふるなし、此種は時に畜舎を侵して緬羊、山羊等を屠り喰ひ又野にありては麋鹿を獲食す、此種群をなすときは往々虎豹をも逐撃することあり

## 第二章 畜犬

古來人に馴養せられ長く其用途に従ひ人爲的淘汰を受け改良せられたるを以て今日にては甚多數の種類を成すに至れり、されど之を其用途によつて大別すれば左の四類となる

第一、 獸獵犬

第二、 鳥獵犬

第三、 番犬

第四、 愛玩犬

以下順次此等の解説をなす

### 第一節 獸獵犬

獸類を躡驅し或は咬嚼以て之を斃し或は陷筭又は弓鎗によりて獸獵するの助となさむが爲古來馴養利用せらるゝ犬は總て獸獵犬に屬す此目的に對して改良せられたる優良の種類甚多し

#### 一、グレイハウンド (Greyhound)

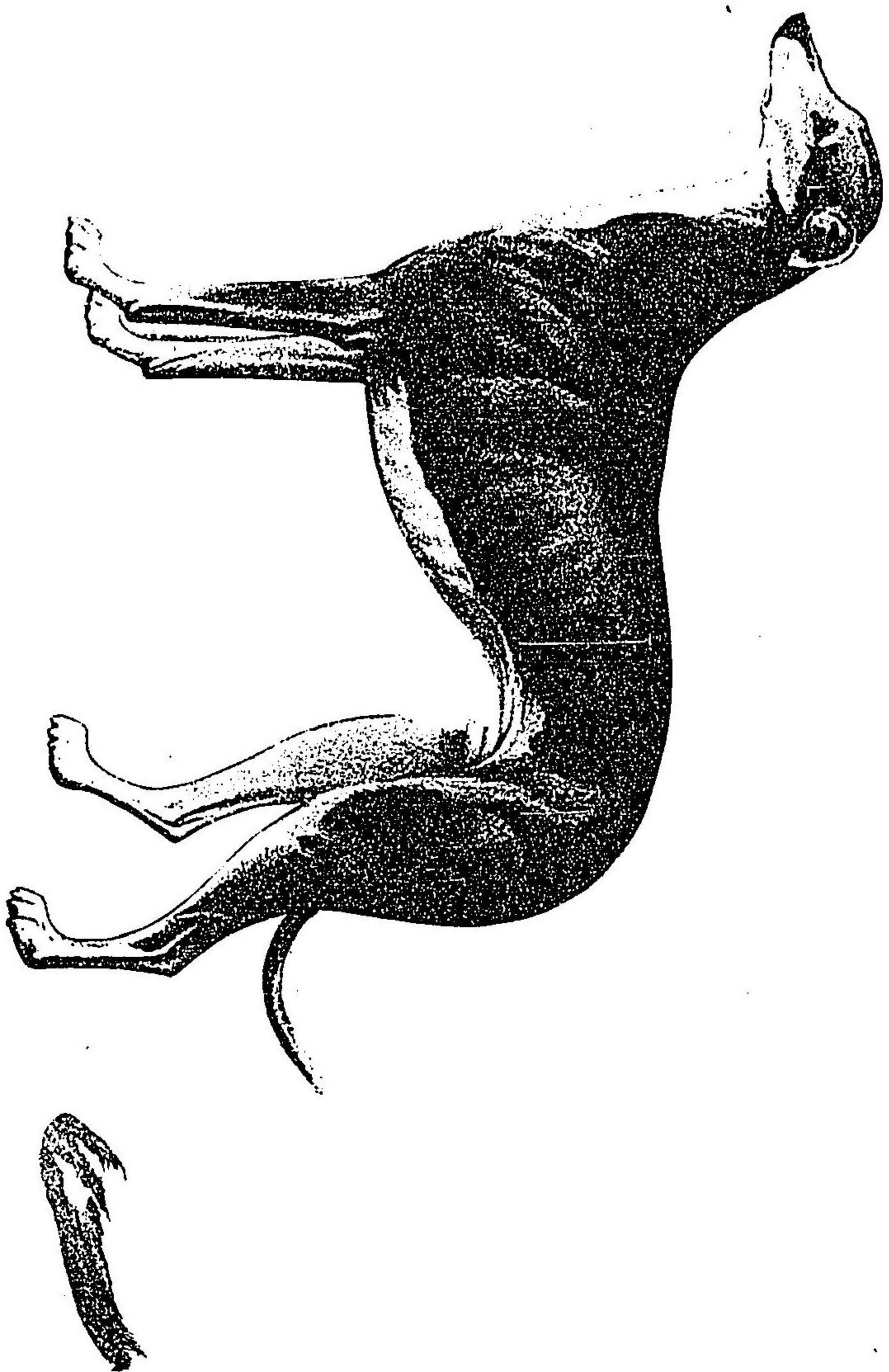
此種は三千年以前より飼養せらるゝものにして埃及に存する墓石、紀念碑等の彫刻像に對照するに其形態容貌に於て古今殆んど其差異無きが如し蓋し埃及人は諸種の犬を畜養せしも、就中最愛用したるは本種なりしと云ふ又ロール (Rou) 人は本種の粗毛種と短毛種とを飼養して獸獵に使用し或は愛玩に供したりしといふ北亞弗利加のサハラに居住せる人種には此種を愛用して之か餌料に供せむが爲に殊に山羊を畜養するものあり

しと云ふ

本種は其優美なる姿容と其馳走の輕捷なるとにより各邦土に飼養せられたるを以て地方の異なるに従ひ其形態上多少の相違あるものを生じ即ち本種の内種成立するに至れり「イングリシグレイハウンド」(English Greyhound)「ベッドウキン、グレイハウンド、オブ、アカバ」(Bedwin Greyhound of Akabah) 露西亞及韃靼種「スコテキシグレイハウンド」(Scottish Greyhound)「アイリシグレイハウンド」(Irish Greyhound)の五種は其重なるものなり

(5) 「イングリシグレイハウンド」(English Greyhound)

本種の特徴として稱揚せらるゝ所は其優美なる形軀、其迅速なる馳走力及其勇敢剛毅なる性質にして之がため或は詩人に謳はれ或は畫家の摸型となり記録に、繪畫に後世に傳へら



ドックハウンド

れたるもの甚多し

嗅覺他種よりも稍鈍なれども視力の鋭敏なるは又他種の及ぶ所にあらず是れぞ本種の特質にして其獸類を追躡するや體臭又足臭に憑るにあらず専ら視力によりて之を認識し快速力を以て突進し勇猛と忍耐とを以て之と闘ひて終に克く之を捕獲す其駛走力の大なる二十分時間に能く八哩を走るといふ

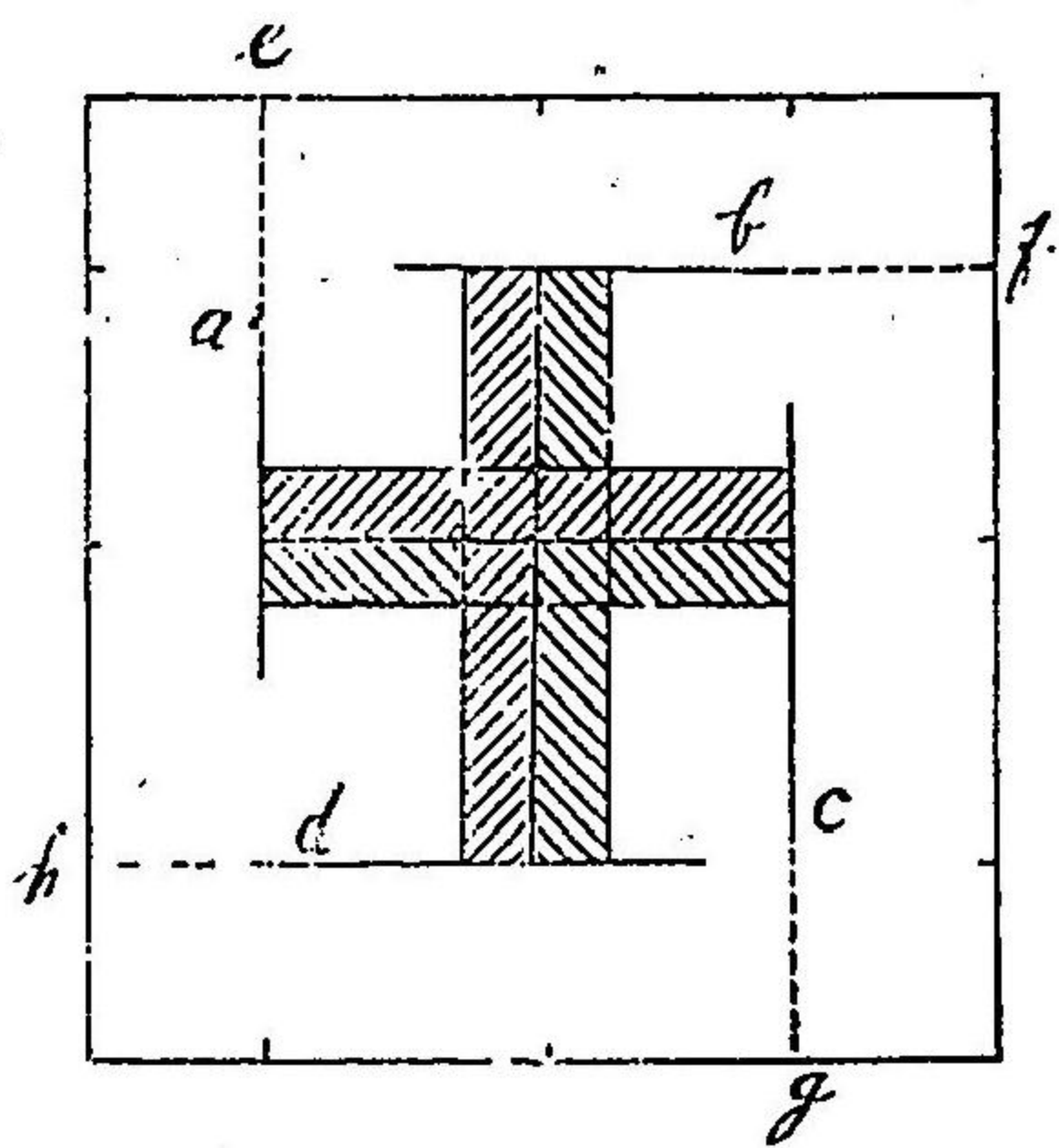
形態は頭部蛇頭の觀を呈し狹長扁平にして後部稍廣く鼻梁は頭部と段を成して急に尖り眼清澈にして頗る鋭く其動作亦敏捷なり耳は小にして直立し其尖端稍曲折せり頸は細長なれども筋肉に富み其屈伸甚自由なり頸の短きものは其動作活潑ならず又其馳走も頗る遲鈍なりとて之を忌む胸は深

くして肩峰より胸骨の方に向ひて楔形に狭まき所謂斧形を成せり蓋し胸の深きは肺臓心臓の發育充分に馳驅に適することを證せるを以て大に貴まるれども其廣幅なるは前肢の運動を緩慢ならしむるを以て人の好まざる所なり脊は廣く方形を成し稍穹隆せるものを貴ぶ而して其肩より季肋骨に至る間の長が季肋骨より臀骨に至るの長よりも大なるものは馳走頗る迅速なりと云ふ腰は幅廣く強大にして筋肉に富み頗る馳驅に適し尾は細長にして少しく上方に彎曲し居れども歩行するに當りては之を垂下し居れり前肢は垂直にして優良なるものにおいてはその肘より膝に至る長が膝より地面に至る長の二倍以上あり後肢亦垂直にして脛より地面に至る長甚小なり前後肢共大體に於て體軀の割に細小なれど

なれども前肢の肩と後肢の股とは強大なり蹠稍長形にして扁平なり毛色は灰色又は暗綠色のもの最賞揚せらるされど最多きは赤褐又は鹿毛のものなり稀には斑色のものもあり被毛短く其質纖軟なり羊毛の如きもの或は密毛のものは他種類との雜種なりとて之を忌む體量は大なるものにおいては百斤に達すれども通例は五六十斤にして小なるものにおいては僅に四十餘斤なり其高は地面より肩の上までを測りて平均二十五吋あり要するに本種の體格は瘠細なれども體質堅くして筋肉能く締り恰も馬に於ける英國純血種の如き觀あり

此種を飼養するには犬種中特に周密の注意を要するものなり殊に仔犬にありては氣候の變化に應じて充分の保護を與

ふるにあらざれば成育困難なりとす  
 「グレイハウンド」(Greyhound)の犬舎は他種の犬舎よりは特別に防寒の設をなし且舎内にて自由に運動し得る様の構造を要す今歐洲各國にて本種の犬舎として建設せらるゝものゝ構造を圖示せば左の如し



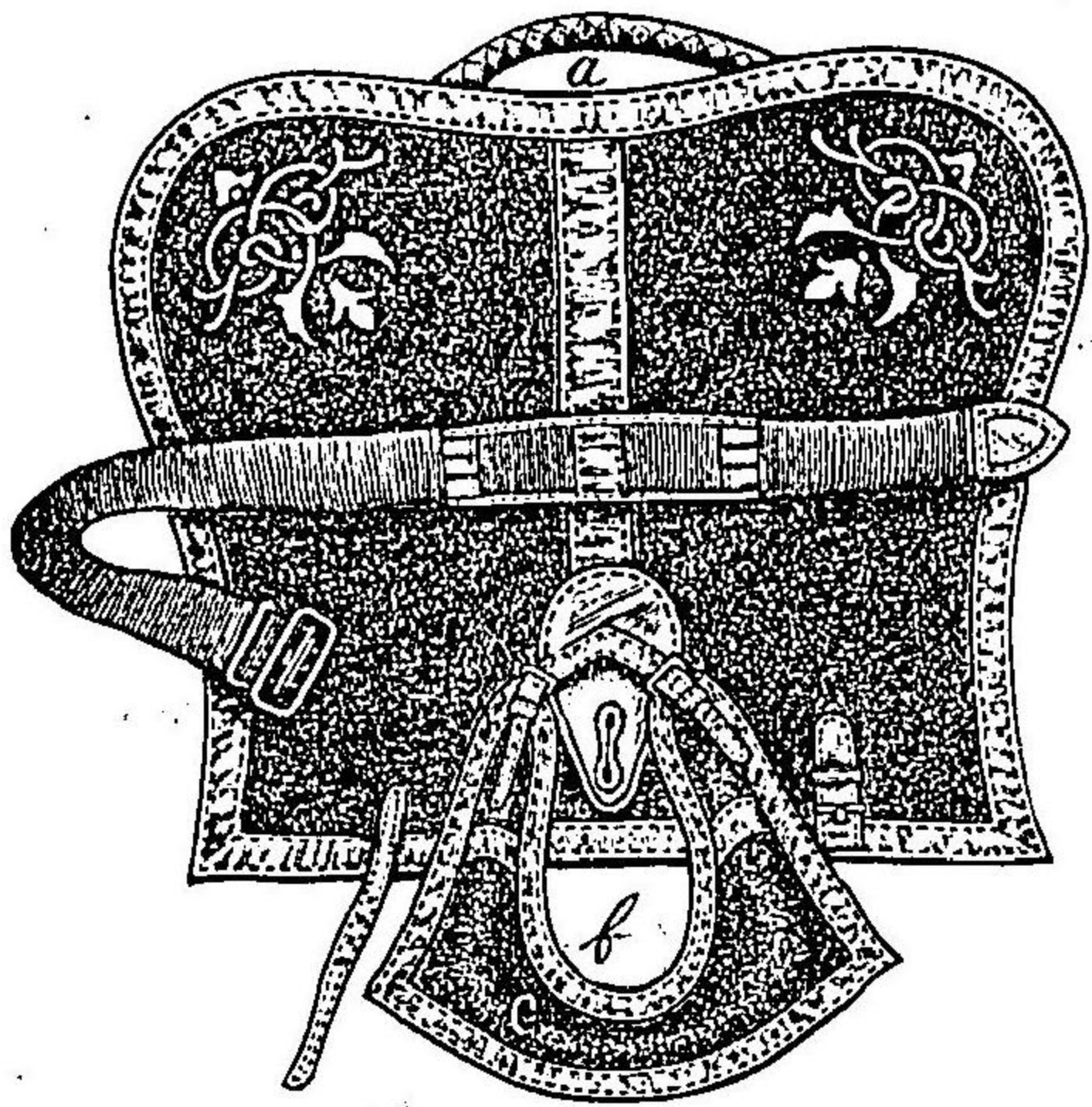
即ち犬舎の壁は二重圍にして第一壁と第二壁の間は運動場なり内壁中點線にて表はせる  $ab$   $fg$   $cd$   $gh$  の部分は取放し得るの装置となし臨機之を開放して内壁の外周を運動するに適せしむ而して内壁の内部は之を四區に分劃し各區に一の出入口を設け且各房

間の隔壁に沿ひて高一尺二寸位の棚を設け寢所に備ふ又此犬舎の屋根には空氣抜きを設けて通氣を良くし又舎内は能く掃除して清潔ならしめ此他一般の注意を要するは他種と異なることなし

前にも言ふ如く此種の飼養に關して最注意を要するは仔犬時代なり仔犬の生後十日前後に至れば其距を鎌子にて拔去るべし其後斷乳を行ひて飼料を給するに至らば脂肪分の少なき食物を少なくとも一日三四回之を分與し且之に骨又は骨粉或は燐酸石灰の如きものを加用すべし此種は性來小食なるを以て其充分成長期に達したるものにあつても一日一回の給食にて足るべく又別に脂肪分を與ふるに及ばざるべし又此種は體軀概ね清洒なるものなるが故に通例洗滌を要



せず僅に一日一回位刷毛を用ひて梳拭すれば足れり而して仔犬の育成に際して氣候寒冷なるときは左圖の如き被衣を用ひて舍外運動を行はしむべし



圖に示す被衣の上部は體の後部を被ふ所にして(a)の所より尾を出さしめ(b)より首を出さしめ(c)の部を頸より前胸に懸垂せしむるなり

(ろ)「ベドウィン、グレイハウンド、

ラブ、アカバ」(Bedwin Greyhound of Akabali)

此種類はベトウイン(Bedwin)及アラビヤ(Arabia)地方に飼養するも

のにして前種と他種との交配により生じたる雜種なり一般の形態甚前種に類似すれども只僅に大形なると前種の優麗なる容姿あるに反して本種は稍勇猛の狀貌を有せるの差異あり體毛は赤褐の單色なるものと白と黃褐との駁色なるものとあり往古當地方に遊牧を營める住民は本種を使用して羚羊を狩獵し又た彼等の財産、家畜等を守護せしめたりしなり

(は)露西亞及韃靼種(Russian and Tartarian Dog)

英國種よりも稍大きく二十七、八吋位あり耳は短く其先端少しく前方に垂る體は英國種よりも狹長なり其被毛長からざれども厚く卷縮して互に結捲せり尾は臀部に近き部分は長毛を生じ先端に至るに従て短毛なり體毛は黑色或は灰色な

り  
此種は嗅覺頗る鋭くして獸類を追躡するにも亦専ら嗅覺によりて之を爲す露國にては之が十數頭を一群となし森林中に棲息する熊或は狼を狩るに用ひ又は鹿及兎等を捕獲せしむ

(に「スコッテキシ、グレイハウンド」(Scotish Greyhound))

形態前種に似て「スタッグハウンド」(Staghound)と英國種との雜種に成れりと云ふ嗅覺鋭敏にして「ブラッドハウンド」(Bloodhound)と同じ働をなさしめ得べし

(ほ「アイリシ、グレイハウンド」(Irish Greyhound))

形態前種に類似せるも此種は英國種と「グレート・デーン」(Great Dane)との雜種に成れるを以て體格餘程頑強にして其軀幹も

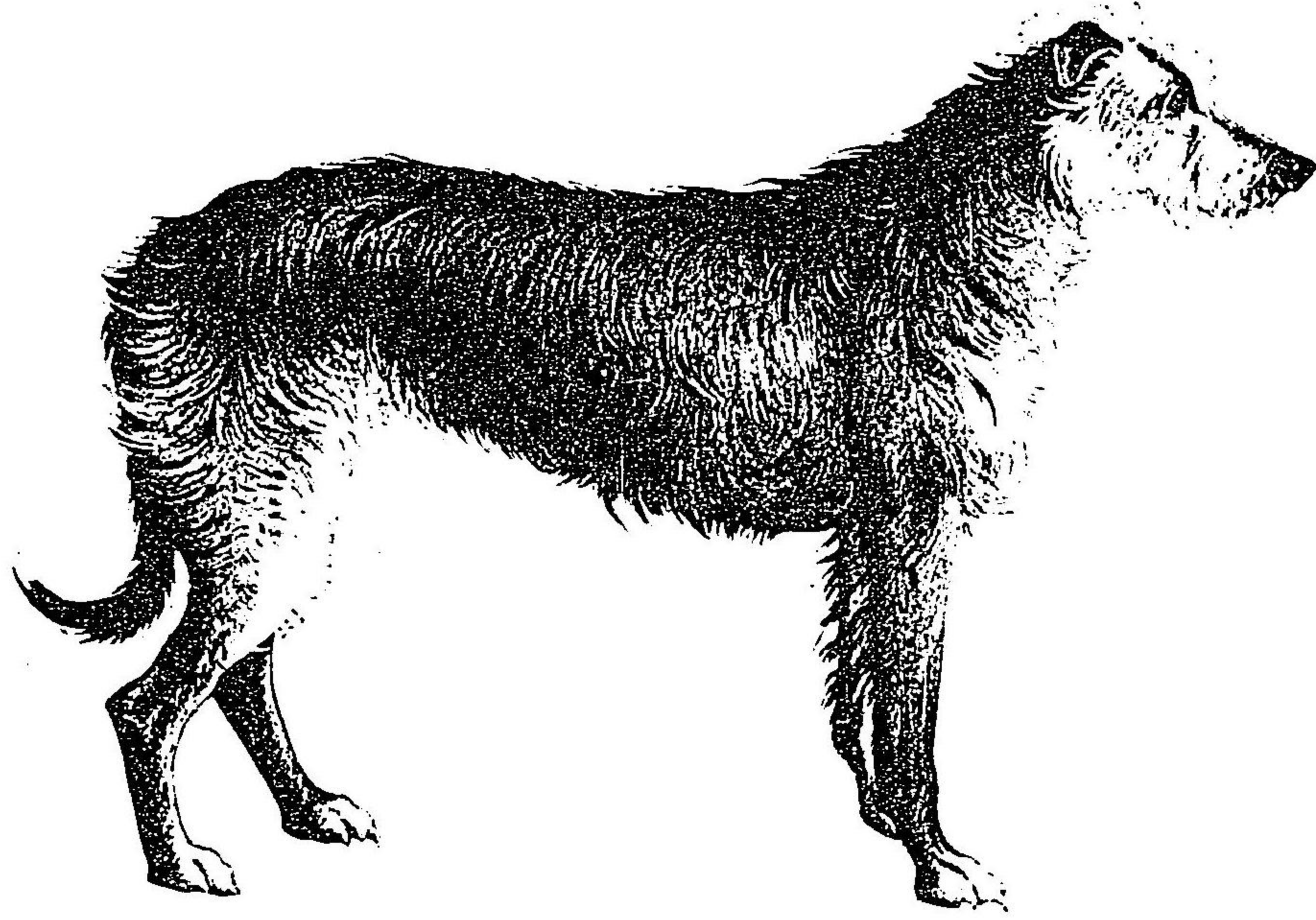
英國種などに比して頗る大に體毛は淡黄色なり西部歐洲にては狼を襲殺するに本種を用ふと云ふ  
以上數種の外土耳其種、伊太利種、埃及種等あれども是等三種共に今は愛玩用に供せらるゝものなれば後項に於て述ぶる所あるべし

### 「ニ、デ、井、ヤ、ハウンド」(Deerhound)

其名の如く主に鹿獵に用ひらるゝも其毛色の美なると其容姿の威風あるとは飼養者をして愛玩の念を起さしむ而して山野に出でゝは大鹿、狼、山羊、兎等を捕獲し時に養主が山中にありて黒熊等の襲撃に遭ふが如きことあれば猛進之と闘ひて養主をして安全の位置を保たしむるまで扞拒防衛するの勇あり又其嚙咬力の激烈なる豺狼すらも此種の一嚙には致命すといふ又

その跳躍することの巧妙なる能く二頭並列せる馬背を飛越すといふ此の如く一旦事あれば甚勇敢なる動作あるにも拘はらず平常は頗る穏和にして能く養主の命に従ひ教練するあれば養主の書翰を其知友の許に届け且返翰を領して得々として歸り来る等可憐の知能を有す

姿容優美且雄大にして性質穏和に威風あるの態度は前種「グレイハウンド」に類似せるも毛色の美にして調和せるの點は遙に之に勝る其毛色は一般に鐵色又は黃褐色或は鹿毛なり、地面より肩までの高平均三十吋前後體重九十斤より百斤を超過するものあり頭部は粗大種の「グレイハウンド」(Grey hound)に似て長く眉部隆起し夫より急に低下して鼻梁に連なる鼻及顎は長く齒の排列齊整に鼻孔潤大にして黝色なり頬の筋肉善く發育し



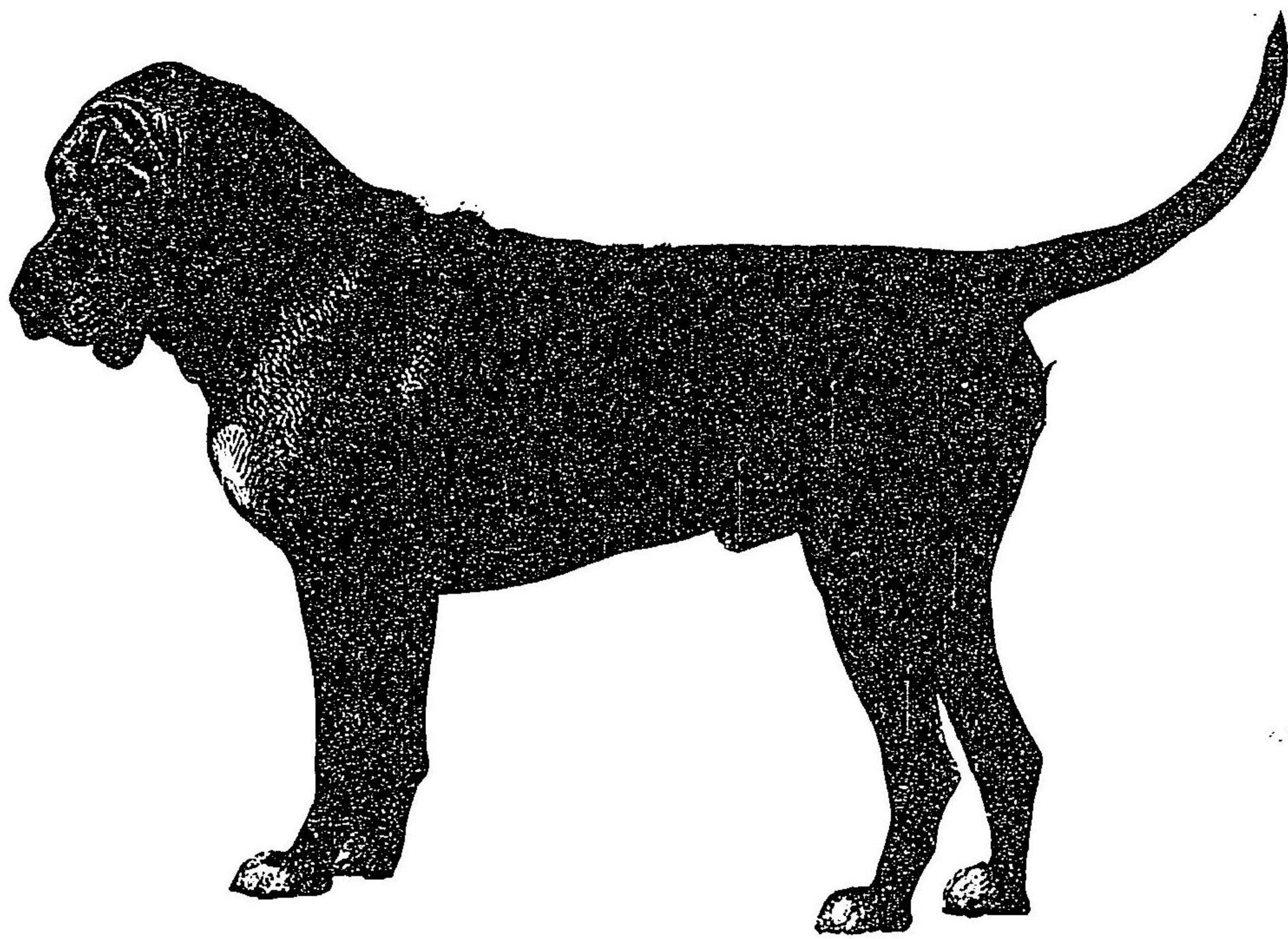
ドンウイヤキデ

耳は小にして薄く其位置は「グレイハウンド」の夫れより稍高く頭部に位して其先端稍前方に曲折せり間には全く直立せるものあれども是は本種の純粹種にあらずとして之を忌む耳の周邊には細長の毛を有し耳朶の表面には短毛を生ず眼光鋭くして敏捷を表し眼は黒褐色又は綠色なり頸部は頗る長くして馳走しつゝ逐ふ所の野獸類の足臭を嗅ぐに便なり然れども前種の如くに細長ならざるなり胸は幅よりは深さ大にして「グレイハウンド」に似たり而して胸圍の全長は通常地面より肩までの高よりは二吋程長し肩は稍長く斜にして筋肉に富めり背部は頑丈にして適當に穹隆し腰部は筋肉能く發育して重大に濶歩馳走するに適せり腰の周圍平均二十五六吋あり肢は眞直にして骨太に筋肉善く發育し趾は穹狀に高まりて趾々相接着せず

是れ全速力を以て岩石多き山嶽の間を馳驅し又は峻峰險坂を攀躋するに適す體毛は三吋許の長毛と細短毛と相交り密生せりも背部のみは稍疎生なり、毛色は暗綠色又は鹿毛色或は灰色なり尾は長くして上方に捲き揚りて短毛を以て被はる

### 三ブラッドハウンド(Bloodhound)

此種は歐洲大陸に於ては獵用として獸類を追躡し又は其巢窟を搜索するに用ひらる而して獨逸には此種に「シュワイスフンド」(Schweiss-hund)「ライトフンド」(Leithund)の二種あり「ライトフンド」は歐洲大陸に於ける眞の「ブラッドハウンド」なりと云へり又此種の英國に入りしはウキリヤム、コンケラー(William Conqueror)の時代に在りと云ふ本種の祖先は「タルボット」(Talbot)なる白色のものより改良せられしものなるが該種は十二世紀より十六世紀



ドンウハドツラブ

の頃までは盛に飼養せられたれども十八世紀に至りて遂に絶滅せりと云ふ

此種は獸獵に用ゆるのみならず顯理三世の時代にありては森林盜伐者の防衛に使用せられ又牧羊者は飼羊の盜賊を追躡せしむるに之を用ひたりと云ふ

此種の特性として能く血臭を嗅ぎ分け且一たび嗅覺することあれば如何なる處までも追躡して之を發見せざれば止まざるなり性質勇敢なるも決して獰猛の傾を有せず人或は此種を以て兇猛となし若も其怒に遭ふあらば直に嚙噬寸斷せらるゝ如く想ふものあれども其は大なる誤念にして平常は頗る穩和にして決して兇暴ならざるなり

此種の特徴として頭形他種と異なれり故に其種類の純正なる

や否を知らむとせば先づ第一に其頭部に就きて精査するを要す即ち牡は頭部長大にして顔面の皮膚は頰部と額部に於て多くの皺積を存し眼は深く、顛頂骨非常に高く突起し顎は長く鼻先は幅廣く、額部は稍隆起し、一般に頭形厳しく見ゆ又牝は其形稍小なるも同しく此特徴を呈す、耳朵は着根よりして下方に垂下し薄くして頗る長大なり試に兩耳を引き展ぶれば鼻尖を過ぎて猶ほ先端相逢うて重疊する程なり其表面には短毛密生す、眼は小にして深く其色黒色なり、口唇は軟く大にして深く一二吋も垂れて口腔を蔽ふものあり、頭は長くして歩行しつゝ、鼻尖を地に附け得べく、頸の前面には著しく發育せる垂肉を有す、胸は深よりは其幅廣く、背部の幅も亦廣大なり、臀部は肥大に筋肉善く發育す、此種は兎角に肢足の發育充分ならざれども脚眞直

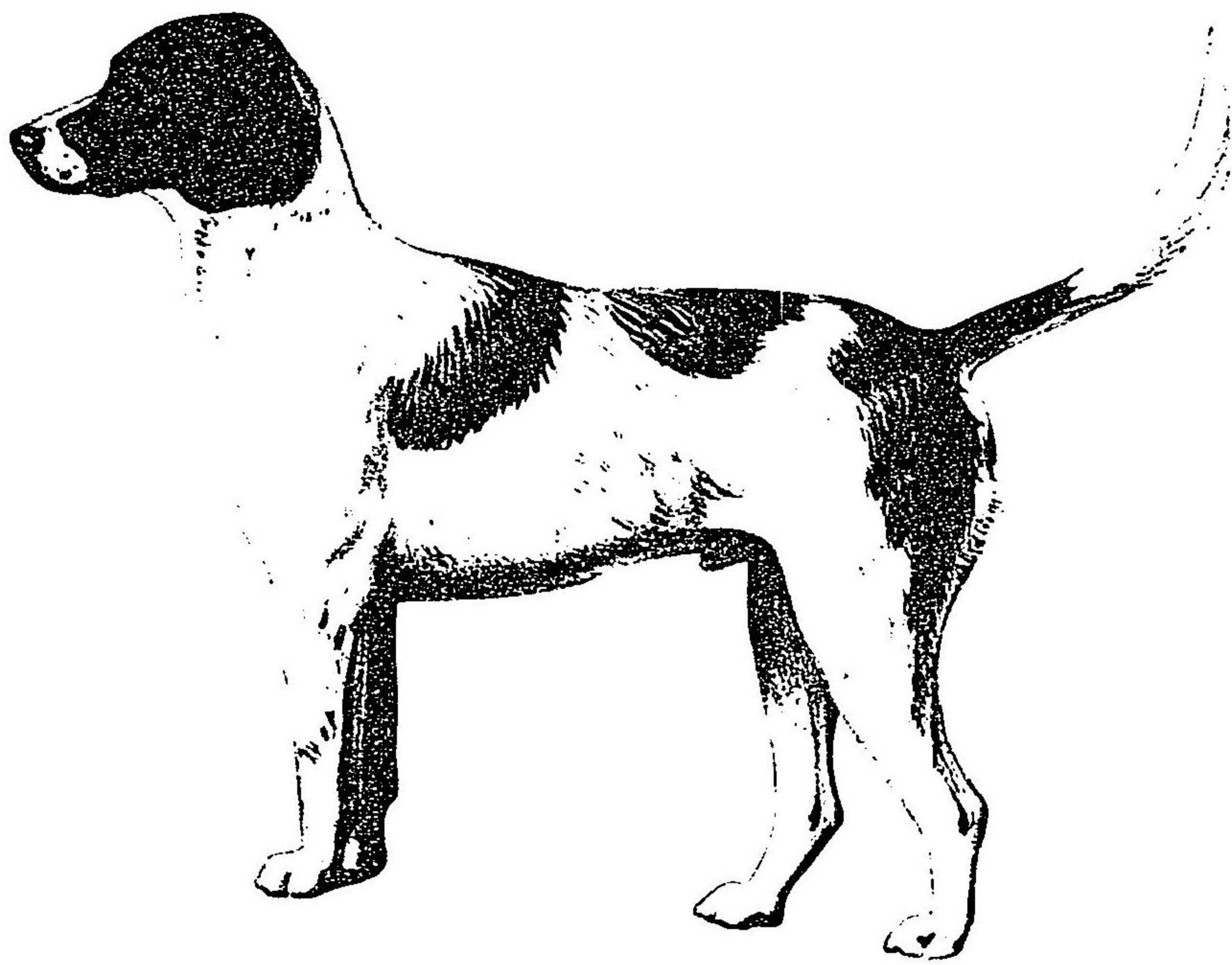
に、蹠節太く、趾蹠圓大に、趾の穹状をなせるものを良とす、體毛は短くしく硬く、毛色は黃褐色又は黃褐色に背より頭部にかけて黒色を帯ぶるものあり、間には全身黒色に見ゆるものあれども仔細に檢すれば何處となく黃褐色を帯べり、尾は他の「ハウンド」(hound)の如く先端に近き處にて稍彎曲し上方に向ひて背の水平線と殆んど直角をなせり、此種の飼養につきて注意すべきは此種の牝は妊孕すれば神経殊に過敏なるを以て其取扱を靜穩にすることを忘るべからず

#### 四「フォックスハウンド」(Fox-hound)

此種は二三世紀以前より行はれ初めたる彼の數十の獵を一群となし獵師は馬に跨り之を率ひつゝ、平野に狐を獵するに用ひ

むが爲に改良せられたるものにして馳走の速度甚大に且如何なる困難にも堪へ得るの性を有し狐を驅逐する十時間以上に及び獵師は三回も其乗馬を取代ゆる程なるにも拘はらず克く忍耐して驅逐を繼續すといふ斯の如き馳走の速度大なるものを得んとするには多くは「グレイハウンド」(Greyhound)を以て雜種して其馳走力を増さしむるものゝ如し

本種の米國にあるものも其祖先は英國に出でたりと雖も英國種と米國種とは其使用の途異なるよりして形態稍差あるのみならず性質も亦異なれり即ち米國種のもは形稍輕小にして吠聲鋭く其馳走の速度頗る大にして狐を追驅するに用ひて遙に英國種に優る英國種は形雄大なれども其馳走の速度は米國種に劣れり是れ英國にては體色狀貌若くは其音聲に重を置き



ドンウンスクツォフ



馳走力の如きは之を第二となせるが故なり此兩者の差異は恰も馬匹の競馬用種と通常の乗用種とに於けるが如きものありなり

今米國種のものに就きて其形態を舉れば地面より肩までの高二十吋より二十三吋、體量は五十五斤を上らず、頭部は體の割合に小に、鼻梁は長く、鼻孔大に、眼も亦大にして鋭く、兩眼の位置恰好なるも瞥見して相近接せるの觀あり、耳は大にして頭の下部に位置し、頰部に接して垂下せり、頸は長くして皮膚垂みあり、肩は輕快の働きを爲し得べく、善く發育せる筋肉を有せり、胸は深くして肺及び心臟の發育善良なるを示し、胸骨は龍骨狀をなし、腰は高く穹狀をなし、幅廣くして筋肉に富み、尾は背と一直線の位置に附きて上方に彎曲し、肢は眞直にして各關節の骨は大に

發育せり、趾は所謂猫趾にして穹状をなせるを良しとす、體毛は短くして稍硬し、時に尾部の被毛のみ稍長きものあり、毛色は黒又は黃褐の單色なるか又は黒と白或は黃褐と白との駁色なり、此種は生産力大にして一産能く二十頭の仔兒を産することあり

#### 五「ハーリヤ」(Harrier)

此種は英國の南部に於て野兎獵に使用す前種より小形にして平均高十八寸あり其吠聲美にして妙韻を含めり而して一群同音に吠ゆる時の聲は囂然として能く數哩の外に達す一般の形は前種に似て稍矮小なるのみ故に通常人は之を「ビイグル」として見ることもあり

#### 六「ビイグル」(Beagle)

是は今に現在せる往古犬族の一種にしてジョージ四世(King George the IV)及クエン、エリザベス(Queen Elizabeth)時代に於ける此種形態の説明と今日のものと照合して些も異なる所なきなり、一般の形態は「フォックスハウンド」(Foxhound)に似て矮小なり、此種英國北部地方に多く飼養せらるゝを以て「ノーザン、ハウンド」(Northern Hound)の稱あり然れども「フォックスハウンド」に比して體緊りて姿容優美に其吠ゆる聲は宛然一部の音樂の如くにして時に詩人をして左の如く詠ぜしめぬ

*Listening to one music O the hounds,*

*With ears that sweep away the evening dew,*

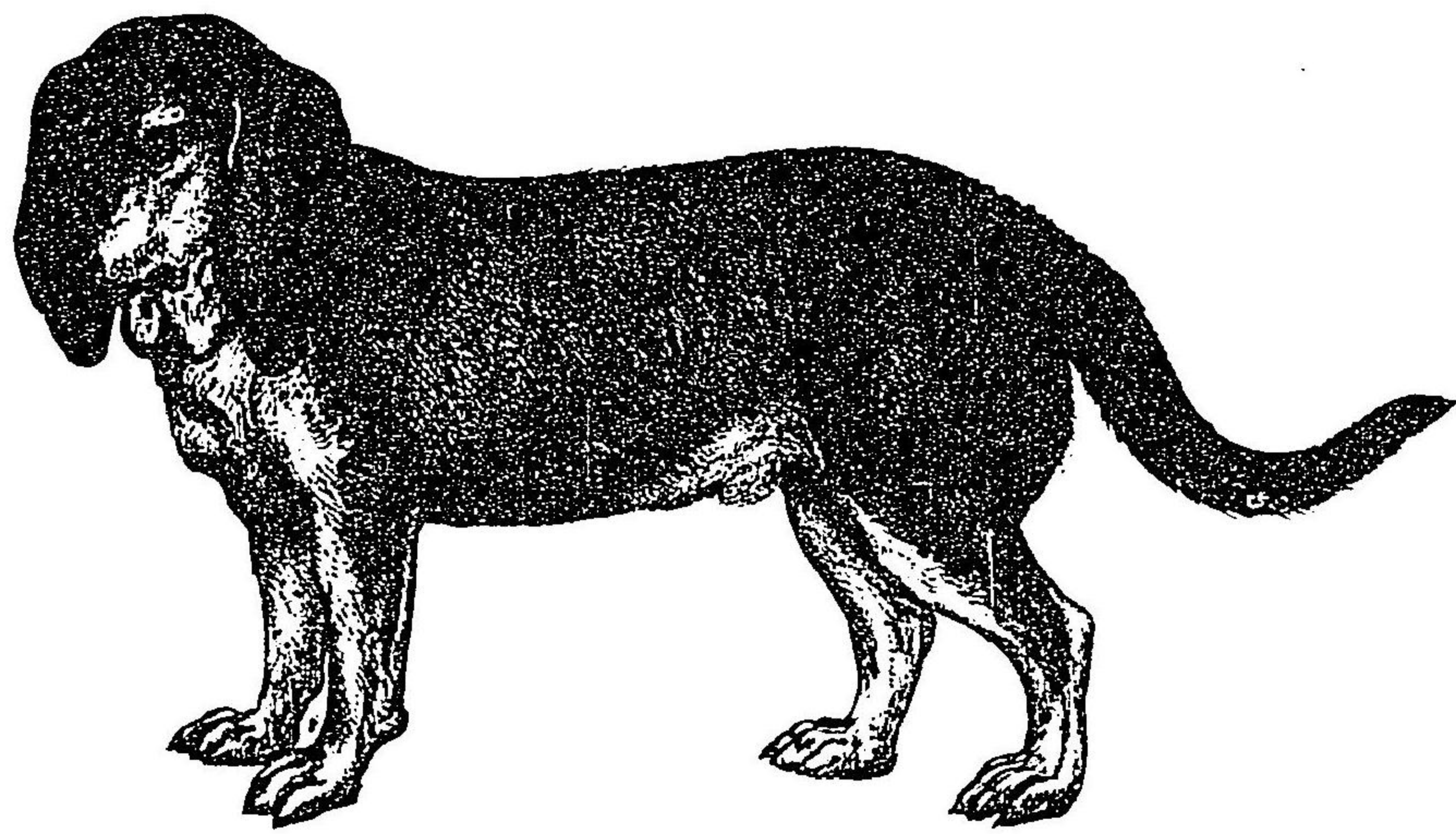
*And voices watched like bells,*

此種は「フォックスハウンド」と同じく十數頭を一群となして野兎

を獵するに用ひ又は狐鹿等を銃獵するに當り之を追躡せしめて狙撃の機會を與へしむるに用ふ其駛走力は「フオックスハウンド」に及ばざれども時に狐を追迫して之を嚙殺することありと云ふ

此種は性質穩和にして一所に數頭を飼養するも「ポインター」(Pointer)、「トリセッター」(Setter)などに比し餘程靜にして舉動亦穩なり又其體軀小なるが故に飼料は少量を以て足り「フオックスハウンド」の一番を飼養する費用を以てして能く「ビイグル」の三四頭を養ひ得べし

「ビイグル」を撰むには踵の短かく垂直にして趾附の形兎の夫れの如きものを採るべし此の如きものは兎を追ふに適すと云せり



レグーロ

此種の體毛は短くして「フォックスハウンド」に似て其色は白と黒又は白と黄褐の駁色にして白色部の多きは遠方より其形體を看望し舉動を窺察するに便なるを以て大に貴重せらる此種には二三の内種あり左に之を擧ぐ

(い)中形種 は地面より肩までの高約そ十二吋あり此に「ビイグ」種の標準となすべきの形態を擧げむに其狀貌「フォックスハウンド」に似て脚短く胴は比較的長くして頭部幅廣く顛頂骨圓狀にして突起し鼻先は方形をなし耳朶は長大にして先端圓く頭の下方に近く着き顴部に接して下垂せり眼は光輝爛々兩眼の間隔濶くして穩和の相を呈し頸は悠容且輕げに肩上に着き短太にして喉の下邊の皮膚に皺あるを貴ぶ胸は適當なる幅を有し肩は稍斜にして背は短く腰は幅廣く前肢は

垂直にして、趾蹠は圓形に、後肢の踵は曲りて牛の如くなるは之を嫌ふ、尾は僅に彎曲して高く之を揚ぐ「ビイグル」にして鼻先の尖狭なるは宜しからず、耳の頭部に高く着くものは駛走に際し左右に廣く開きて傷けらるゝが故に之を嫌ふ又口唇の「ブラッドハウンド」の如く深く緩垂したるは之を忌む

(ろ)「ケリー」(Kerry) 又は「ランネビイグル」形態中形種に似て稍大に専ら鹿獵に用ひられ速力強力共に優り忍耐性に富み且嗅覺の鋭きを以て知らる

(は)矮小種又は「ラビットビイグル」(Rabbit Bengal) 形小にして姿容穩和に嗅覺鋭く形體の割合に馳走頗る敏速なり名の示す如く矮くして僅に十吋位なれども體軀は不整形に長二呎に達す

### セ「バセットハウンド」(Basset-hound)

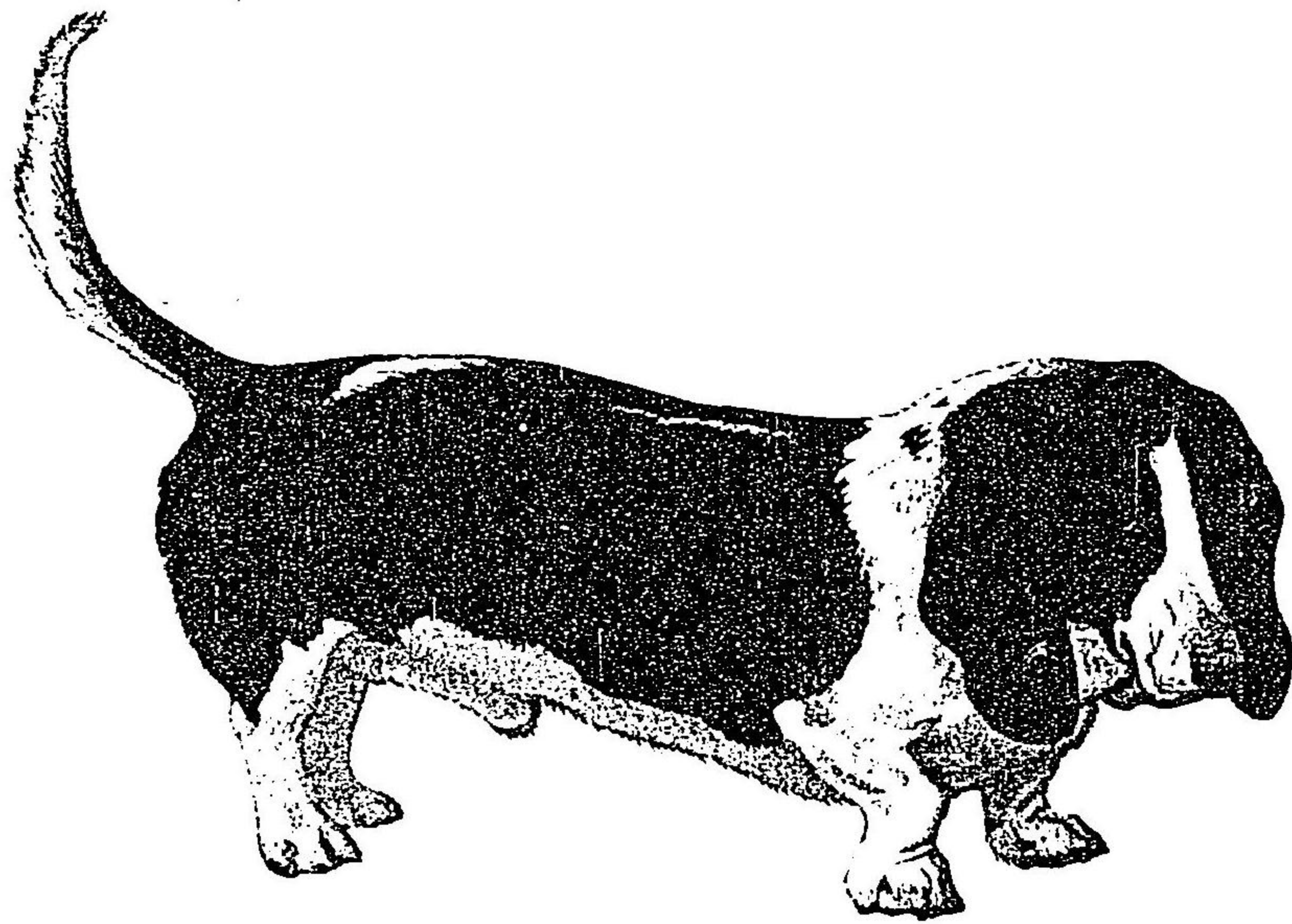
古より存續せる一種類にして佛蘭西に於ては古昔の形態を其儘今日遺傳せり而も佛國には是等に關する歴史なくして却て英國に此種に關する歴史を存す「バセットハウンド」は十七世紀の頃までは佛國にて(Chiens d'Artois)と呼ばれしものなりと云ふ此種は疑ひもなく「ダックスフンド」(Duchshund)と其起原同一なるべしと思はるれども此種は特性の總てが眞の「ハウンド」に似て「ダックスフンド」は却て「テリヤ」(Terrier)に似たり此種に短毛のものと粗毛のものとの二種あり而して尙更に左の三種に區別するを得べし

- 一、 屈脚種 (Crooked-legged) (Basset à jambes torsés)
- 二、 半屈脚種 (Half Crooked-legged) (Basset à jambes demi-torsés)

### 三、直脚種 (Straight-legged) (Basset à jambes-droites)

粗毛種は「バセットグリフォン」(Basset Griffon)と呼ばれて英國の「オタ  
ーランド」(Otter hand)と其體毛及毛色相似たれども「オターランド」  
よりは其性質勇敢なりとす

以上三種の中半屈脚種は屈脚種よりも輕健勇壯に見え又直脚  
種は前二者に比して更に輕健に見え恰も「ビイグル」の如くなり  
「バセット」(Basset)の野にありて獵をなすは「ビイグル」と相似て嗅  
覺著しく鋭く其臭を感ずるときは盛に尾を搖り動かして哮吠  
す其聲頗る鋭く洪鐘の如し而も其音清朗にして能く響き深き  
草叢の中にも其存在を知り得べし此種の屈脚なるもの  
は疲勞困憊を覺ゆること速かならむかと思はるれども其實決  
して然らずして一時間に克く七哩を走るの速力を有せり性質



ドンウソツセバ

穩柔にして野獸を追躡するも決して之を咬嚼することなく兎すらも咬傷するに忍びざるものゝ如くなり但仔犬時代には驚愕等の爲に咬傷すること之なきにあらざるも生長するに隨て性質穩和順良となるなり又此種の仔犬は寒氣を恐るゝが故に寒冷の候に仔犬を育養することは頗る至難なるも稍成長すれば強健にして復た羸弱ならざるなり

此種は其頭形「ブラッドハウンズ」に酷似して稍長く、顛項骨突起し、前額は扁平なり、顎は長く頑丈にして平に上顎は下顎より短く、齒は小なり、鼻は餘り大ならずして黒色を呈し、耳は長大にして軟く短軟天鷲絨の如き毛を以て被はる、眼は濃褐色深邃にして自ら順良の相を現し、頸は長けれども剛勁にして胸に被及するの垂肉を有し、胸は善く發育し深くして地面と僅に二吋位を隔

つ、肢は甚短く膝節に於て内側に向ふ、趾蹠は關節の塊まりの如くして著しく外方に向へり、體毛は密生して短軟なり、毛色は頭部は黃褐色に、胴は黑白の駁色なり、大さは種々にして一定せず、小なるものは地面より肩までの高九吋位、大なるものは同高二十吋に至るあり、體重も大小によりて二十六斤より四五十斤までの差あり

#### ハダクスフンド (Dachshund)

此種の原種は或は西班牙にありと云ひ或は古代より今日まで存續せる種類の一なりと云ひ又或人は前種「バセット」と同じく佛國より出でたるものなりと云ふ其形態の「バセット」に酷似したるの點多きを以て見れば或は此第三説を實に近しとなすべきか而して此種の第二の原産地とも稱すべき獨逸に移入せしは彼

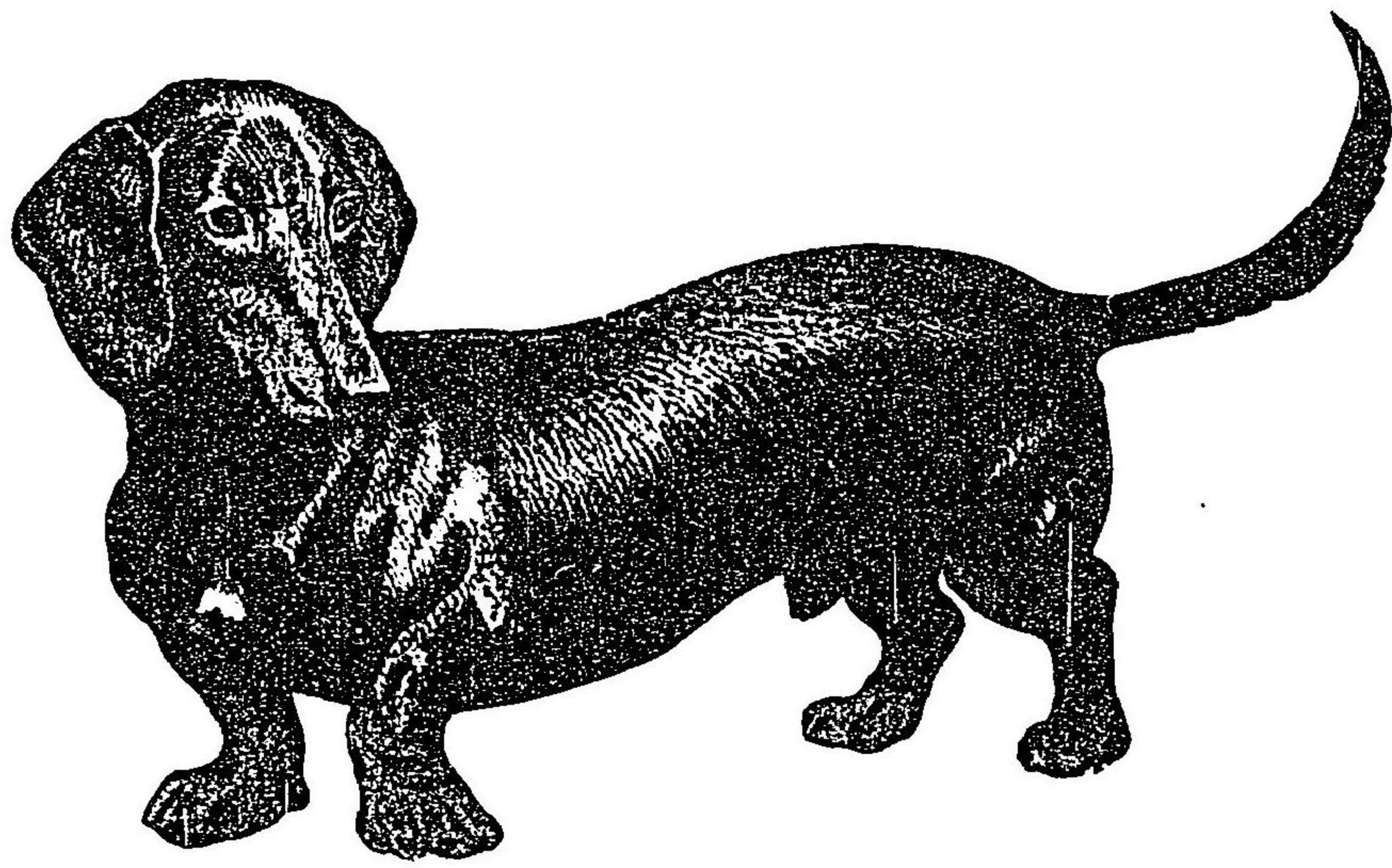
の十七世紀佛軍の侵略以後にして其以前には之なかりしが如し

此種に二種あり一は「ハウンド」に似て一は「テールリヤ」に似たり北獨逸及英國にては前者を參養し南獨逸にては後者を飼育す然れども兩者共に同じ目的に使用せられ且その特性も亦異なる所なし

形態は體の高四吋より六吋に及び背部長く體の前部善く發育し其狀貌一見して穴居の獸類を狩るに適するを知るべし、頭は大にして「ハウンド」に似たり、肩は善く發育し、頸は短し、鼻梁は長大なり、體毛暗黒なるものは鼻も亦黒色に、體毛の赤きものにありては鼻は肉色を呈せり、齒牙巨大に牙齒は殊に大にして四牙共に善く發育し、耳は長大に薄くして高く聳え短き細軟毛を以



て被はる眼は大にして光輝爛たり體毛暗色のものは眼眞黒色  
 を呈し體毛赤色のものは眼褐色なり胸は善く發育して非常に  
 深く地面よりの隔りは三四吋なり前肢は骨太く筋肉豊肥にし  
 て内方に屈し其膝節に於て左右兩脚互に相接近し夫れより以  
 下一吋程の間は眞直に夫れより以下足部は外方に向ひ長くし  
 て扁たし趾は長く扁たくして堅硬なる長爪を有し爪の色は體  
 毛三色のものにありては黒色に體毛の赤きものにありては暗  
 褐色又は黒色なり後肢は前肢より稍長し故に其長き背は中央  
 にて垂みて鞍形をなせり後肢には距爪の發育せるものあり是  
 は普通仔犬の時に拔去るなり趾の發育せることは大抵前種に  
 同じ胸は圓くして長く尾は其根邊甚太きも先端は細く歩行す  
 る時には高く之を揚ぐ然れども決して背の上に捲き揚ぐるこ



ドブスグダ

となし、體毛は短くして細軟なり、其色は黒と黄褐の駁色又は赤褐と黄褐の駁色なるか或は赤色、赤褐色、暗赤色等の單色なり時は黒白及黄褐の三種の駁色のものあり、皮膚は垂みを存して之を把摘せば四吋より六吋位をも撮り揚げらる、全皮膚の面積は體の面積の二倍あるべし故に若し深穴に入り狸貂の類と闘ふに方り咬齧せらるゝことあるも創傷は唯皮膚のみに止まりて其肉に及ばざるを以て苦痛を感ずること少なしとす是は大に他種と異なるの點なりとす

今此種の完全なる形態を有するものゝ體尺を掲げて其各部の比例を示さん

頭の長さ

八吋

鼻端より尾根に至る長さ

三十三吋

尾の長さ	十一吋
肩の高さ(地面より)	十吋
前肢の直後に於ける胸圍	十九吋半
頸の周徑	十四吋半
耳端の周徑	十五吋
前肢の最太部	五吋半
胸の高さ(地面より)	四吋
重量	二十英斤

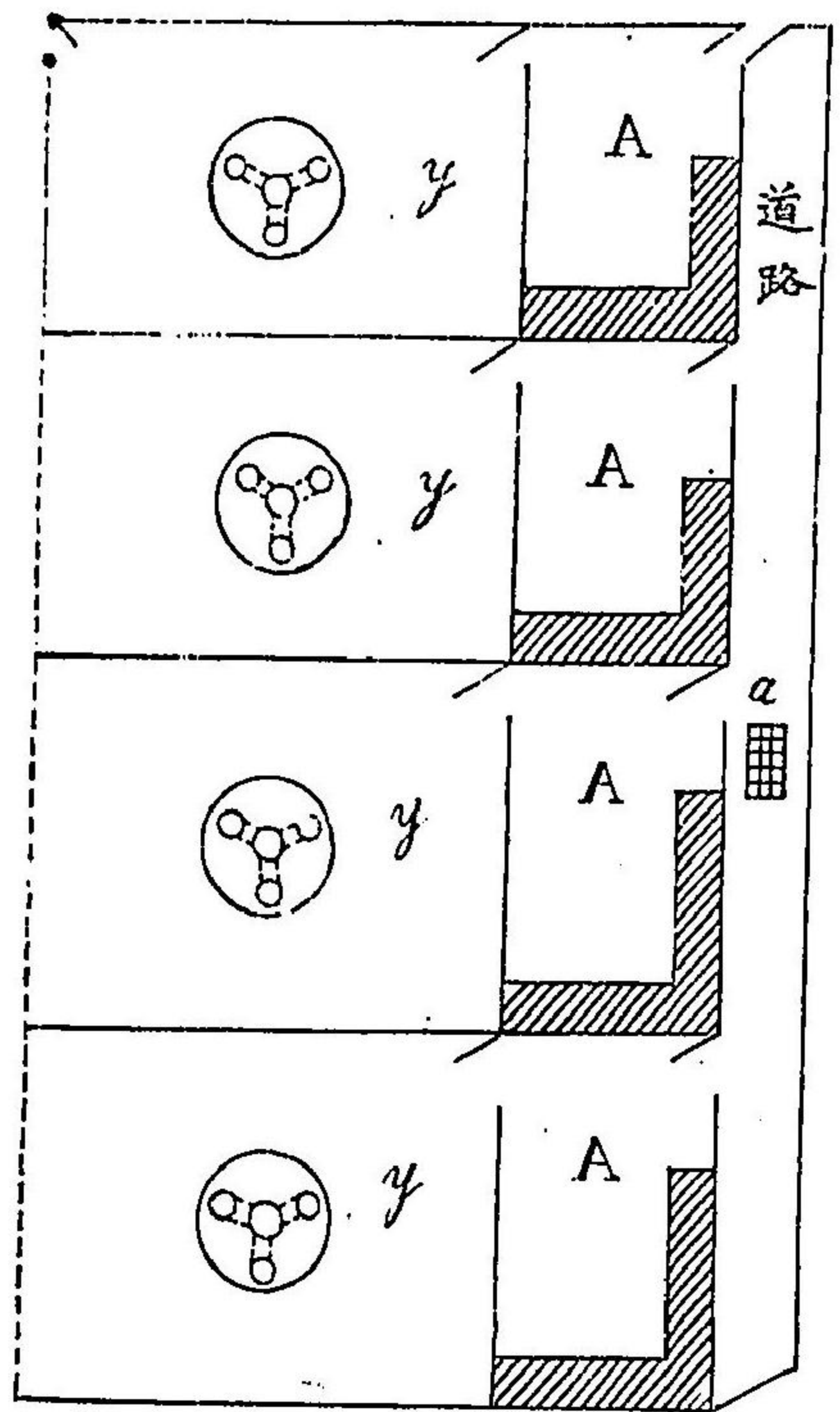
以上は「ハウンド」形のものに就きて之を言へり「テールリヤ」形のも  
のは「ハウンド」形のものに比して一般に輕小なるが形態に於て  
重なる相異の點は頭部にして「テールリヤ」形のもは頭部短くし  
て鼻の方に向つて尖り耳は長大ならず而して肢は垂直に近し

重量は大抵十斤より十六斤位なり短毛なる母犬よりして夫れ  
より稍長毛なる仔犬の生産せらるゝことあり之に人為的淘汰  
を行ひ尙ほ長毛ならしめて愛養せるの人往々之あり

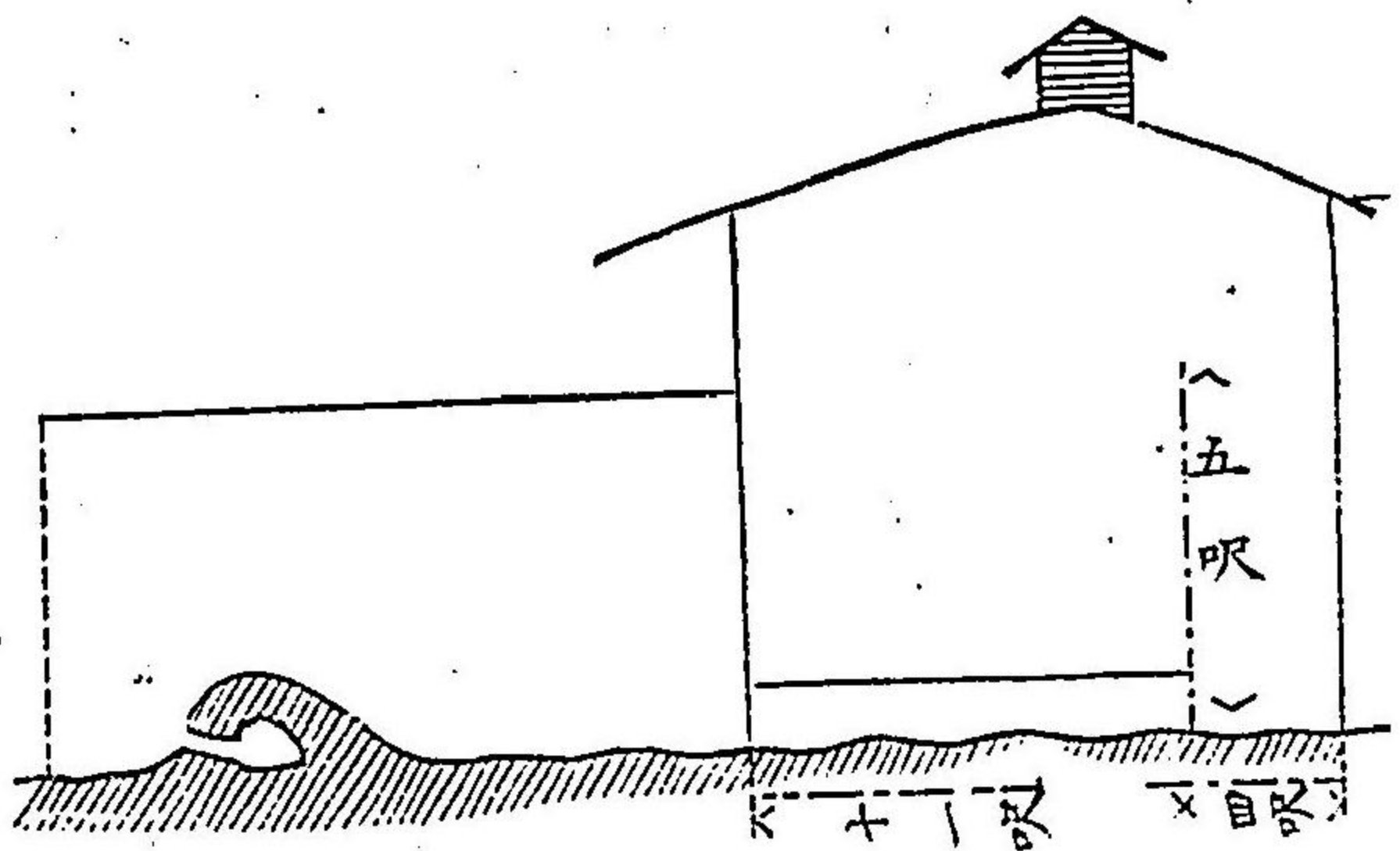
〔此種は其性質勇猛且堅忍にして如何なる猛犬と雖も畏怖する  
なく之と闘ひ能く勝ち得て敵手の形態の大益大ならむことを  
喜ぶものゝ如し而して縱令養主が鞭撻して訓誡することある  
も傲放にして容易に其命令に服従せざるにも拘はらず山野に  
鳥獸を追撃することは又先天的巧熟にして訓練を加へざるも  
決して目的を逸せざるなり其嗅覺頗る銳敏に吠聲鋭く巧に狐  
狸の巢窟中に突進して之を驅り出すが如き本種の特能なれど  
も只命令に従はざるは失なりとす〕

歐洲殊に獨逸にては本種を獵場の野鳥を害する狐の防拒に用

ふ若し狐の来るあれば直に之を追驅し其巢穴に入りて再び之を追出し或は穴中に擊殺して引出し来る然れども狐の巢穴に之が一頭を入らしむることは危険なり往々にして巢窟内の狐族の爲に嚙殺さるゝことあり本種は狐のみならず狸獵鹿獵にも用ゆ然れども麋鹿の傷き倒るゝものあるときは飽までも其肉を食ふの癖ありて注意せざれば頗る不愉快を感ずることありといふ又降雪深くして「フォグスハウンド」(Foxhound)などの充分なる働をなし得ざるに於て此種を用ひて兎獵をなせば大に獵獲ありといふ以上は獵犬としての特質なれども本種は又番犬にも適良にして能く微音を聞付けて吠ゆるを以て農場などには殊に必要なり又能く家禽を害する黃鼬水獺の類を防禦す



此種は地中に巧に穴を穿つの特性あり故に通常の犬舎に養ふときは周圍牆壁の下又は床下に穴を穿つを以て此種の犬舎は特別の構造になさるべからず其構造を圖示すれば上の如し  
 犬舎Aの後側に幅四尺の道路を設け道路の中央の部に煖爐を設くAは犬舎にして道路に沿ひたる側は五呎の高さに金網を以て仕切る犬舎の廣は幅十一呎縱十五呎にして之に隣るγなる處は屋根の設けなき土間にして幅三十呎縱十五呎



の横断面を圖示すれば上の如し

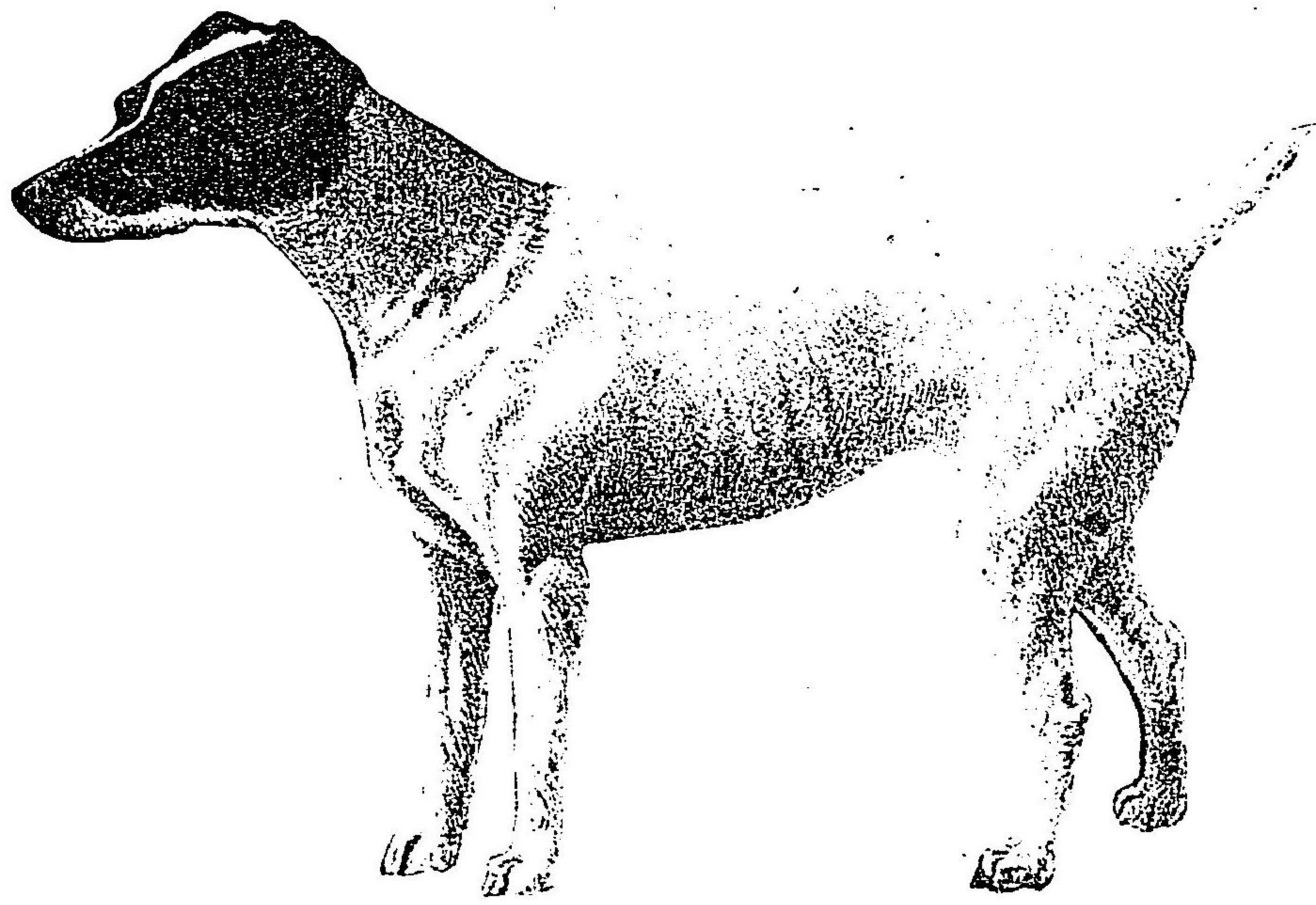
九「テリーヤ」(Terrier)

あり其Aとの境界は戸を以て之を仕切り  
 晝間は之を開き夜に入りて之を閉づる様  
 にし外方の境界には高五呎の金網を張る  
 べし此土間に土を盛上げ其周圍三箇所よ  
 り犬の出入し得るの穴を設け三孔の相會  
 する處を稍廣くし犬の自由に廻轉し得る  
 様になすべし而してAなる一室の中には  
 高一呎の處に寢棚を設くべし又A及Y共  
 に隣室との境は高五呎の厚き土壁を以て  
 仕切り互に相見えざる様になすべし犬舎

「テリーヤ」種は一般を通じて同一なる特質を有せり即ち目的物  
 を己れの力の及ぶ限り追迫し之を撃殺せざれば止まざるなり  
 又前種に似て能く穴中に入りて敵を咬撃することなす體軀  
 は小なれども氣象勁健勇敢に耳は聰に眼力敏に鼻感鋭く常に  
 穩和快活にして能く養主に親むが故に狩獵犬として用ひらる  
 るのみならず「ゲームキーパー」(Gamekeeper)として獵場の野鳥を  
 保護せしめ又農夫は鼠を捕ふるに使用す  
 此種には種族少なからざれば左に之を詳説せむ  
 (い)短毛「フォックステリーヤ」(Short coated Foxsterrier) 他と同種類の  
 ものよりも嗅覺鋭敏にして何の狩獵にも適するも今日にて  
 は重に狐獵のみに用ひられ其體形も十六斤より十八斤位の  
 ものを賞用す此「フォックステリーヤ」の歴史は之を三段の時代

に別ち得べし第一は十六世紀に始まり十八世紀の終りまでにして此時代には重に牧畜家及獵場の守衛に使用せられ家畜家禽及野鳥の保護をなし地鼠又は鼬を捕獲するに用ひられ又此時代の終りより漸く狐を追驅するに用ひられたり第二期は「フォクスハウンド」と共に狐獵に用ひられ十九世紀の半頃までに至り而して千八百六十三年「バアミンハム(Birmingham)」の犬の共進會以後盛に世人に紹介せられて大なる賞揚を以て迎へられ注意深き改良を加へられつゝ今日に至れり之を第三期となす

形態は頭部扁たくして較廣く耳邊に至るに従ひて狭まく前額は餘り突出せず耳は頭部の後方に近く着きV字形にして形小に稍厚味ありて前方に屈折せり顎は鼻の先端に至るに



ヤリーテスクツオフ

從ひて尖り、鼻は黒色に、眼は圓く小に稍深くして黒色なり、胸は圓く、背は短く眞直にして強剛に見え、肩は垂直に、頸は細けれども筋肉に富み肩の邊に至るに従ひて漸く太く、胸部に於ける肋骨善く發育し、肢は何れの部より見るも垂直にして踵は地面に近くあり踵より下部は短く且眞直なり、趾は圓形にして堅く稍穹状をなし、駛馳に適せり、尾は歩行するときには高く揚ぐるも背の上に捲上ぐることなし、體毛は短太に稍硬くして密生せり、毛色は純白を最貴べども普通は白黒及黃褐の駁色及白と赤褐の駁色なり

此種一般の姿容は華麗にして小に體緊まり且體の各部善く釣合へり

(ろ)硬毛「フォックスターリヤ」(Roughcoated Foxsternier) 此種は其體毛

粗太針の如くなるの他は短毛種と少しも異なる所なし  
 (は)アイリッシュテリア (Irish terrier) 此種は一千八百七十六年の頃より廣く世界に知らるゝに至れるが其原産地は愛蘭にして愛蘭人の描きし古畫には多く此種の犬を點綴せるを見る此種は其外觀餘り美ならざるを以て愛玩犬には適せざるも體毛粗剛に密生するが故に嚴寒の候といへども能く水中に入るに耐え又體毛の長からざるを以て草叢中に獵するに適し所謂水陸兩用にして忍耐力強く諸種の困難に堪え勇敢にして敵の大小強弱を問はず咬撃するの性を有し銃獵者に取りて最適なる種なりとす加之體毛密生せるが故に能く寒暖何れの氣候風土にも堪え印度及び支那には盛んに飼養せらる

此種往昔は形體の大なるものを賞用し三十斤位のもの多かりしが今日にては二十五斤以下のものを貴べり頭は扁たく兩耳の間狭き方にして眼邊に至るに従ひ漸く狹まれり前額は稍突出し耳は普通截去せらるゝも若し然らざるときは小にしてV字形をなし頬に接して屈まり耳部の被毛は短くして他の部分よりは濃色に見ゆ眼は小にして暗褐色を呈し鼻は黒色にして尖り鼻梁は長し顎は筋肉に富み顔の被毛は體毛と同じけれども較短し口の周邊には細長毛を疎生して鬚の如き觀を呈せり是れ此種の特徴なりとす頸は肩に近づくに従ひて太く其左右兩側に長毛を有して耳朵の邊に及べり肩は長くして斜に胸は深くして筋肉に富み胴は高に比して稍長く前肢は垂直にして後肢は腿部の傾斜餘り甚しからず



踵は地面に近くあり、跗は圓く小に、趾は穹狀をなし、爪は黒色なり、尾は總毛なく眞直にして歩行するに當りては高く揚ぐるも背上に及ばず、尾は普通切斷せらる、體毛は針の如く剛く厚く密生し稍長き方なれども肌膚を隱蔽するに至らず、毛色は赤褐、黃褐、灰色等にして時に白色紋の胸部に現はるゝものあり、體量は十六斤より二十四斤に及び、活潑伶俐且勇敢にして馳走の速度大なるべきの形姿を有す

「テリヤ」種は一般に性質兇暴にして動もすれば人を咬傷するものなるが此種は否らず性質穩順にして決して人に危害を加ふる等のことなく且野に在りて獵するや歩行靜定にして注意深く其敵と闘ふや勇猛比なく實に好個の獸獵犬種に數ふべきものなり

(に)「ホワイト、イングリシテリヤ」(White English Terrier) 體毛純白にして短軟に體軀小にして舉動活潑、性質穩順且勇敢にして姿容華麗なり能く養主の守護を勉め若し他犬が自己の養主に近づき來るあれば縱令其體軀の己より大なるも畏れずして突進之を擊攘す然れども平常は好で闘争するが如きことなし此種は先天的獵を好み念々獵にありて復た他念なきが如きの狀あり嗅覺銳敏にして一たび敵を追躡するや之を屠らざれば止まざるの性を有す之を家内に飼ふときは能く家鼠を捕へ殆んど滅盡するに至らしむ

形態は後項に述ぶる「ブラック、アンド、タン、テリヤ」(Black-and-tan Terrier)と同じくして只其毛色の異なるのみなり、體量は九斤乃至二十斤あり頭は扁にして兩耳の間狭く、鼻梁は細く先

端尖り恰も狐の夫れの如し、顎は筋肉に富み上下顎正しく相合ふを普通とすれども若しも相合はざれば上顎少しく突出せり、眼は小なれども炯々として甚鋭く、兩眼の間凹めり、耳は圓く靜息するの時は聳立し起立すれば垂倒す若し起立せる時にも耳朶の聳立するものは雜種なりとして之を嫌ふ、耳は普通之を切斷す、頸は長くして筋肉に富み頭部に近づくに隨ひて細り、肩は頑丈にして數時間に能く地を穿つに耐ゆ、又其幅廣からずして地中に入るに適せり、胸は圓く、胴は體の高に準じて恰好に腰部善く發育し、前肢は矢の如く垂直に、後肢も亦歪形をなさず、飛節は低く、跗は強剛に、趾は穹狀をなし趾々開き離れて其形圓く狐のものに似たり、尾は根部太く先端に至るに隨ひて細く通常歩行する時には低下せるも少しく激

動するときには高く之を揚ぐ、體毛は滑にして短軟に其色純白なり

(ほ)「エーヤデールテリーヤ」(Airedale Terrier) 體量四十斤より四十五斤あり粗毛醜惡の狀貌一見怖るべきが如きも性質柔順にして勇敢に善く子女の同伴となり又番犬に適す狩獵に伴ふときは能く獸類を捕殺し鳥類を驅出し又水鳥の銃彈により傷けられしものを追躡し水陸兩用の獵犬種たり  
形態は頭部扁たく稍狭くして眼邊に至るに隨ひて漸く狭まり、顎は長く其端方形なり、鼻は黒色に、眼亦黒色にして鋭く、耳はV字形をなして「フォックステリーヤ」の如く前方に屈折し、胸は深くして筋肉に富み、肋骨は圓く、胴短く、背線眞直にして、腰部廣し、後肢は腿部太くして強壯の態を表し、前肢は垂直に、趾

跗は圓くして厚く、尾は太けれども普通之を切断す、體毛は粗にして厚く生じ、毛色黃褐にして頭頂より尾端に通じて濃黒色の幅廣き條暈を見る

(ハ)「スコッチ・テールリヤ」(Scotch Terrier) は近來まで廣く世に知られざりしも蘇格蘭のハイランド地方にては從來獵場の守衛として狐獵に使用せられしものなり然れども其歴史は明晰ならず

一般の形態は「イングリシテールリヤ」に類し體毛は長太にして硬く、首は較長く幅と厚と殆んど相均しく稍圓形にして頭の後方に幅廣く、眼部の邊にては狭し、頭部の被毛は硬くして長六分前後あり、眼は暗褐又黒色にして深幽に兩眼の間隔廣くして少しく窪み、鼻は黒色にして鼻梁長く、顎の先端尖れり、耳

は小にして直立又は半立にして先端尖り、耳朶の被毛は短くして羊毛の如し、頸は短太に、胸部は圓く善く發育し、胴は餘り長からず、四肢共に稍短くして骨太に、前肢は垂直にして趾跗大に、後足肢の趾跗較小なり、四肢の被毛は短くして硬く、體毛は疎生して硬く三吋位の長を有するものと密生せる纖軟なる短毛と相雜はる、毛色は暗灰色又は黒色の單色なるか又は赤褐或は黃褐色の駁色にして白色なるものは稀なり、尾は太くして長約そ七吋許あり、體量十二斤より十四斤あり  
此種は何獵にも適するも水陸の追躡用として殊に適當なり  
又番犬となし愛玩用に供せらる

(ト)「ザウフキンダー」(Saufinder) 又は「ボーアサーチャー」(Boar Searcher) 獨逸に存する大形の粗毛種「テールリヤ」にして深き森林中に猛

獸の巢窟を探索するに用ひらる勇邁猛烈克く闘うて其目的を過らず毛色狼の如く灰褐色にして胸部と頸部とは多少白色斑あり尾は太くして長き總毛を被ふりて背部にまで之を捲き揚ぐ此種は後條に述ぶる「ボメラニヤン、ドツグ」と雜種して其形態を改良せられ且注意深き一の習性を添賦せられしものなり

以上數種の外「テリヤ」種に屬すべきものは「ベドリン、ト、テリヤ」(Bedlington Terrier)「ブル、テリヤ」(Bull-Terrier)「ブラック、ア、ン、ド、タン、テリヤ」(Black-and-tan Terrier)「ヨーク、シャー、テリヤ」(Yorkshire Terrier)「ダン、テイ、モン、ト」(Dandie Dinmont)「スカイ、テリヤ」(Skye Terrier)等あれども其使用の目的異なるにより項を別ちて述ぶる所あるべし

## 第二節 鳥獵犬

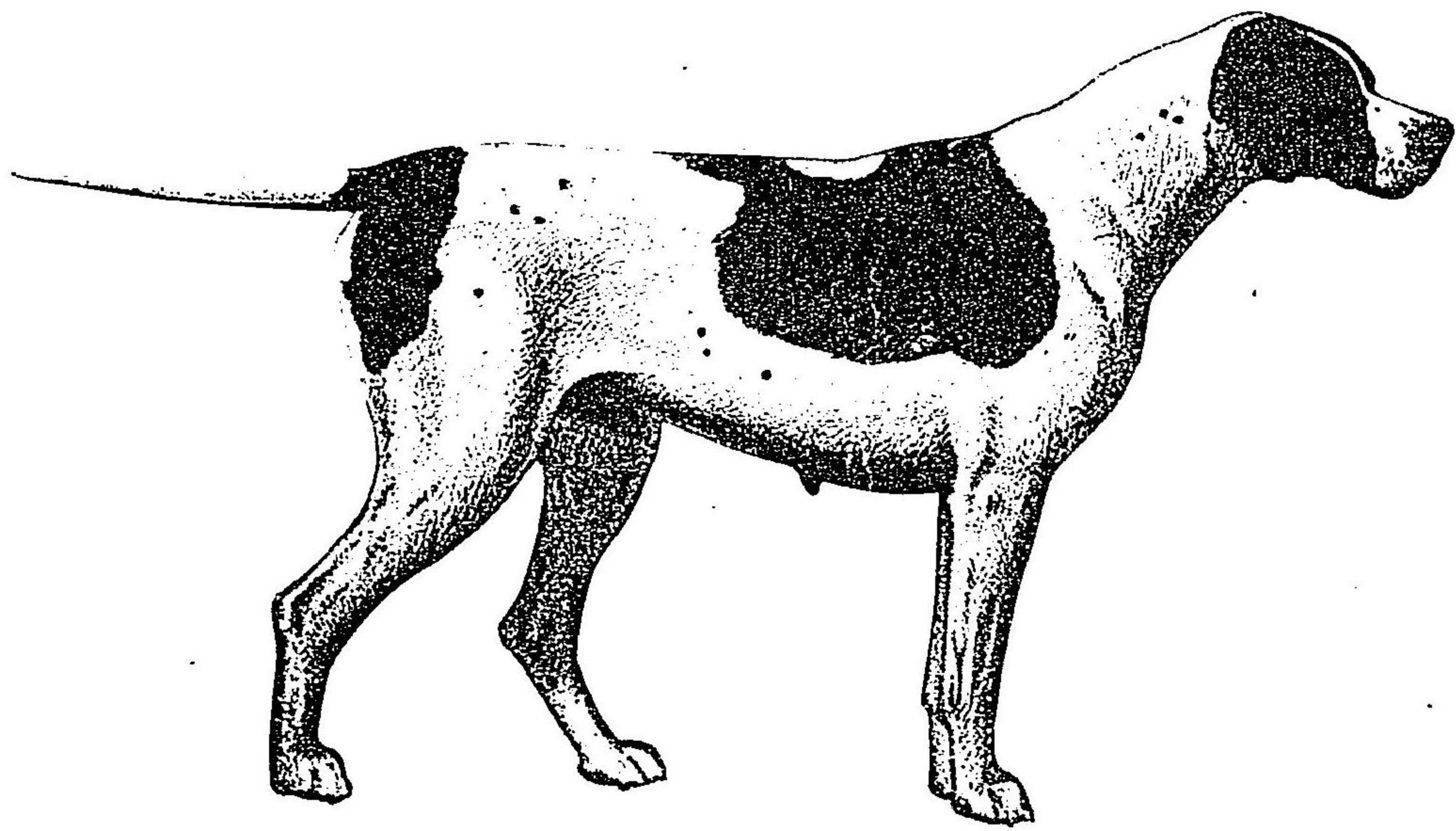
鳥獵犬に屬するものは飛禽の深く草叢荊藎中に潜伏して銃獵者の容易に發見し得ざるものを嗅覺により探知して之を追出し獵者の射撃に適應ならしめ又は彈傷を被ふりて逸走しつゝあるものを追躡捕獲し來る巧妙なる習性的技能を有し又人爲的に其目的に向て淘汰改良せられしものなり

### 一「ポインター」(Pointer)

「ポインター」とは名の示す如く鳥類を其體臭により探知して愈之に接近するや其目的物より一二尺内外の處に停立監視して獵者に指示をなすの特性を有するものなり此種に關する歴史も亦詳明ならずといへども一千五百七十六年ドクトル、カイア

ス (Dr. Caius) により羅甸に於て發行せられたりし犬に關する著述中の分類に此種の名稱を收載せられざるを以て見れば確に其以後に出來し種類なるを知るべし而して此種が英國に入りしは一千六百年に「スパニッシュポインター」(Spanish Pointer) の齎せられしを以て始とす其後十七世紀にノルマン人種侵入の際佛國より「ブレンク」(Breck) なる一種類輸入せられしが該種は短毛にして耳朵長大に能く獵鳥を指示するの特性あり今日の「ポインター」なるものは蓋し是等の種類と他の者との雜種により淘汰繁殖せられしものならむ

(い) フールドスパニッシュポインター (The old spanish Pointer) 此種の英國に入りしは千六十年代にあり地面より肩までの高約そ二十二吋形軀ハウンドに似て首部大に口唇深くして垂下し耳



ポインター

朶薄くして大に其着け根より垂下せり、體毛は短くして滑かに、毛色は暗褐又は赤褐の單色又は赤褐と白或は赤と白又は黒と白の駁色にして時には黒の單色のものあり、尾は細くして鞭の如く、後肢は膝節に於て稍外方に曲り間に距爪を有するものあり、嗅覺鋭敏にして獵鳥に接近するや直に停止して指示をなすの特性あり、是は先天的遺傳ともいふべくして、生後三ヶ月のものにして既に善く此指示をなす、又其體の重大なるが爲に歩行すること緩徐なれば靜かに獵するに適し、専ら鳥獵に用ひられて獸獵には適せず、露西亞には此種に似たる形態のものあれども純粹のものにあらずして此種と他の水犬との雜種に出でたるもの、如く體毛も粗硬にして長し。

(ろ)「ジャアマンポインター」(The German Pointer) 状貌何となく頑強に口唇深くして垂下し、首部大に、頸大く其他の各部の骨格は前種と相似たり且歩行の緩徐なること及獵時の舉動等に見れば明に「スパニシ、ポインター」の種屬たることを證するに足る、毛色は暗赤褐の單色又は白と暗赤褐の駁色なり。前種の如きは専ら鳥獵のみに用ひらるゝものなるも此種は何獵にも適し「ゲブラウフンド」に似たり短毛のものゝと長毛のものとの二種ありて後者は露西亞「ポインター」と血族上の關係あるが如く體長く、被毛粗く、寒暖何れの氣候にも堪へ、嗅覺鋭く勇氣に富み、追躡に巧にして水獺と闘ひて之を屠り、狐狸を數哩の遠きに追躡して之を斃し或は野兎を捕獲し麋鹿の彈創を被ふりて走れるものを追躡する等の特性に至りては

通常の「ポインター」の爲し能はざる所なり故に獨逸にては森林の守護者が此種を使用して巡警せしめ以て密獵者又は盜伐者を逮捕するの助となすものあり

(は)「イングリシ、ポインター」(English Pointer) 此種は前述する如く近世に至りて英國にて「スパニシ、ポインター」より導かれし一の種類にして「スパニシ、ポインター」と英國南方に飼養せらるる「ハウンド」との雜種により生ぜしと云ひ或は「スパニシ、ポインター」と「フォックス、ハウンド」との雜種にして前者の良點に加ふるに後者の勇氣と駛走力とを以てして漸次改良せられたるの結果今日のものを得るに至れりと云へり此後説の假想を以て一般に妥當なりと認めらるゝが如し  
此種は姿容優美にして歩行寛濶に嗅覺鋭敏且正確なり性質

勇敢にして能く諸種の困難に堪え鳥類を嗅出すに執念なり然れども此執念が却て訓練に困難なることあり又數頭を共用するときに當り互に指示を争ひて爲に禽鳥の飛揚を早からしめて射撃の機を失するに至り又は飛鳥を追うて遠く走るの習癖あれども其訓練にして宜を得むか此缺點は直に矯正し得べきなり其嗅覺鋭敏なるを以て鳥類を探求するに足臭に由らず體臭に由りて之を爲すが故に正確にして少しも過らざるのみならず足臭に由るものよりも潜伏せる鳥類を嗅出すこと最も敏速なり又其指示も正確にして長時間之を續け長きは一時間に亘ることあり長時間飲水することなきも亦能く渴に堪ゆ人或は彼れの體毛短く且薄きが故に荆棘中を奔走するに適せざるやに思ふものあれども其體毛の短

薄なるが爲に温暖なる氣候を喜ぶを以て殊に夏日の狩獵に用ふるに適し且他の長毛種の入るを喜ばざる草叢荆棘中にも進入し縱令棘刺の爲に皮膚を傷め血を流すも能く忍耐して獵獲をなすは此種の特長なりとす此種一般の性質として水中に入ること嫌悪し間には雨水の溜溜せるをも恐るゝものあれども仔犬の時よりして適當に訓練するときは冬期と雖も能く河沼に入るを厭はざるに至る

此種の形態に就きて叙述すれば頭部は顛頂骨突起し鼻梁は長くして四吋より四吋四分の三に達し其幅廣く鼻孔濶大に黒色又は暗褐色を呈し顎は其先端角張りて「テ」リヤ種の如く尖らず耳は薄くして幅廣く且長く頭部の下方に近く着き頬に接して垂下し耳部の被毛は短軟なり眼は大き適恰にし



て穩和に見え、口唇は深くして垂下せず、頸は長くして圓く、胸は深く幅狭く腹部に近づくに従ひて斜に其深さを減ず、肩は稍斜に、背は眞直に、腰部は穹状をなし幅廣くして筋肉に富み、腿部は殊に善く發育して太く稍彎曲し、後脚の間隔適恰にして善く跳走し得べきを表し、踵は外方又は内に向ふことなく、脚と同一平面にあり、前肢は眞直にして後肢と共に剛強なり、跗は厚くして圓く、趾は穹状をなすも趾間は餘り離れず、尾は其根部は太きも先端に至るに隨うて細り、長くして宛然鞭の如し歩行する時には背の水平線よりは稍高く之を揚ぐるも決して背の水平線と直角をなすまでに揚ぐるることなし、被毛は短軟にして密生し、毛色は種々あるも最愛好せらるゝものは赤褐と白との駁色又は黄褐と白の駁色にして之に亞ぐは

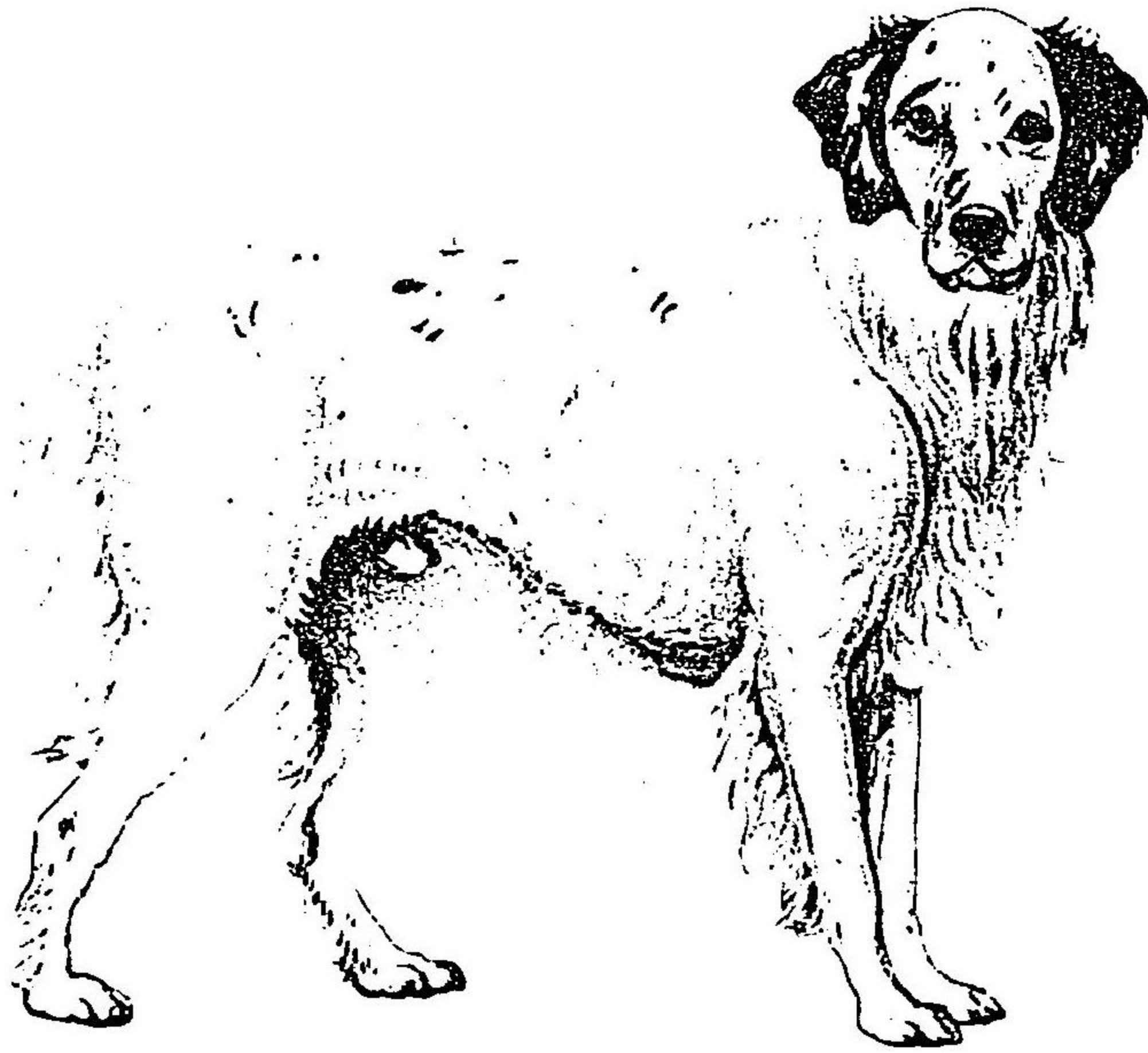
黑白斑又は黒色或は赤褐色等なり、體重は牡は平均五十五斤前後、牝は稍小にして同じく五十斤前後なり、地面より肩先までの高さ牡にありては二十三四吋、牝は稍低し、鼻端より尾の根部までの長三十四五吋あり

## 二「セター」(Setter)

(三)「イングリッシュセター」(English Setter) 此種の起源も亦他種と同じく明晰ならず然れども「スパニエール」より來れることは疑ふべからざるが如し古代のブリトン人(Britons)は鷹を使用して飛禽を捕獲するが爲「ランドスパニエール」(Land Spaniel)又は「ウォータードック」(Water Dog)を用ひて鳥の棲息する處を發見し且之を驅出さしめたりしが鳥類の捕獲に網を用ふるに至りて鳥類を指示する所の犬の必要起り大なる苦心を以て洵

汰改良せられたるの結果遂に獵鳥に近づくや坐止して以て  
 指示する所の犬種を得て鳥類を獵するに之を用ひ犬の指示  
 するや直に其周圍に網を張り犬をして鳥を追起たしめて之  
 を罾したり鷹の使用者も亦之を使用して犬の指示するや直  
 に鷹を放ちて翔らしめ其充分に鳥を捕ふるの構へ熟せるを  
 見て犬に命じて鳥を追起たしめて之を捕ふるに至れり其後  
 銃器の發明せられて銃獵の行はるゝに及び銃獵者も亦之を  
 使用するに至りしなり

此種は「ポインター」と形體略相似て又「ポインター」と同じく體  
 臭によりて鳥類を發見し前述の如く鳥類に近づくや坐止し  
 て以て指示するの特性を有せり「ポインター」と異なりて長毛  
 にして能く水中に入り又荆棘中にも奔走す然れども其體毛



— タツセシラグンイ

の深ふして厚きが故に氣候温暖の地に適せず且「ポインター」の如く水なくして終日獵せしむるときは直に困憊して用をなさざることあり

此種の形態は頭部「ポインター」の如く重大ならずして顛頂骨の突起少なく兩耳の間は狭く、鼻梁は長く且廣く、眼の内側より鼻端までの長四吋以上あり、鼻孔は大にして普通黒色又は暗褐色を呈すれども黄褐色又は蔷薇色なるもの最愛好せらる、耳朶は「ポインター」よりは短くして其先端圓く頬に近く着きて垂下し二吋位の長さ軟毛にて被はる、口唇は深くして垂下せず、口端は方形にあらざるも亦尖れるにあらず、眼は大きく中等にして快活に見え、頸は前種と異なりて幾分か扁たき方にして稍彎曲せり、胸は深くして腹部に近づくに隨ひて漸く

斜に細りて淺くなれり、肩は稍傾斜し、背部は眞直に、腰部稍穹  
 状をなし、腿骨は適好に彎曲して善く跳走し得べきを表し、肢  
 は脚部筋肉に富み骨格充分に發育し、膝節及腫は頑丈にして  
 廣し、距は短く稍斜に、趾は個々離れて其間に多く長毛を生じ  
 濕潤なる地を歩行するに適す、尾は太くして眞直に、尾部の被  
 毛は根部に於ては長くして總毛の如く垂れ先端に至るに隨  
 うて漸く短し、體毛は長くして細軟且平滑なり、四肢の後側及  
 腹部の左右に於ける下方には總毛を見る、毛色は黒白斑、橙黃  
 と白の駁色、淡黃と白の駁色、赤褐色と白紋又は白色に黃褐色  
 の細點散在するもの或は白色に赤褐色の細點あるもの又は  
 純白、純黒及純赤褐色等あり

(ろ)「アイリシ、セッター」(Irish Setter) マックス、ウエンチエル氏(Max Wen-

chel)の説に従へば此種は「レッド、スパニエール」と「イングリシ、ブ  
 ラッドハウンド」とを雜種して生ぜしものなり、即ち體毛及毛色  
 は前者に似て、顛頂骨の突起せる、耳朵の長く垂下せる及口唇  
 の深き其他音聲、歩行時の尾の姿勢等は後者に似たるを以て  
 證すべしと

形態は首部細長にして頭は卵形に、顛頂骨善く發育して隆起  
 し、前額突起して鼻部と段階をなし、眼は大き尋常に褐色を帶  
 びて穩和に見え、鼻梁は長くして幅廣く鼻は暗褐色を呈す、口  
 端方形にして口唇は深きも垂下せず、耳は頭の下部に近く後  
 方に着き頬に接して長く垂下し、頸は稍長く筋肉に富めるも  
 頑強の看なく、體は比較的長く、肩は稍斜に、胸は深くして腹部  
 に近づくに隨ひて斜に淺くなれり、腰は肥大にして穹状をな